

コロンビア国  
国内避難民等社会的弱者に対する  
栄養改善プロジェクト  
中間評価調査報告書

平成21年2月  
(2009年)

独立行政法人 国際協力機構  
農村開発部

農村
JR
09-23

**コロンビア国**  
**国内避難民等社会的弱者に対する**  
**栄養改善プロジェクト**  
**中間評価調査報告書**

平成21年2月  
(2009年)

独立行政法人 国際協力機構  
農村開発部

## 序 文

独立行政法人国際協力機構は、コロンビア国政府からの技術協力の要請に基づき、平成 18 年 5 月 31 日から平成 21 年 5 月 30 日までの予定で、技術協力プロジェクト「コロンビア国国内避難民等社会的弱者に対する栄養改善プロジェクト」を実施しています。

今般、同プロジェクトの中間時点での成果の達成状況を確認するとともに、事業実施上の問題点と課題を明らかにし、プロジェクト後半の活動に向けた提言を行うことを主たる目的として、平成 20 年 5 月 18 日から同年 5 月 30 日まで当機構農村開発部畑作地帯第一課長 佐佐木 健雄を団長とする中間評価調査団を派遣し、中間評価調査を実施しました。

本報告書は、当該調査の結果をまとめたものです。この報告書が、本協力の成果発現に向けた取り組みに役立つとともに、コロンビア国の開発並びに両国の友好・親善の一層の発展に寄与することを期待いたします。

終わりに、本調査実施にご協力とご支援をいただいた関係者の皆様に対し、心から感謝申し上げます。

平成 21 年 2 月

独立行政法人国際協力機構  
農 村 開 発 部  
部 長 小 原 基 文



# 目 次

序文	
目次	
写真	
プロジェクト位置図	
略語表	
評価調査結果要約表	
第1章 中間評価の目的	1
1-1 目的	1
1-2 方法	1
第2章 プロジェクトの実績と実施プロセス	4
2-1 投入	4
2-2 活動	5
2-3 成果	5
2-4 実施プロセス	5
第3章 評価結果	6
3-1 妥当性	6
3-2 有効性	7
3-3 効率性	8
3-4 インパクト	8
3-5 自立発展性	9
第4章 結論	11
第5章 教訓と提言	12
5-1 教訓	12
5-2 提言	13
第6章 合意事項	16
添付資料	17
1. 評価日程	19
2. PDM Ver.1	21
3. 投入実績表	23
4. 活動実績表	27

5 . PDM Ver.2 (Final 案) . . . . .	31
6 . 評価グリッド (実績、実施プロセス、評価 5 項目) . . . . .	33
7 . ミニッツ・中間評価報告書 (西文) . . . . .	45

## 写 真



(1)都市農業の野菜栽培方法展示（場所：植物園内の専門家執務室脇）



(2)エントレヌベ公園内の都市農業プロジェクト展示圃場



(3)エントレヌベ公園内の都市農業プロジェクト展示圃場



(4) エントレヌベ公園内の  
都市農業プロジェクト参  
加者用圃場



(5) 都市農業プロジェクト  
参加者の自宅テラスでの  
野菜栽培 (エントレヌベ公  
園)



(6) 都市農業プロジェクト  
展示圃場





(7) 合同評価委員会の様子



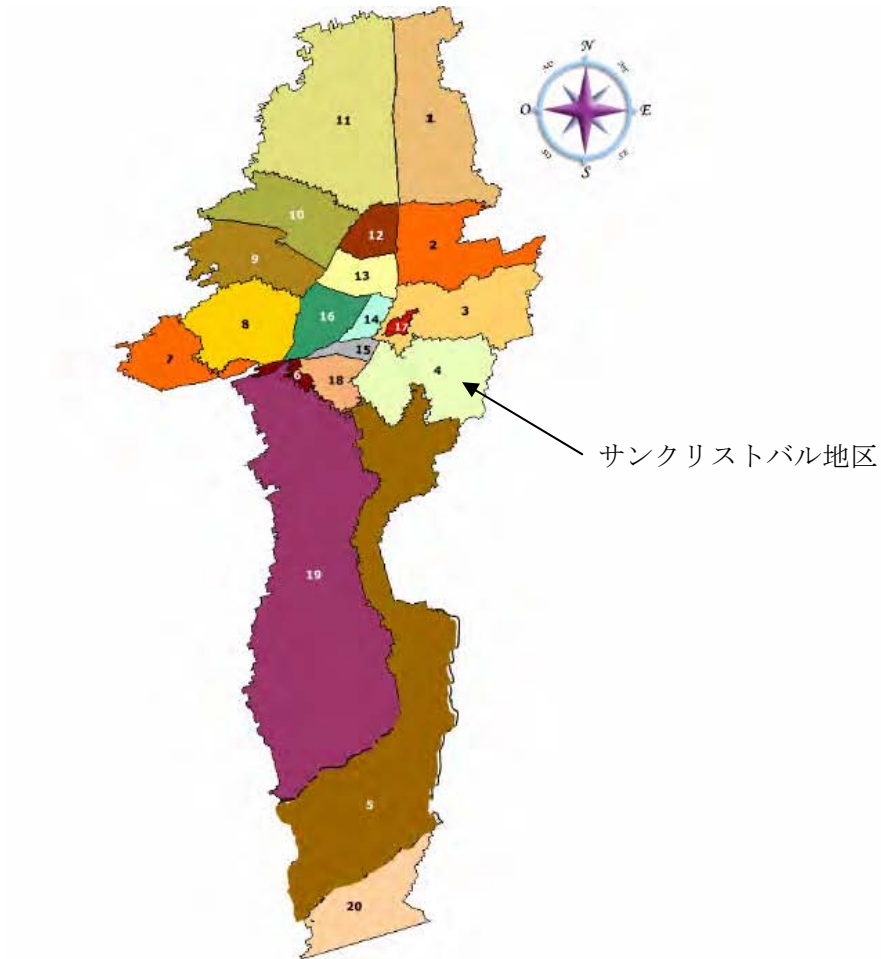
(8) 合同調整委員会でのミ  
ニッツ署名

# プロジェクト位置図

コロンビア国



ボゴダ市



## 略 語 表

C/P	Counterpart Personal	カウンターパート
COHDES	Consultaria para los Derechos Humanos y el Desplazamiento	人権保護団体
COP	Colombia Peso	コロンビアペソ
INS	Instituto Nacional de Salud	国家保健機関
JBB	Jardin Botanico de Bogota	ボゴタ市植物園
JICA	Japan International Cooperation Agency	独立行政法人国際協力機構
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
PLSD	Participatory Local Social Development	参加型地域社会開発
PO	Plan of Operation	活動計画
PROETTAPA	—	グアテマラ国 高原地域先住民等小農生活改善に向けた農業技術普及体制構築計画
R/D	Record of Discussion	討議議事録
RESA		社会行動と国際協力のための大統領機構
SP	Social Preparation	社会準備
SW	Social Worker	普及員



## 評価調査結果要約表

<b>1. 案件の概要</b>	
国名：コロンビア国	案件名：国内避難民等社会的弱者に対する栄養改善プロジェクト
分野：農業開発	援助形態：技術協力プロジェクト
所轄部署：農村開発部	協力金額（評価時点）：412,775,743COP (24,259,521 円相当：2008 年 3 月 31 日現在)
協力期間	(R/D)：2006.5.31～2009.5.30 (延長)： (F/U)：
	先方関係機関：ボゴタ市植物園
	日本側協力機関：なし
	他の関連協力：なし
<b>1-1 協力の背景と概要</b>	
<p>コロンビア国（以下、コ国）では、左翼系ゲリラ組織、極右民兵組織、国軍との間で過去 40 年間にわたり内戦状態が続いている。現ウリベ政権は、治安回復を政策の重要テーマとして位置づけ対策に取り組んでおり、その結果、主に地方部において左翼ゲリラ、極右民兵組織の対立及び各組織と国軍との衝突が激化し、地方部の農民や社会的弱者が故郷や土地、財産を捨て、安住の地を求め国内避難民化している。避難民の数は年々増加しており、人権保護団体である Consultaria para los Derechos Humanos y el Desplazamiento (COHDES) の発表では、1985 年から 2005 年 9 月末までに発生した国内避難民数は約 360 万人であり、一方、大統領府が 2005 年 11 月末までに避難民登録した人数は約 170 万人である。</p> <p>政府発表では、登録者の内約 10 万人がボゴタ市に避難している。ボゴタ在住の避難民は、社会的弱者が集まる南部に住んでいるものが多く、特に今回プロジェクトサイトに選定されたサン・クリストバル地区は、ボゴタ市にある 20 の居住地区の中でも、避難民の数が 5 番目に多い地区である。当該地区において、避難民を含む社会的弱者の栄養状況は一般的に悪く、サン・クリストバル地区ではボゴタ市がコミュニティ・キッチンなどを通じて栄養改善に取り組んでいる。また、ボゴタ市植物園は自給自足を目的とした都市農業普及プロジェクトを 2004 年から 2008 年の予定で実施している。</p> <p>かかる状況下、コ国政府は日本国政府に対し、コミュニティ・エンパワーメントを通じ、都市農業の技術普及支援を目的としたプロジェクトに対する協力を要請した。この要請を受けて JICA は、ボゴタ市植物園（以下、JBB）を実施機関とした技術協力プロジェクトを 2006 年 6 月から 3 年間の予定で開始した。</p>	
<b>1-2 協力内容</b>	
(1) 上位目標	
都市農業の強化を通じて、ボゴタ市の国内避難民を含む社会的弱者の栄養摂取状況が改善される。	
(2) プロジェクト目標	
都市農業の強化を通じて、サン・クリストバル区の国内避難民を含む社会的弱者の栄養摂取状況が改善される。	
(3) 成果	
1) ボゴタ市植物園の都市農業に関わる能力が強化される。	
2) 住民及び住民組織の都市農業に関わる能力が強化される。	
3) 住民の栄養改善に関わる関係機関が共同して、都市農業普及事業を実施する。	
(4) 投入（評価時点）	
・日本国側	
長期専門家：1 分野（コミュニティ・エンパワーメント/業務調整） 1 名	
本邦研修：3 名	
機材供与：プロジェクト車両 1 台、コンピュータ、プリンタ、コピー機、研修棟等	
281,736,443.00 コロンビアペソ（以下、COP）	
(16,558,122 円相当：2008 年 3 月 31 日現在)	
現地活動費：活動経費等	
131,039,300.00COP	
(7,701,399 円相当：2008 年 3 月 31 日現在)	
・相手国側	

ローカルコスト負担：一般業務費、資機材購入、燃料費、人件費等 570,809,396.00COP (33,547,422 円相当：2008 年 3 月 31 日現在)		
<b>2. 評価調査団の概要</b>		
調査者	総括：佐佐木 健雄 評価計画：鈴木 央	JICA 農村開発部畑作地帯第一課長 JICA 農村開発部畑作地帯第一課 職員
調査期間	2008.5.18～2008.5.30	評価種類：中間評価
<b>3. 評価結果の概要</b>		
<b>3-1 実績の確認</b>		
<p>栄養改善分野の成果を除くならば、成果 1 については成果が順調に産出されており、また成果 2 については数値では確認できないものの現場で都市農業が実践されていることが確認できたことから概ね順調に進捗していることが推定される。成果 3 については、計画変更後は順調に進捗しており、特段の問題は見受けられない。以上のように成果はそれぞれ順調に産出されている。</p>		
<b>3-2 評価結果の要約</b>		
(1) 妥当性		
<p>本プロジェクトのプロジェクト目標及び上位目標は、コ国政府の国内避難民支援対策と合致しており、また同時に日本の開発援助方針にも沿ったものである。また、本プロジェクトの提供する技術は C/P 機関である植物園の技術的ニーズを満たすものであり、その妥当性は高いと言える。一方、ターゲットグループの課題は、栄養改善にあったが、本プロジェクトのプロジェクト目標で達成すべき「都市農業の普及を通じた野菜の消費量と種類の増加」は住民（社会的弱者）の課題解決に貢献はするものの、栄養改善に関する課題を解決するには十分ではなかったと言える。</p>		
(2) 有効性		
<p>本プロジェクトの有効性は、概ね高いと言える。既に、都市農業を行っている住民とそうでない住民との間には、消費する野菜の種類、栽培面積に差が出ていることが報告されている。その一方で、栄養改善分野への投入が確保できなかったため、同分野での成果の産出が十分ではない。2008 年になってからは、C/P 機関である JBB が栄養改善分野の担当者を雇用したこと、また、国家保健機関からも継続的な支援を得られる体制ができつつあることから、この問題はほぼ解決したと言える。</p>		
(3) 効率性		
<p>本プロジェクトにおいて効率性は、概ね確保されていると言える。栄養改善分野を除けば、プロジェクトの成果産出は順調である。そのため、投入の質・量・タイミングについても特段問題はないと言える。また、関係機関との連携により、支援体制を築けていることも効率性の向上に寄与していると言える。</p>		
(4) インパクト		
<p>今回の調査では、上位目標の達成度の見込みを確認することができなかったが、プロジェクトのインパクトが、上位目標達成に貢献するだろうことが確認できた。また、本プロジェクトの特筆すべきインパクトとして、社会統合が上げられる。このインパクトの発現については、今回訪問した全ての機関から確認できたほか、中には本プロジェクトの最も大きい成果であると評価する機関もあった。技術面においては、今回導入した参加型地域社会開発が高い評価を受けた結果、都市農業プロジェクトだけでなく、他の事業でも活用される見込みとなっている。</p>		
(5) 自立発展性		
<p>本プロジェクトの自立発展性は、現時点においては確保されている。ボゴタ市及びサン・クリストバル区のいずれの政策においても、都市農業が政策に取り込まれる見込みであり、今後継続的に予算を確保できる見込みである。また、住民の都市農業へのモチベーションは高く、また都市農業に参加することで社会統合面でのメリットを受けられることから、今後も継続していくと考えられる。</p>		
<b>3-3 結論</b>		
<p>本プロジェクトのプロジェクト目標は、コ国政府の国内避難民支援政策と合致しており、本件実施の妥当性は高いと思われる。しかしながら、プロジェクトデザイン上の問題から、ター</p>		

ゲットグループの課題「栄養改善」の解決に貢献はしているものの、課題に直接働きかけて解決できるアプローチにはなっていなかった。

成果の産出もほぼ問題なく、これまでプロジェクト実施上の課題とされてきた栄養改善分野への人材投入及び支援体制を確保できたことから、今後プロジェクト目標の達成が促進されるものと思われる。

また、本プロジェクトで特筆されるべきは、インパクトとして発現した地域社会における社会統合効果である。国内避難民や貧困層の多いサン・クリストバル区で、家族内及び住民同士の関係付けの強化、「良き市民」としての行動規範の習得等のインパクトが発現したことは、地域の治安向上、コミュニティのエンパワーメントに大きく寄与したと言える。

また、市、区、住民の都市農業へのモチベーションは高く、政策にも都市農業が取り入れられていることから、現時点における本プロジェクトの持続発展性に対する懸念は小さい。

### 3-6 提言（当該プロジェクトに関する具体的な措置、提案、助言）

#### (1) ターゲットグループの整理

本プロジェクトのターゲットグループは、「サン・クリストバル区の国内避難民を含む社会的弱者」であるが、都市農業プロジェクトに参加し、都市農業を行うためには定住している必要がある。避難生活を始めたばかりの国内避難民は、特定の住居を持たず転々とした生活を送る特徴を有することから、この避難民グループにプロジェクトがアクセスすることは難しい。そのため、本プロジェクトで対象となる国内避難民は、転々とした生活を脱し定住生活を営み始めたグループとする。

#### (2) 「栄養改善」の定義

プロジェクト関係者間で、プロジェクト目標「栄養摂取改善」の解釈について差異があり、プロジェクト目標と成果「1. ボゴタ市植物園の都市農業に関わる能力が強化される。」、「2. 対象住民の都市農業に関わる能力が強化される。」、「3. 区の都市農業活動の持続性を確保するために、コミュニティにおける組織枠組みが強化される。」との関係が明らかでなかったため、成果1及び成果2の活動内容に変更はないが、表現を適切にし、それぞれの成果に適切に位置付け直すこととする。本プロジェクトでは、「栄養改善」は、研修、生産、食料栄養教育を含む、総合的な都市農業戦略を実施することにより、対象住民の消費する野菜の量と種類が増加することと定義する。

#### (3) 人員の確保

プロジェクトスタッフ（普及員、技術者）が、全員有期限スタッフであることから、事業の持続性を担保する観点から、JBBは、リーダー的な人材に関しては継続雇用を行うようにする。

#### (4) 住民参加型都市農業モデルの普及

サン・クリストバル地区での住民参加型都市農業は根付きつつあるが、市内の他地区に普及するように計画された、JBBでのプログラムをコ国側で着実に実施する必要がある。それゆえ、JBBはAction SocialのRESAと協議し、今後同プロジェクトをモデルとしてボゴタ市で実施されている、その他のプロジェクトへ展開し、フォローアップしていくことを検討する。また、同時に、RESAは、全国的に展開するための、パイロット的な適用について検討する。

#### (5) 部分的な栄養改善から本格的な栄養改善へ

プロジェクト目標で達成すべき「都市農業の普及を通じた野菜の消費量と種類の増加」は、住民（社会的弱者）の課題解決に貢献はするものの、栄養改善に関する課題を解決するには十分ではない旨、(1) 妥当性の項で指摘しているが、社会的弱者の栄養状態は、ビタミンやミネラルの摂取が不足していることに起因するものである。このため、都市農業で生産した野菜の摂取を通じてビタミンを摂取することは有効な手段だと考えられるが、家庭菜園レベルの都市農業では、その絶対量において不足分を補い得ることは難しい。

都市農業が住民主体で育ちつつあるので、次の段階としては少し大きな面積を確保した農業へ移行する必要がある。今回の都市農業の技術に加え、遊休地をうまく活用した規模の大きな農業への移行を検討する必要がある。

#### (6) 野菜消費に関する現在の栄養状態診断として、ベースライン調査を活用する

現在INS（国家保健機関）が、プロジェクトの活動として、サン・クリストバル地区他のベースライン調査を実施しているが、これまで野菜の消費に関して具体的にどのような栄養の問題があるか、数字上のデータとして抑えられてこなかったことから、この情報が得られれば、INS側で確立している技術に基づき検証することで、将来の活動を定めることが可能になる。

これにより、栄養改善のためにどんな栄養をどの作物から、どの位の量を摂取して栄養改善をするという目標が設定できる。今回調査の中で「栄養改善」の目標が打ち出せれば、奨励する作物、奨励する料理、調理法が明確になり、栄養改善に向けたより具体的な活動が可能となる。

(7) JBB による栄養改善に関する情報整理

JBB には、活動実施前後の栄養状態の比較を示す根拠となる情報があり、また、ボゴタ市には、都市農業プロジェクトを通じて住民の栄養状態を改善した経験があるが、いずれも文書化されていないため、JBB は、関係機関の協力を得て、これら有益な情報を整理する必要がある。

(8) プロジェクト目標達成に貢献する栄養関連機関や組織の明確化

プロジェクト目標達成のために、JBB の活動を補足できるような、栄養関連に経験のある機関や組織があり、これらと協力関係を結ぶことが望ましい。

(9) JBB 内の決定採択の流れを確立する

プロジェクト目標達成を有効に行うためには、JBB 内の意思決定採択の流れを整理し、確立する必要がある。

(10) プロジェクトを通じて実施された、研修コースや活動の結果を、文書化し共有化する

研修で得られた知識・経験を、コ国の公的機関が導入している品質改善基準に則り、文書化し共有化する。また、規則や法的制限（契約に記載する等）を設けることにより、これが実際に確実に行われるようにする。

(11) インパクト評価の際に、支出の使途を考慮する

都市農業を実施することにより、裨益世帯の支出の使途が変わる（間接的な収入増）ことも考慮した上で、社会経済的インパクトを分析する必要がある。

(12) 総合的アプローチとインパクト強化のため、食料栄養教育に関わるコンポーネントを確立する

国立栄養研究所がプロジェクトに参加することになったことから、JBB は、食料栄養教育の目的、手法、得られる成果等、具体的にコンポーネントを確立することができる。同機関から JBB に研修が実施されれば、普及員や技術者が栄養関係の活動を実施できるようになる。

(13) PDM の改訂

今回の評価結果を踏まえて、PDM の成果 2 と成果 3 につき、以下のとおり変更する。

・成果 2

2008 年 3 月に実施された調査において、都市農業プロジェクトに参加した住民と都市農業を行っていない住民とでは、その栽培面積に 7% 強の差があるという結果が出ている。PDM1 では、成果 2 の指標を「プロジェクト終了までに受益者家庭の栽培面積が 15% 増加する。」としたが、この調査結果の数値を踏まえ、「ベースライン調査によって特定される対象住民の栽培面積が 10% 上昇する。」に再設定する。

・成果 3

成果 3 は、活動の持続性を担保することを目的としており、当初は JBB が栄養改善活動を実施できなくなった場合には、他の関連機関が栄養改善活動をフォローできる仕組みを作ることを予定していた。

当初、貧困層向け住宅金庫 (Caja de Vivienda Popular) と公立病院が都市農業活動をしているという情報を得ていたため、両機関と連携した活動を予定していた。しかしながら、その後、住宅局は都市農業活動を行っていないことが確認され、また病院も都市農業活動を中止したことから、両機関との連携が事実上不可能となり、成果 3 の内容を変更せざるを得なくなった。上述の事態を受け、当初計画の代替として、円卓会議を強化し、活動の持続性の担保を図ることを成果 3 として設定した。これにより、住民と行政機関の関係が強化され、住民に必要な支援が行政から得られる仕組みが構築されることになる。

なお、変更後の成果 3 及びその指標は以下のとおりとする。

成果 3 区の都市農業活動の持続性を確保するために、コミュニティにおける組織枠組みが強化される。

指標 サン・クリストバル区にて開催される円卓会議に、10 以上の住民組織が参加し、年間 6 回以上開催される。

### 3-7 教訓 (当該プロジェクトから導き出された他の類似プロジェクトの発掘・形成、実施、運営管理に参考となる事柄)

(1) 参加住民が必要としていた安全な野菜を、都市農民が有する狭い土地、借用できる狭隘な



土地で生産する技術を提供するとともに、隣人同士のコミュニケーション作りのきっかけを今回のプロジェクトで提供出来た。本当のニーズを拾い上げることと、ニーズに沿った協力を適切に実施することが、住民の参加を喚起し、自立発展性を確保する上で重要である。

(2)また、これまで住民に関係の薄かった区庁等行政機関と円卓会議を通じてコミュニケーション出来るようになり、住民の意見が行政に反映されるボトムアップの仕組みが実効的に生まれた。これは、円卓会議が住民主体で実施されるようになるまで、プロジェクトが導いたこと、区庁、JBB 普及員が住民の声を行政につなげることを意識したことによる。

(3)住民が普及員とのつながりの中で、自分たちの意見が活動に反映されることを知ったこと、野菜等自分たちが作った健康な食物を食べられるようになったこと、隣人とのコミュニケーションが進んだこと、県庁等コミュニティとの関係が出来たことによって、住民がグループ活動を推進するインセンティブが生まれた。

(4)農業経験者の多い避難民地区だったことから、都市農業を受け入れ易い素地があった。

(5)目的が安全で品質の高い野菜を作り、摂取することが自らの健康の増進に繋がるという単純で明快な方向性が住民に受け入れやすかった。

(6)参加型社会開発 (PLSD) では Social Preparation (SP : 社会準備) に時間を要するが、今回のプロジェクトも SP に時間を要している。コ国の場合、参加型の行政運営を取り入れるという方針があり、JBB のスタッフである普及員 (Social Worker) と技術員を軸として、本プロジェクトを実施したことから、かなり PLSD を受け入れる素地があったと考えられる。したがって、他の地域や国において PLSD を活用した案件を実施する際には、準備フェーズを設ける等、相手国当該地域の状況を十分に把握し、協力の戦術を練り上げる必要がある。

(7)多くの協力がそうであるように、「社会の自立」を最終目的とするような案件では、本プロジェクトが適用した PLSD の考え方が有効に作用すると考えられる。特に、ターゲットグループの、家庭内及び住民同士の関係付けの強化、「良き市民」としての行動規範の習得等のインパクトを発現しつつあると判断できるところ、その有効性、問題点を確認しつつ、他の案件でも適用を検討する必要がある。



# 第 1 章 中間評価の目的

## 1-1 目的

コロンビア国（以下、コ国）では、左翼系ゲリラ組織、極右民兵組織、国軍との間で過去 40 年間にわたり内戦状態が続いている。現ウリベ政権は治安回復を政策の重要テーマとして位置づけ対策に取り組んでおり、その結果、主に地方部において左翼ゲリラ、極右民兵組織の対立及び各組織と国軍との衝突が激化し、地方部の農民や社会的弱者が故郷や土地、財産を捨て、安住の地を求め国内避難民化している。避難民の数は年々増加しており、人権保護団体である Consultaria para los Derechos Humanos y el Desplazamiento (COHDES) の発表では、1985 年から 2005 年 9 月末までに発生した国内避難民数は約 360 万人であり、一方大統領府が 2005 年 11 月末までに避難民登録した人数は約 170 万人である。

政府発表では、登録者のうち約 10 万人がボゴタ市に避難している。ボゴタ在住の避難民は社会的弱者が集まる南部に住んでいるものが多く、特に今回プロジェクトサイトに選定されたサン・クリストバル地区は、ボゴタ市にある 20 の居住地区の中でも、避難民の数が 5 番目に多い地区である。当該地区において、避難民を含む社会的弱者の栄養状況は一般的に悪く、サン・クリストバル地区ではボゴタ市がコミュニティ・キッチンなどを通じて栄養改善に取り組んでいる。また、ボゴタ市植物園（以下、JBB）は自給自足を目的とした都市農業普及プロジェクトを 2004 年から 2008 年の予定で実施している。

かかる状況下、コ国政府は日本国政府に対し、コミュニティ・エンパワーメントを通じ、都市農業の技術普及支援を目的としたプロジェクトに対する協力を要請した。この要請を受けて、JBB を実施機関とした技術協力プロジェクトを 2006 年 6 月から 3 年間の予定で開始した。

JICA は、2008 年 5 月 18 日から 2008 年 5 月 30 日にかけて中間評価調査団を派遣し、協力開始から 2 年経った現時点における中間評価をコ国側と合同で実施した。本評価の目的は以下のとおり。

- (1) これまでの投入、活動、成果を確認し、計画と比較する。
- (2) 評価 5 項目の視点からプロジェクトを評価する。
- (3) プロジェクト残り期間に向けた提言を行う。

## 1-2 方法

### (1) 評価委員

プロジェクトの評価は、日本国側調査団 2 名とコ国側 4 名の評価委員による合同評価で行われた。評価委員は以下のとおり。

（日本国側評価委員）

	担当分野	氏名	所属
1	総括/団長	佐佐木健雄	JICA 農村開発部 畑作地帯グループ畑作地帯第一課 課長

2	評価計画	鈴木央	JICA 農村開発部 畑作地帯グループ畑作地帯第一課 職員
---	------	-----	-------------------------------

(コ国側評価委員)

1	Germán Bueno	ボゴタ市植物園 都市農業プロジェクトコーディネーター (Coordinador Agricultura Urbana, Jardín Botánico de Bogotá)
2	Carolina Avellaneda	社会行動と国際協力のための大統領機構：食糧安全保障ネットワーク (RESA) アドバイザー (Asesora ReSA, Accion Social)
3	Liliana Ramírez	ウスメ区都市農業プロジェクトコーディネーター(ロサリオ大学：Universidad de Rosario)
4	Yibby Forero	栄養グループコーディネーター (国家保健機関) (Coordinadora Grupo de Nutrición, Instituto Nacional de Salud)

## (2) 評価スケジュール

中間評価スケジュールの詳細は、付属資料 1「評価日程」のとおり。

## (3) 評価方法

評価手法は JICA 事業評価ガイドラインに基づき、プロジェクトの計画と実績を比較し、評価 5 項目（妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性）の視点から評価を行うこととした。

情報及びデータ収集は、プロジェクト報告書等の既存資料及び関係者からのインタビューによって行った。

収集した情報は、まず日本側評価委員によって取りまとめられ、その後評価委員全員で評価を行った。

本評価調査では、第一回合同運営委員会で承認された PDM Ver.1 に基づいて評価デザインを確定し、調査を実施した。PDM Ver.1 の概要を以下に示す（付属資料 2「PDM Ver.1」参照）。

プロジェクト要約	指標
上位目標 都市農業の強化を通じて、ボゴタ市の国内避難民を含む社会的弱者の栄養摂取状況が改善される。	2014 年までに、ボゴタ市の貧困者居住区 (estrato 1, 2 及び 3) 住民の消費する野菜の量が 3%増加する。

<p>プロジェクト目標</p> <p>都市農業の強化を通じて、サン・クリストバル区の国内避難民を含む社会的弱者の栄養摂取状況が改善される。</p>	<p>プロジェクト終了時までには、受益者の消費する野菜の種類及び量が 10%増加する。</p>
<p>成果</p> <p>1. ボゴタ市植物園の都市農業に関わる能力が強化される。</p>	<p>1. 2008 年に、ボゴタ市都市農業栽培マニュアル 1 種及び都市農業普及マニュアル 1 種が作成される。</p>
<p>2. 住民及び住民組織の都市農業に関わる能力が強化される。</p>	<p>2. プロジェクト終了までに受益者家庭の栽培面積が 15%増加する。</p>
<p>3. 住民の栄養改善に関わる関係機関が共同して、都市農業普及事業を実施する。</p>	<p>3. 住民の栄養改善に関わる公的機関が都市農業の普及活動に人員を派遣する。</p>

## 第 2 章 プロジェクトの実績と実施プロセス

### 2-1 投入（詳細は、付属資料 3「投入実績表」参照）

#### 2-1-1 日本国側投入実績

##### (1) 専門家派遣

本プロジェクトにおいて、中間評価までに派遣された長期専門家は「コミュニティ・エンパワーメント/業務調整」専門家 1 名で 1.97 人月の投入であった。

##### (2) 研修実績

本プロジェクト期間中に、これまで合計 3 名のカウンターパート（以下、C/P）が本邦研修に派遣された。研修コースと派遣された人数は以下のとおりである。

研修コース名	派遣人数
集団研修「参加型地域社会開発の理論と実践」	2
地域別研修「小規模農民支援有機農業普及手法（中米カリブ地域コース）」	1

##### (3) 機材供与

2006 年から 2007 年度分までの日本国側の機材供与の実績は合計 COP 281,736,443.00(16,558,122 円相当 5 月 18 日為替レート 100 円=COP 1,701.50)である。主な供与機材は、プロジェクト車両 1 台、コンピュータ、プリンター、コピー機などが上げられる。その他、機材供与費で、JBB 内に研修センターを建築した。

##### (4) 在外事業強化費

2008 年 3 月末時点で、日本国側の在外事業強化費として合計 COP 131,039,300.00 (7,701,399 円相当) がプロジェクトの活動のために投入された。

#### 2-1-2 コ国側投入実績

##### (1) コ国側予算

2007 年 12 月末時点で、コ国側の負担経費として合計 COP 570,809,396.00 (33,547,422 円相当) がプロジェクトの活動のために投入された。

##### (2) C/P の配置

2007 年 3 月時点までのコ国側 C/P の配置人数は 14 人である。全員が JBB の都市農業プロジェクトのスタッフである。その内、7 名はサン・クリストバル区チームに配置されている。

本プロジェクトは都市農業プロジェクトを支援するプロジェクトであるため、C/P 業務は本来業務と重複している。

## 2-2 活動（詳細は、付属資料3「投入実績」参照）

プロジェクトの活動は、成果1と成果2については概ねPDM及びPOに沿った形で実施された。成果3については、当初連携を予定していた組織との共同活動が困難になったことから、計画を変更して実施した。

## 2-3 成果（詳細は、付属資料6「評価グリッド（実績）」参照）

栄養改善分野の成果を除くならば、成果1については成果が順調に産出されており、また成果2については、数値では確認できないものの現場で都市農業が実践されていることが確認できたことから、概ね順調に進捗している。成果3については、計画変更後は順調に進捗しており、特段の問題は見受けられない。

以上のように、成果はそれぞれ順調に産出されている。

## 2-4 実施プロセス（詳細は、付属資料6「評価グリッド（実施プロセス）」参照）

本プロジェクトの実施プロセス・実施体制に関係し、特にプロジェクトの進捗に影響を及ぼした事項を以下に記載する。

プロジェクト実施の決定採択プロセスが確率されていなかったため、活動実施が遅滞した。この影響として、プロジェクト活動が遅滞し、C/Pの業務意欲が減退し、技術移転を受けたJBB職員が退職する等のマイナスの影響が観察された。

## 第3章 評価結果（詳細は、付属資料6「評価グリッド」参照）

### 3-1 妥当性

本プロジェクトのプロジェクト目標及び上位目標は、コ国政府の国内避難民支援対策と合致しており、同時に日本国の開発援助方針にも沿ったものである。また、本プロジェクトの提供する技術はC/P機関であるJBBの技術的ニーズを満たすものであり、その妥当性は高いと言える。一方、ターゲットグループの課題は栄養改善にあったが、本プロジェクトのプロジェクト目標で達成すべき「都市農業の普及を通じた野菜の消費量と種類の増加」は、住民（社会的弱者）の課題解決に貢献はするものの、栄養改善に関する課題を解決するには十分ではなかったことから、プロジェクトデザインが必ずしも適切ではなかったと言える。以下に、具体的な説明を付記する。

#### <コ国の国内避難民支援対策との整合性>

コ国政府は、貧困問題とそこから派生する問題の解決及び国内避難民に対する支援を、重要課題としており、1997年法（法律第387号）等の法律や法令により、こうした国民の支援、保護、社会的経済的安定を図っている。したがって、コ国政府の政策に鑑み、国内避難民等社会的弱者の食糧安全に資する本プロジェクトの妥当性は高い。プロジェクト開始後も、コ国政府の貧困問題解決と国内避難民支援を目指す政策は変わりなく、プロジェクトの活動、プロジェクト目標及び上位目標は、国及び首都区の食糧安全保障及び栄養に関する政策との整合性を保っている。

#### <日本国の開発援助方針との整合性>

コ国の援助重点分野の一つとして、平和構築を掲げている。本案件は、現在JICAプログラムとして策定中の「紛争の被害者・共生和解支援プログラム」の中に位置付けられており、本案件の活動は、開発課題である紛争の結果生じる社会的・経済的問題への対応に資するものであり、JICA国別援助実施計画と整合している。

#### <C/P機関のニーズとの合致>

JBBは植物栽培技術を保有していたものの、以下の2点における技術的ニーズが高かった。

##### (1) 都市農業栽培技術

ボゴタの都市農業は、家庭菜園的にテラスなどを利用して実施する「土地の無いところで実施する農業」という、これまでにない形態であり、近隣諸国を含め技術的ノウハウがなかった。そのため、野菜栽培技術のニーズは高かった。栽培分野の技術開発については、日本人専門家ではなく、C/P機関であるJBBが主体となり、日本人専門家がその活動を補足的にサポートする形で進められている。また現状では、都市農業の一般的な栽培技術の開発に留まっており、生産性の向上や、作目ごとの技術開発は今後の課題となっている。

##### (2) 普及戦略



JBB が、都市農業を一般市民を対象に普及するための参加型の普及は、まだ十分に開発されておらず、技術的ニーズが高かった。プロジェクトでは、参加型地域社会開発の理論と方法論を取り入れた普及技術を導入した。

#### <ターゲットグループのニーズとの合致>

受益者である「国内避難民等を含む社会的弱者」は、ビタミン及びミネラル不足により栄養状態が悪く、また、こうした住民は野菜を入手することが困難となっている。それゆえ、都市農業は、野菜を入手できるようにする手段と考えられ、こうした市民の栄養状態の改善に貢献すると判断される。

### 3-2 有効性

本プロジェクトの有効性は、概ね高いと言える。既に、都市農業を行っている住民と、そうでない住民の間には、消費する野菜の種類、栽培面積に差が出ていることが報告されている。その一方で、栄養改善分野への投入が確保できなかったため、同分野での成果の産出が十分ではない。2008年になってからは、C/P 機関である JBB が栄養改善分野の担当者を雇用したこと、また国家保健機関からも継続的な支援を得られる体制ができつつあることから、この問題はほぼ解決したと言える。

#### <プロジェクト目標の達成予測>

プロジェクト目標達成をはかるための指標は入手できなかったが、その指標は、現在実施中のベースライン調査及び今後実施されるフォローアップ調査によって、取得される予定である（両調査の内容は別途詳述）。なお、2008年3月に実施した調査では、2007年から都市農業プロジェクトに参加した住民と、都市農業を行っていない住民の間には、消費する野菜の種数で10%の差があるという結果が出ており、種数の数値目標をプロジェクト期間内に達成できる可能性はある。また、同調査では野菜の消費量の差についても調べられているが、両者の間に有意な差はみられなかった。しかしながら、この結果はこれまでプロジェクト活動で、住民に対する栄養改善教育が行われてこなかったためであり、今後プロジェクトの栄養改善教育が強化されることを踏まえると、受益者の野菜の消費量についても増加することが見込まれる。しかし、現時点において野菜消費量の数値目標達成見込みを判断することはできない。

#### <栄養改善分野の投入>

栄養改善分野が JBB の本来業務ではなかったために、栄養改善活動を担当できる部署がなく、その結果、当該分野での C/P を確保することができなかった。したがって、2008年に入るまでは、栄養改善活動はほとんど進めることができなかった。しかしながら、2008年5月から8月まで JBB が栄養改善担当者を雇用し、今後は国家保健機関（INS）から継続的な技術支援（指導・助言、調査など）を得られることになったことから、この問題はほぼ解決したと言える。

### 3-3 効率性

本プロジェクトにおける投入の質・量・タイミングについて、いずれも適切に実施されており、栄養改善分野を除けば、本プロジェクトの成果産出は順調であることから、本プロジェクトにおける効率性は概ね確保されていると言える。また、関係機関との連携により、支援体制が築かれていることも効率性の向上に寄与している。

#### <成果の産出>

成果1については、成果が順調に産出されており、また成果2については、数値では確認できないものの、現場で都市農業が実践されていることが確認できたことから、概ね順調に進捗している。成果3については、計画変更後は順調に進捗しており、特段の問題は見受けられない。以上のように成果はそれぞれ順調に産出されており、栄養改善分野を除けば効率性は確保されているといえる。

#### <投入の質・量・タイミング>

栄養改善分野の投入を除き、投入の質、量、タイミングは特段問題なかった。ただし、研修センターの完成が約1年遅れたことから、研修活動実施のための場所探しが必要であった。現在、同センターは順調に運営されており、残りのプロジェクト期間において、講義施設兼展示圃場として貢献し得る可能性は高く、今後の有効活用が期待される。

#### <関係機関との連携>

サン・クリストバル区、ロサリオ大学、IPES(Promocion del Desarrollo Sostenible:ONG)、エントレヌーベ公園、INS等の多くの機関から、予算面、技術面などでの支援を受けており、この支援がプロジェクトの円滑な実施、効率的な成果の産出に寄与している。

### 3-4 インパクト

今回の調査では、上位目標の達成度の見込みを確認することができなかったが、プロジェクトのインパクトが、上位目標達成に貢献するだろうことが確認できた。また、本プロジェクトの特筆すべきインパクトとして、社会統合が挙げられる。このインパクトの発現については、今回訪問した全ての機関から確認できたほか、中には本プロジェクトの最も大きい成果であると評価する機関もあった。技術面においては、今回導入した参加型地域社会開発が高い評価を受けた結果、都市農業プロジェクトだけでなく、他の事業でも活用される見込みとなっている。

#### <上位目標達成の見込み>

上位目標の達成を評価するための指標は、入手できなかった。また、上位目標達成見込みについても、数値目標を達成できるかは判断できなかった。しかしながら、以下の理由により、ボゴタ市の貧困居住区住民の消費する野菜の量が増加する見込みは高い。

(1) 以前実施された2件の調査(JBBとナショナル大学による共同実施した調査及び

ロサリオ大学による調査)に基づき、都市農業プログラムを実施した結果、野菜の消費量が増加したことが明らかとなっている。

(2) C/P 機関の JBB が、本プロジェクトにより技術的に強化されたことを考慮すると、プロジェクト目標は、プロジェクト実施期間中にサン・クリストバル区で達成される見込みである。

(3) JBB が中心となり、都市農業をボゴタ首都区の市街地において、市民と共に実施中である。

(4) 都市農業が、このテーマに関連するその他の政策との結びつきのもと、首都区の政策として実施される予定である。

#### <社会面のインパクト>

プロジェクトで実施した、予備調査及びナショナル大学が実施した調査の結果に従えば、本プロジェクトのインパクトの一つは、家族内及び住民同士の関係付けの強化、「良き市民」としての行動規範の習得など「社会統合」にかかわるものである。サン・クリストバル区では、住民の組織化により参加が促進されている。

この社会面でのインパクトは、今回打ち合わせを行った全ての機関から確認することができた。

#### <技術面のインパクト>

JBB が実施する市民対象のプロジェクトに、「参加型地域社会開発 (PLSD)」を全面的に導入する可能性が高まってきた。JBB は、サン・クリストバル区で適用されている PLSD の手法を他の区にも導入しようとしている。

### 3-5 自立発展性

ボゴタ市及びサン・クリストバル区のいずれの政策においても、都市農業が政策に取り込まれる見込みであり、今後継続的に予算を確保できる見込みである。したがって、本プロジェクトの自立発展性は、現時点では確保されている。また、住民の都市農業へのモチベーションは高く、また都市農業に参加することで社会統合面でのメリットを受けられることから、今後も継続していくと考えられる。

#### <政策面・財政面>

2008 年発足のボゴタ市新体制は、JBB を実施機関として普及していくことを開発計画の中で施政方針として打ち出した。また、サン・クリストバル区においても政策の柱として、都市農業活動が取り上げられる見込みである。したがって、今後継続的に予算が確保できる可能性は高い。更に、プロジェクト C/P (普及員、ソーシャルワーカー) が、全員有期契約スタッフであることから、事業の持続性に観点ではマイナス要因であるといえる。しかしながら、都市農業が、ボゴタ市新政権の政策として継続される見込みであることから、現時点においては、この問題の影響は小さいといえる。

<組織面>

都市農業に対する住民のモチベーションは高く、住民レベルでの都市農業の自立発展性は高い。今後、余剰生産が生まれれば、生計向上にも寄与し得る。また、住民組織として活動することで、円卓会議を通じた行政サービスへのアクセスや、家族内及び住民同士の関係付けの強化といったメリットを享受できることから、組織の自立発展性も高いといえる。

## 第4章 結論

本プロジェクトの目標はコ国政府の国内避難民支援政策と合致しており、本件実施の妥当性は高いと思われる。しかしながら、プロジェクトデザイン上の問題から、ターゲットグループの課題「栄養改善」の解決に貢献はしているものの、「栄養改善」に関する課題に直接働きかけて解決できるアプローチにはなっていなかった。

成果の産出もほぼ問題なく、これまでプロジェクト実施上の課題とされてきた栄養改善分野への人材投入及び支援体制を確保できたことから、今後プロジェクト目標の達成が促進されるものと思われる。

また、本プロジェクトで特筆されるべきは、インパクトとして発現した地域社会における社会統合効果である。国内避難民や貧困層の多いサン・クリストバル区で、家族内及び住民同士の関係付けの強化、「良き市民」としての行動規範の習得等のインパクトが発現したことは、地域の治安向上、コミュニティのエンパワーメントに大きく寄与したと言える。

更に市、区、住民の都市農業へのモチベーションは高く、政策にも都市農業が取り入れられていることから、現時点における本プロジェクトの持続発展性に対する懸念は小さい。

## 第5章 教訓と提言

### 5-1 教訓

(1) 参加住民が必要としていた安全な野菜を、都市農民が有する狭い土地、借用できる狭隘な土地で生産する技術を提供するとともに、隣人同士のコミュニケーション作りのきっかけを、本プロジェクトで提供出来た。真のニーズを拾い上げることと、そのニーズに沿った協力を適切に実施することが、住民の参加を喚起し、自立発展性を確保する上で重要である。

(2) また、これまで住民に関係の薄かった区庁等行政機関と、円卓会議を通じてコミュニケーション出来るようになり、住民の意見が行政に反映されるボトムアップの仕組みが実効的に生まれた。これは、円卓会議が住民主体で実施されるようになるまで、プロジェクトが導いたこと、区庁、JBB 普及員が住民の声を行政につなげることを意識したことによる。

(3) 住民が普及員とのつながりの中で、自分たちの意見が活動に反映されることを知ったこと、野菜等自分たちが作った健康な食物を食べられるようになったこと、隣人とのコミュニケーションが進んだこと、県庁等行政とコミュニティとの関係が出来たことによって、住民がグループ活動を推進するインセンティブが生まれた。

(4) 農業経験者の多い避難民地区だったことから、都市農業を受け入れ易い素地があった。

(5) 安全で品質の良い野菜を作り、摂取することが自らの健康増進に繋がるという単純で明快な方向性が住民に受け入れやすかった。

(6) 参加型社会開発 (PLSD) では **Social Preparation (SP: 社会準備)** に時間を要するが、今回のプロジェクトも **SP** に時間を要している。コ国の場合、参加型の行政運営を取り入れるという方針があり、**JBB** のスタッフである普及員 (**Social Worker**) と技術員を軸として、本プロジェクトを実施したことから、かなり **PLSD** を受け入れる素地があったと考えられる。したがって、他の地域や国において **PLSD** を活用した案件を実施する際には、準備フェーズを設ける等、相手国当該地域の状況を十分に把握し、協力の戦術を練り上げる必要がある。

(7) 多くの協力がそうであるように、「社会の自立」を最終目的とするような案件では、本プロジェクトが適応した **PLSD** の考え方が有効に作用すると考えられている。特に、ターゲットグループの、家庭内及び住民同士の関係付けの強化、「良き市民」としての行動規範の習得等のインパクトを発現しつつあると判断できるところ、その有効性、問題点を確認しつつ、他の案件でも適用を検討する必要がある。

## 5-2 提言

### (1) ターゲットグループの整理

本プロジェクトのターゲットグループは、「サン・クリストバル区の国内避難民を含む社会的弱者」であるが、都市農業プロジェクトに参加し、都市農業を行うためには定住している必要がある。避難生活を始めたばかりの国内避難民は、特定の住居を持たず転々とした生活を送る特徴を有することから、この避難民グループにプロジェクトがアクセスすることは難しい。そのため、本プロジェクトで対象となる国内避難民は、転々とした生活を脱し定住生活を営み始めたグループとする。

### (2) 「栄養改善」の定義

プロジェクト関係者間で、プロジェクト目標「栄養摂取改善」の解釈について差異があり、プロジェクト目標と成果「1. ボゴタ市植物園の都市農業に関わる能力が強化される。」、「2. 対象住民の都市農業に関わる能力が強化される。」、「3. 区の都市農業活動の持続性を確保するために、コミュニティにおける組織枠組みが強化される。」との関係が明らかでなかったため、成果1及び成果2の活動内容に変更はないが、表現を適切にし、それぞれの成果に適切に位置付けなおすこととする。本プロジェクトにおける「栄養改善」は、研修、生産、食料栄養教育を含む、総合的な都市農業戦略を実施することにより、対象住民の消費する野菜の量と種類が増加することと定義する。

### (3) 人員の確保

プロジェクト C/P（普及員、技術者）が、全員の有期限スタッフであることから、事業の持続性を担保する観点から、JBB は、リーダー的な人材に関しては継続雇用を行うようにする。

### (4) 住民参加型都市農業モデルの普及

サン・クリストバル地区における住民参加型都市農業は、根付きつつあるが、市内の他地区に普及するように計画された JBB におけるプログラムを、コ国側で着実に実施する必要がある。それゆえ、JBB は Accion Social の RESA と協議し、今後同プロジェクトをモデルとして、ボゴタ市で実施されているその他のプロジェクトへ展開し、フォローアップしていくことを検討する。また、同時に RESA は、全国的に展開するための、パイロット的な適用について検討する。

### (5) 部分的な栄養改善から本格的な栄養改善へ

プロジェクト目標で達成すべき「都市農業の普及を通じた野菜の消費量と種類の増加」は、住民(社会的弱者)の課題解決に貢献はするものの、栄養改善に関する課題を解決するには十分ではない旨今回の報告書で指摘しているが、社会的弱者の栄養状態は、ビタミンやミネラルの摂取が不足していることに起因するものである。このため、都市農業で生産した野菜の摂取を通じて、ビタミンを摂取することは有効な手段だと考えられるが、家庭菜園レベルの都市農業では、その絶対量において不足分を補

い得ることは難しい。

都市農業が住民主体で育ちつつあるので、次の段階としては、少し大きな面積を確保した農業へ移行する必要がある、今回の都市農業の技術に加え、遊休地をうまく活用した多少規模の大きな農業への移行を検討する必要がある。

(6) 野菜消費に関する現在の栄養状態診断として、ベースライン調査を活用する

現在 INS（国家保健機関）が、プロジェクトの活動として、サン・クリストバル地区他のベースライン調査を実施しているが、これまで野菜の消費に関して具体的にどのような栄養の問題があるか、数字上のデータとして捉えられてこなかったことから、この情報が得られれば、INS 側で確立している技術に基づき検証することで、将来の活動を策定することが可能になる。これにより、栄養改善のためにどんな栄養をどの作物から、どの位の量を摂取して栄養改善をするという目標が設定できる。今回の調査の中で「栄養改善」に関する目標が打ち出せれば、奨励する作物、奨励する料理、調理法が明確になり、栄養改善に向けたより具体的な活動が可能となる。

(7) JBB による栄養改善に関する情報整理

JBB には、活動実施前後の栄養状態の比較を示す根拠となる情報があり、また、ボゴタ市には、都市農業プロジェクトを通じて、住民の栄養状態を改善した経験があるが、いずれも文書化されていないため、JBB は、関係機関の協力を得て、これら有益な情報を整理する必要がある。

(8) プロジェクト目標達成に貢献する栄養関連機関や組織の明確化

プロジェクト目標達成のために、JBB の活動を補足できるような、栄養関連に経験のある機関や組織があり、これら諸機関等と協力関係を結ぶことが望ましい。

(9) JBB 内の決定採択の流れを確立する

プロジェクト目標達成を有効に行うためには、JBB 内の意思決定採択の流れを整理し、確立する必要がある。

(10) プロジェクトを通じて実施された、研修コースや活動の結果を文書化し共有化する

研修で得られた知識・経験を、コロンビアの公的機関が導入している品質改善基準に則り、文書化し共有化する。また、規則や法的制限（契約に記載する等）を設けることにより、これが実際に確実に行われるようにする。

(11) インパクト評価の際に、支出の使途を考慮する

都市農業を実施することにより、裨益世帯の支出の使途が変わる（間接的な収入増）ことも考慮した上で、社会経済的インパクトを分析する必要がある。

(12) 総合的アプローチとインパクト強化のため、食料栄養教育に関わるコンポーネン



トを確立する

国立栄養研究所がプロジェクトに参加することになったことから、JBB は、食料栄養教育の目的、手法、得られる成果など具体的にコンポーネントを確立することができる。同機関から JBB に研修が実施されれば、普及員や技術者が栄養関係の活動を実施できるようになる。

### (13)PDM の改訂

今回の評価結果を踏まえて、PDM の成果 2 と成果 3 につき、以下のとおり変更する。

#### ・成果 2

2008 年 3 月に実施された調査において、都市農業プロジェクトに参加した住民と、都市農業を行っていない住民とでは、その栽培面積に 7% 強の差があるという結果が出ている。PDM 1 では、成果 2 の指標を「プロジェクト終了までに受益者家庭の栽培面積が 15% 増加する。」としたが、この調査結果の数値を踏まえ、「ベースライン調査によって特定される対象住民の栽培面積が 10% 上昇する。」に再設定する。

#### ・成果 3

成果 3 は活動の持続性を担保することを目的としており、当初は JBB が栄養改善活動を実施できなくなった場合には、他の関連機関が、栄養改善活動をフォローできる仕組みを作ることを予定していた。

当初、貧困層向け住宅金庫（Caja de Vivienda Popular）と公立病院が都市農業活動をしているという情報を得ていたため、両機関と連携した活動を予定していた。しかしながら、その後、住宅局はそもそも都市農業活動を行っていないことが確認され、また病院も都市農業活動を中止したことから、両機関との連携が事実上不可能となり、成果 3 の内容を変更せざるを得なくなった。上述の事態を受け、当初計画の代替として、円卓会議を強化し、活動の持続性の担保を図ることを成果 3 として設定した。これにより、住民と行政機関の関係が強化され、住民に必要な支援が行政から得られる仕組みが構築されることになる。

なお、変更後の成果 3 及びその指標は以下のとおりとする。

成果 3 区の都市農業活動の持続性を確保するために、コミュニティにおける組織枠組みが強化される。

指標 サン・クリストバル区にて開催される円卓会議に、10 以上の住民組織が参加し、年間 6 回以上開催される。

## 第 6 章 合意事項

5月29日に開催された合同調整委員会において、合同委員会が取りまとめた中間評価報告書が報告された。日本国側とコ国側関係機関は、その内容を受け入れ、報告書に記された提言について、以下のとおり必要な対応を取ることを合意し、協議議事録が署名された。

(1) 日本国側及びコ国側委員によって構成された合同委員会は、合同調整委員会に対しての合同評価レポートを提出した。

(2) 合同調整委員会は、合同評価委員会が提出した合同評価レポートを承認し、その内容を踏まえ以下の事項につき確認した。

- 1) 日本国側とコ国側は、レポートの提言を実行するために必要な措置を講じる。
- 2) PDM を Ver.2 に改訂した。
- 3) 「栄養摂取状態の改善」とは、「都市農業を通じて食生活が改善すること」すなわち「野菜の消費量及び消費される種類が増加すること」と理解する。
- 4) 栄養改善分野（食生活の改善）に関するプロジェクト活動を、効果的に実施するため、JBB は国家保健機構から技術的支援（指導・助言、調査など）を得られる体制を構築する。
- 5) JICA プロジェクトを通じ能力開発を受けた人材には、習得した技術と知識をプロジェクトで活用し、同僚とも共有することが求められる。そのため、C/P 機関は、研修終了後も、できるだけ同人材を長くプロジェクト活動に携わるスタッフとして雇用することが望ましく、少なくともプロジェクト実施期間中は、プロジェクト C/P として確保することが求められる。また、同人材から同僚への技術移転、後任への引継ぎが確実に行われるよう、研修で得た技術と知見は記録として書面に残すこととする。

## 付 属 資 料

- 1、 評価日程
- 2、 PDM Ver.1
- 3、 投入実績表
- 4、 活動実績表
- 5、 PDM Ver.2 (Final 案)
- 6、 評価グリッド  
(実績、実績プロセス、評価5項目)
- 7、 ミニッツ・中間評価報告書 (西文)



コロンビア国内避難民等社会的弱者に対する栄養改善プロジェクト  
運営指導調査団（中間評価）日程

期間 2008年5月18日～5月31日

	date	day	time	Activity	Site	Stay
1	18,May	(Sun)	PM 20:45	成田発（鈴木） ボゴタ着（CO883）		Bogota
2	19,May	(Mon)	9:00	事務所打ち合わせ 間瀬専門家打ち合わせ	JICA	Bogota
			14:00	・ACCION SOCIAL表敬	A/S	
3	20,May	(Tue)	8:30-12:00	合同評価委員会（評価方法の説明）	JICA	Bogota
			14:00-17:00	間瀬専門家インタビュー	要確定	
			20:45	ボゴタ着（佐佐木課長）（CO883）		
4	21,May	(Wed)	9:00 11:00	植物園長表敬 ボゴタ市植物園技術部長インタビュー	ボゴタ市植物園	Bogota
			PM	植物園C/P（普及員、ソーシャルワーカー）インタビュー	ボゴタ市植物園	
5	22,May	(Thu)	7:30 8:30-9:30 10:00-12:00	ホテル発 サン・クリストバル区役所インタビュー 都市農業関係者からの聞き取り調査	サン・クリストバル区役所 バルケ・エントレヌーベ	Bogota
			14:00-16:00	サン・クリストバル区 住民からの聞き取り調査	Juan Rey地区	
6	23,May	(Fri)	8:00-11:00	国家保健機関（INS）との協議	INS	Bogota
			PM	・ACCION SCIOIALからの聞き取り調査：国内避難民支援政策と都市農業アプローチ	JICA	
7	24,May	(Sat)	AM	調査結果の取り纏め	ホテル会議室	Bogota
			PM	評価レポート案作成（日本語）	ホテル会議室	
8	25,May	(Sun)	AM	評価レポート案作成（日本語）	ホテル会議室	Bogota
			PM	評価レポート案翻訳（日→西）	翻訳作業	
9	26,May	(Mon)	AM	評価レポート案翻訳（日→西）	翻訳作業	Bogota
			PM	評価レポート（案）を評価委員に配布		
10	27,May	(Tue)	AM	ボゴタ市環境局インタビュー 合同評価委員会協議・評価結果の共有		Bogota
			PM	合同評価委員会協議・評価レポートの修正及びPDM ver2の検討		
11	28,May	(Wed)	AM	合同評価委員会協議・評価レポートの修正及びPDM ver2の検討		Bogota
			PM	合同評価委員会協議・評価レポートの修正及びPDM ver2の検討		
12	29,May	(Thu)	9:00	合同調整委員会（合同評価レポートの提出及びPDM ver2の承認） ミニッツ署名		Bogota
			PM	大使館報告 JICA事務所打ち合わせ（農村開発部関連他案件、平和構築関連）	在コロンビア日本国大使館 JICA事務所	
13	30,May	(Fri)	AM	ボゴタ発（佐佐木）→パナマ経由		グアテマラシティ （佐佐木）
			PM	グアテマラシティ着（佐佐木） グアテマラ駐在員事務所との打ち合わせ		



ターゲットグループ:  
サン・クリストバル地区の国内避難民を含む社会的弱者  
協力期間: 2006年5月31日より3年間  
PDM/作成日: 2006年12月22日

プロジェクト名:  
国内避難民等社会的弱者に対する栄養改善計画  
対象地域: ボゴタ市サン・クリストバル区、特に同区内の地域計画ユニット (UPZ) の32、50と51  
PDM/バージョン: 1

プロジェクト要約	指標	入手手段	外部条件
<p><b>上位目標</b> 都市農業の強化を通じて、ボゴタ市の国内避難民を含む社会的弱者の栄養摂取状況が改善される。</p> <p><b>プロジェクト目標</b> 都市農業の強化を通じて、サン・クリストバル区の国内避難民を含む社会的弱者の栄養摂取状況が改善される。</p> <p><b>成果</b> 1. ボゴタ市植物園の都市農業に関わる能力が強化される。 2. 住民及び住民組織の都市農業に関わる能力が強化される。 3. 住民の栄養改善に関わる関係機関が共同して、都市農業普及事業を実施する。</p>	<p>2014年までに、ボゴタ市の貧困者居住区 (estrato 1, 2 及び3) 住民の消費する野菜の量が3%増加する</p> <p>プロジェクト終了時点で、受益者の消費する野菜の種類および量が10%増加する</p> <p>1. 2008年に、ボゴタ市都市農業栽培マニユアル1種および都市農業普及マニユアル1種が作成される。 2. プロジェクト終了までに受益者家庭の栽培面積が15%増加する。 3. 住民の栄養改善に関わる公的機関が都市農業の普及活動に人員を派遣する</p>	<p>市立病院の統計</p> <p>定期調査 (参加型調査)</p> <p>1. プロジェクト報告書 2. 定期調査 3. プロジェクト報告書</p>	<p>・植物園都市農業プロジェクト運営及び実施に関わる人員が変更されない ・都市農業がボゴタ市の政策の一環としての位置を失わない</p> <p>・植物園都市農業プロジェクト運営及び実施に関わる人員が変更されない ・都市農業がボゴタ市の政策の一環としての位置を失わない</p> <p>・プロジェクト運営及び実施に関わる人員が変更されない ・都市農業が2008年の政権交代以降もボゴタ市の政策の一環としての位置を失わない</p>
<p><b>活動</b> 1.1. 都市農業に関わる植物園の人材育成 1.1.1. 栽培技術に関わる能力強化 1.1.2. コミュニティワークに関わる能力強化 1.1.3. 区の都市農業開発に関わる提案書作成 1.2. 都市農業普及のための教材作成 1.2.1. マスコミ用資料の作成 1.2.2. コミュニティ向け普及教材の作成 1.2.3. ホームページ作成 2.1. 都市農業の普及と住民の能力強化 2.1.1. 栄養状況のベースライン調査 2.1.2. 都市農業普及活動の実施 2.1.3. 食品の調理・加工技術、および栄養知識の普及 2.2. 住民組織強化 2.2.1. 住民独自の事業実施に向けた事業形成及び資源運用能力強化への支援 2.2.2. 住民組織同士、及び外部組織との組織交流の場創出及び交流の促進 2.2.3. 住民の事業に関わる情報の収集、分析、関係機関および住民との共有化 3.1. 栄養改善に関わる関係機関の共同体制の確立 3.1.1. 関係機関による区都市農業開発計画の共同作成 3.1.2. 区都市農業開発計画の実施</p>	<p><b>投入</b> <b>ボゴタ市植物園:</b> ・カウンターパートの配置 ・JICA専門家の執務に必要なインフラ ・プロジェクトの運営費 ・資機材 ・秘書、運転手 <b>JICA:</b> ・長期専門家1名 ・短期専門家複数名 ・研修員受入(第三期) ・資機材、インフラ整備費</p>	<p>・食と栄養の安全保障委員会 (Comité de Seguridad alimentaria y nutricional) が制度上の地位を確立する (特に成果3に関わる外部条件) ・市の土地利用計画 (Plan de ordenamiento territorial) が都市農業に関わる土地利用の障害とならない (特に成果3に関わる外部条件) ・地域開発基金 (Fondo de desarrollo local) が都市農業を活動の重点課題とする</p>	<p><b>前提条件</b></p>





## プロジェクト投入実績

＜日本側投入実績＞

### (1) 専門家派遣実績

専門家氏名	指導科目	派遣期間	派遣前の所属
間瀬 朝夫	コミュニティー・エンパ ワーメント/業務調整	2006年5月31日～ 2008年5月30日	日本福祉大学大学院

### (2) カウンターパートの本邦研修受入実績

研修員氏名	受入期間	協力分 野名	研修内容及び 受入機関	当時の役職	現在の役職及び 離職年月、離職先
Claudia Marcela Sanchez	07年1月 27日～3月 17日	参加型 地域社 会開発	集団研修「参加型地域社会 開発の理論と実践」	都市農業プロ ジェクト・リ ーダ	同左
Paula Martínez	同上	同上	同上	都市農業プロ ジェクト・社 会教育係長	07年3月離職 植物園に復職予定 (参加型開発担 当)
Luis Bernaldo Cañon	07年6月 18日～10 月5日	地域 別・国別	地域別研修「小規模農民支 援有機農業普及手法(中米 カリブ地域コース)」	サン・クリス トバル地区 アドミニスト レーター	同左

### (3) 日本側機材供与実績及び利用状況

機材 番号	設置 時期	機材名	型式	メーカー	購入価格 (COP)	使用 セクション	設置 場所	現在の 稼働の 有無	非稼働の場 合いつから か及びその 理由
1	06年 7月	四輪駆動 車	Prado Sumo	Toyota	58,092,428	都市農業プ ロジェクト	正門横駐 車場	有	
2	07年3 月	スキャナ	DR-2580C	CANON	3,000,000	都市農業プ ロジェクト	専門家執 務室	有	
3	07年3 月	ハンディ GPS	Recon XC Edition	Timble	12,555,892	都市農業プ ロジェクト	専門家執 務室	有	
4	07年3 月	コピー機	BIZ HUP 250	Konica Minolta	17,399,998	都市農業プ ロジェクト	専門家執 務室	有	
5	07年3 月	デスクト ップPC	RQ908LA#A BM	Hewlett Packard	3,120,000	都市農業プ ロジェクト	普及員室	有	
6	07年3 月	デスクト ップPC	RQ908LA#A BM	Hewlett Packard	3,120,000	都市農業プ ロジェクト	普及員室	有	
7	07年3 月	ノートブ ックPC	RN825LAA BM	Hewlett Packard	5,050,000	都市農業プ ロジェクト	専門家執 務室	有	
8	07年3 月	ノートブ ックPC	RN825LAA BM	Hewlett Packard	5,050,000	都市農業プ ロジェクト	部長室	有	
9	07年3 月	レーザー プリンタ	Q6455A	Hewlett Packard	810,000	都市農業プ ロジェクト	専門家執 務室	有	
10	07年3 月	レーザー プリンタ	Q6455A	Hewlett Packard	810,000	都市農業プ ロジェクト	普及員室	有	

以下現地活動強化費分

P-1	07年1月	液晶プロジェクタ	EMP-S4	EPSON	2,449,000	都市農業プロジェクト	専門家執務室	有	
p-2	07年1月	デジタルDVDカメラ	DCR-DVD205	SONY	1,570,000	都市農業プロジェクト	専門家執務室	有	
p-3	07年1月	デジタルカメラ	DSC-W50	SONY	777,000	都市農業プロジェクト	専門家執務室	有	
p-4	07年1月	デジタルカメラ	DSC-W50	SONY	777,000	都市農業プロジェクト	専門家執務室	有	
p-5	07年1月	デジタルカメラ	DSC-W50	SONY	777,000	都市農業プロジェクト	専門家執務室	有	
p-6	07年1月	デジタルカメラ	DSC-W50	SONY	777,000	都市農業プロジェクト	専門家執務室	有	

(4) 現地で開催したセミナーの実績

年度	コース名 (研修内容)	開催日	期間	参加人数	対象者	備考等
2006	都市農業活動に関わる複数のアクターを巻き込んだ政策・施策の計画と実践	11/27-12/4		36	植物園・ロサリオ大学の都市農業関係者。ボサ区の住民	IPES <sup>1</sup> 、ボゴタ市植物園、ロサリオ大学との共同ワークショップ
2007	地域社会開発に基づくサン・クリストバル地区都市農業活動計画研修	5/29-6/1		43	大統領府アクションソシアール、サン・クリストバル区役所。ロサリオ大学等の都市農業関係者、及び植物園のサン・クリストバル普及担当者	グアテマラル PROETTAPA プロジェクト関係者(専門家1名、C/P4名)参加
2007	普及員及びソーシャルワーカーを対象とした研修	6/4, 6/25, 7/9, 7/30, 9/10.	2007年6月～12月	49～35	植物園都市農業プロジェクト関係者	
2007	SC区都市農業円卓会議強化ワークショップ	9/6, 10/4, 11/1, 12/6, 2/7, 3/6	2007年9月～2008年12月	42～25	都市農業円卓会議出席者(都市農民、区役所等)	
2007	社会分析に関わる研修	10/9-10		19	IPES <sup>2</sup> の都市農業関係者及び植物園のSC区普及関係者	近隣国における研修の一環としてペルー国リマ市において実施

<sup>1</sup> Promocion del Desarrollo Sostenible, Peru ラ米全体に都市農業を普及しているペルーの NGO。

<sup>2</sup> 同上

(プロジェクトとして実施したわけではないものの、プロジェクト専門家及びプロジェクト C/P が企画運営に参加し、プロジェクト C/P が参加した研修)

2007	集団研修「参加型地域社会開発の理論と実践」及び「参加型地域社会開発のプロジェクト計画管理」のフォローアップ	1/21-23			ラ米全体の該当研修の元研修員、コロンビアからの参加予定者、及びプロジェクト C/P	
------	---	---------	--	--	---	--

(5) 日本国側ローカルコスト負担実績：様式自由

年度	項目	金額	備考
2006	在外事業強化費	\$67,761,110	
2006	供与機材	\$104,598,710	
2007	在外事業強化費	\$63,278,190	
2007	供与機材	\$177,137,733	研修センター建築経費

<コ国側投入実績>

年	項目	金額	備考
2006	人件費	\$87,450,000	
2006	資材費	\$42,802,127	
2006	材料費	84,939,834	
2006	その他	34,197,435	
2007	人件費	\$118,851,000	
2007	資材費	\$173,349,000	
2007	その他	\$29,220,000	

(2) カウンターパート (C/P) 配置実績一覧

(氏名、協力期間中の役職、専門分野、研修期間、技術移転を行った専門家氏名等)

C/P の氏名 及び役職	C/P の 専門分野	研修 (配置) 期間	技術移転を行っ た専門家氏名	実施機関での 勤務期間	備考等
Rolando Higueta	生化学	06年6月～ 06年11月	間瀬 朝夫	05年1月～ 08年2月	プロジェクト開始時技術活動部長。06年12月より園長
Claudia Marcela Sanchez	プロジェクトリーダー(海洋生物)	06年6月～ 現在	間瀬 朝夫	05年8月～ 現在	08年1月に一旦退職。4月より復職予定
Antonio Jose Velez Garcia	普及係長(農学)	06年6月～ 06年12月	間瀬 朝夫	04年8月～ 06年12月	現在村落開発 NGO に勤務
Luis Bernaldo Cañon	地区アドミニストレータ(農学)	06年6月～ 現在	間瀬 朝夫	03年1月～ 現在	
Paula Martínez	社会教育係長(人類学)	06年6月～ 07年3月	間瀬 朝夫	05年1月～ 07年3月	08年3月より園長アドバイザーとして復職
Angélica Peñuera	クリーンテクノロジー係長(生物学)	06年6月～ 現在	間瀬 朝夫	06年3月～ 07年11月	2007年9月より国家環境局と兼任
Claudia Gonzalez Rojas	試験研究係長	06年6月～ 現在	間瀬 朝夫	01年10月～ 現在	
Gloria Bustamante	教育専門職(コミュニティ開発/心理学)	06年6月～ 現在	間瀬 朝夫	04年10月～ 現在	

Karen Benitez	普及員（農学）	06年6月～ 現在	間瀬 朝夫	05年5月～ 現在	
Lara Jazmin Yarai	普及員（農学）	07年3月～ 現在	間瀬 朝夫	05年4月～ 現在	
Augusto Méndez	普及員（農学）	06年6月～ 08年12月	間瀬 朝夫	06年1月～ 08年12月	
Alejandro Ardila	ソーシャルワーカー	07年6月～ 現在	間瀬 朝夫	07年5月～ 現在	
Oriana Sepulveda	ソーシャルワーカー	07年6月～ 現在	間瀬 朝夫	07年5月～ 現在	
Patricia Torres	教育専門職(文学)	06年6月～ 現在	間瀬 朝夫	06年9月～ 現在	

以上

コロンビア国 国内避難民等社会的弱者に対する栄養改善計画 活動実績・進捗一覧表

成果1. ボゴタ市植物園の都市農業に関わる能力が強化される						
活動計画		達成目標	進捗状況と実績	達成度 4段階	活動遅延理由	今後の計画
1.1.	都市農業に関わる植物園の人材育成	90人の職員が社会開発及び農学上の知識及びツールを習得する		3		対象者数を下方修正する(2008年に雇用される契約職員数にあわせる)
	1.1. 栽培技術に関わる能力強化	ボゴタ市の環境に合致した都市農業栽培マニュアル1種		3		技術開発、人材の能力強化、及びマニュアル作成の三つの視点で活動を整理しなおす。
	研修センター建築	2007年3月までに研修センター1棟を建設する	2007年10月より建築開始。2008年3月中に竣工予定	3	公共施設内における建築許可取得に手間取った	
	適正技術開発	試験研究結果の現場への適応例最低1例	技術開発に関しては、植物園が独自に実施している。 実績：実験圃場整備に関わる、資機材の購入。 堆肥場の整備。堆肥成分分析実施。	3		今後も技術改善への支援を行う。具体的テーマは以下の2点。 ・栽培容器及び培地に関する栽培技術改良への支援 ・クリーンテクノロジー改善に対する支援
	ラ米各国における研修実施	3年間に研修3回実施	2006年アルゼンチン、2007年ペルーにおいて研修を実施した。	3		2008年の研修実施地を検討中。
	国内研修(国内及び国外からの講師による)	3年間に3回実施	実施実績なし。但し実施テーマを決定した。	2	農学技術及び下のコミュニティー・ワーク(1.1.2.)とあわせて6テーマの研修が計画されている所、テーマの数が実際のニーズと比較して過剰である。	2008年に実施すべく調整中
	栽培マニュアル草稿作成	栽培マニュアル一種の草稿1種	完成	4		
	栽培マニュアルの現場での検証	栽培マニュアル一種		3		2008年初頭に上のマニュアル草稿を普及員に配布し、現場で実証作業を行う。この結果を受けて、2008年後半に改訂作業を行う。
	栽培マニュアルの発行	栽培マニュアル一種		3		2009年発行予定。
1.1. 2.	コミュニティーワークに関わる能力強化	普及に関わるマニュアル1種		3		
	本邦研修	2007年に2名、及び2008年に2名	2007年に2名派遣した。	3		2008年の研修派遣に向けて人選中。
	コミュニティーワークに関わるテキスト作成	コミュニティーワークに関わるマニュアル一種	草稿完成	4		
	国内研修(国内及び国外からの講師による)	3年間で研修3件実施	2007年に参加型地域社会開発研修1件実施	3		2008年に実施すべく調整中。
	国内研修(上の国内研修の内容を植物園内に普及するための研修)	サン・クリストバルにおけるマルチアクター研修1回実施	成果3の活動と重複する。この活動は成果3の一部として実施した。	4		
	コミュニティーワークに関わるテキストの現場での検証	コミュニティーワークに関わるマニュアル一種		3		2008年初頭にマニュアル草稿を普及員に配布し、現場で実証作業を行う。この結果を受けて、2008年後半に改訂作業を行う。
	マニュアルの発行	コミュニティーワークに関わるマニュアル一種		3		2009年発行予定。

活動計画		達成目標	進捗状況と実績	達成度	活動遅延理由	今後の計画
1.1.3.	区の都市農業開発に関わる提案書作成		植物園が独自実施	1		植物園独自の活動と重複するため、プロジェクトとしては実施しない。
	調査内容の準備	調査報告一種		1		
	調査報告の作成と提案書の作成	調査報告一種		1		
1.2.	都市農業普及のための戦略と教材作成	ビデオ2種、ラジオ広告1種、ワークショップのテーマに対応した冊子、及び普及戦略提案		3		都市農業に関わる広報及び普及戦略の策定と実施を計画中
1.2.1.	マスコミ用資料の作成		ポスター3種、カレンダー1種、成果に関わるパンフレット19種、都市農業の案内に関わるリーフレット1種を作成した	3		マスコミ用資料の作成に関しては、植物園の専門部署が独自に実施しているため、プロジェクトとしての活動を再検討中。
	ビデオ	2007年中葉に中間報告ビデオ1種を作成開始、2008年初頭に完成。2008年中葉に最終的なビデオ作成開始、2009年初頭に完成。	ビデオに関しては、植物園の専門部署が独自に実施している。	1		植物園独自の活動と重複するため、プロジェクトとしては実施しない。
	ラジオ	ローカル局（区の住民を対象とした）における月1回の割合のラジオ放送	住民が自主的に実施している。	1		住民が自主的に実施しているため、プロジェクトとしては実施しない。
	印刷物	2007年5月から開始。3ヶ月ごとに発行。		3		印刷物の内容に関して再検討中。広報資料4種の作成を計画中。
1.2.2.	コミュニティー向け普及教材の作成	教育係によって提案されるワークショップのテーマごとの小冊子と普及提案		3		普及教材4種の作成を計画中。
1.2.3.	ホームページ作成	ホームページ1種の植物園のホームページへの掲示	ホームページ作成に関しては植物園が独自に実施している。	1		植物園が独自に実施しており、プロジェクトとしての関わり方を検討中。
	作成					
	メンテナンスと改善					

成果2. 住民及び住民組織の都市農業に関わる能力が強化される							
2.1.	都市農業の普及と住民の能力強化	対象UPZ内の3000人の能力が強化される。		3	受益者数がプロジェクトの能力から見て過剰である。対象UPZ選択の根拠不明である。	目標及び対象UPZを再検討中。	
2.1.	1.	栄養状況のベースライン調査	2007年7月までにベースラインを確定する	調整中	3	プロジェクト実施機関内に栄養及びベースライン調査に関わる専門家が居ない。協力機関との調整に手間取った。	2008年4月に実施。
2.1.	2.	都市農業普及活動の実施	受益者の栽培面積がプロジェクト終了までに15%上昇する。				植物園及び区役所が独自に実施しており、プロジェクトとしての関わり方を検討中。
		都市農業状況調査	調査報告1種	調査実施中	3		2008年3月までに取りまとめ
		都市農業実施可能地に関する調査	調査報告1種	調査実施中	3		2008年3月までに取りまとめ
		都市農業開発	200ヶ所で栽培が実施される	植物園が独自に実施	3		植物園が独自に実施しており、プロジェクトとしての関わり方を検討中。
2.1.	3.	食品の調理・加工技術、および栄養知識の普及		国家保健機関（INS）及びFAOの助言を受けて活動内容を検討中	3		2008年実施に向けて準備中。
		最低栄養素消費普及のためのツールのデザインと運用	レシピ40種が作成される	国家保健機関（INS）及びFAOの助言を受けて活動内容を検討中	3		2008年実施に向けて準備中。
		生産及び消費状況のモニタリングによる食生活改善状況の分析	参加型ツールの利用（例：24時間回想法）	国家保健機関（INS）の助言を受けて活動内容を検討中	3		2008年末実施予定
		活動計画	達成目標	進捗状況と実績	達成度	活動遅延理由	今後の計画
2.2.		住民組織強化	成果2の目標に関しては、2007年1月から3月の本邦研修終了を待って詳細を検討/決定する	PDMV-1では個々の住民組織の強化と、組織間連携に関わる活動が混在している、内容の重複が見られる。植物園が独自に実施可能な活動内容が混在しているなどの問題があることが明らかになったため、現在活動内容を再検討中。住民の組織能力強化を成果2にまとめ、組織連携強化を成果3にまとめることを検討中。	3		区との協定により植物園が独自に住民組織強化を実施しているため、JICAプロジェクトとしてはこの活動を支援する。
2.2.	1.	住民独自の事業実施に向けた事業形成及び資源運用能力強化への支援			3		少なくとも5グループが都市農業に関わる事業に取り組むことを目標に、事業企画、資源獲得、住民組織強化に関わる能力強化を計画
2.2.	2.	住民組織同士、及び外部組織との組織交流の場の創出及び交流の促進		都市農業円卓会議の強化を通じてこの目標を達成する事として活動実施中。2007年～2009年に円卓会議として実施する主な行事を決定済み。	3		住民が主体となって活動を計画・実施できるようサポートする。

		料理と食品加工の交流会 (Ferias).	交流会6回実施。	上の円卓会議の行事として実施する事を決定した。	3		実施回数を減らして実施 (住民の自主性を尊重する)
		都市農業に関わる住民の取組 (proyectos piloto comunitarios) のネットワーキング		同上	3		
		事業立案及び資源運用に関わる能力強化 (リーダーズアイデンティフィケーション及び能力強化)	プロジェクト終了までに5個の事業が形成される。		3		少なくとも5グループが都市農業に関わる事業に取り組むことを目標に、事業企画、資源獲得、住民組織強化に関わる能力強化を計画
		起業能力強化(事業立案、評価に関わる講習会)			3		同上
		区内の組織の連携を可能にする仕組の立上			3		都市農業円卓会議の強化を通じてこの目標を達成する。
		行政組織との関係付			3		都市農業円卓会議の強化を通じてこの目標を達成する。
	2.2. 3.	住民の事業に関わる情報の収集、分析、関係機関および住民との共有化	インフォメーション・バンク1件	植物園及び区役所が独自に実施中	3		
<b>成果3. 住民の栄養改善に関わる関係機関が共同して、都市農業普及事業を実施する</b>						PDM-V1では、主に公的機関の連帯をもって都市農業活動の持続性担保を狙っていた所、活動を実施していくうちにこれが難しい事が明らかになってきた。	区の都市農業円卓会議 (住民及び公的機関の会合の場) の強化と、この会議と公的機関の連携を強化することをもって、都市農業活動の持続性の担保を目指す方向で活動計画を見直し中。より具体的には以下の活動を展開する予定である。
		活動計画	達成目標	進捗状況と実績	達成度	活動遅延理由	今後の計画
	3.1.	栄養改善に関わる関係機関の共同体制の確立		活動計画立案のためのワークショップを実施し、書類上は共同体性は出来上がったものの、実質上は機能していない。			区の都市農業活動の持続性を確保するために、コミュニティにおける組織枠組みが強化を図るよう見直す予定。
	3.1. 1.	関係機関による区都市農業開発計画の共同作成	関係機関により活動計画が作成される	活動計画立案のためのワークショップを実施した。			区内及び区の領域を超えた単位の組織の参加に基づく、住民組織と行政組織等が交流できる場の創出と強化を行うよう見直す予定。
		マルチアクターの参加を促進する講習会の開催		同上			栄養改善活動を行っている組織 (国家家族福祉機関、国家保健機関、市役所保健局) によるアドバイザーチームの設立を図るよう見直す予定。
	3.1. 2.	区都市農業開発計画の実施					



プロジェクト名:  
国内避難民等社会的弱者に対する栄養改善計画  
対象地域:ボゴタ市サン・クリストバル区  
PDMバージョン:2 (Final案)

ターゲットグループ:  
サン・クリストバル区の国内避難民を含む社会的弱者  
協力期間:2006年5月31日より3年間  
PDM作成日:2008年5月13日

プロジェクト要約	指標	入手手段	外部条件
<p><b>上位目標</b> 都市農業の強化を通じて、ボゴタ市の国内避難民を含む社会的弱者の栄養摂取状況が改善される。</p>	<p>2014年までに、ボゴタ市の貧困者居住区 (estrato 1, 2 及び3) 住民の消費する野菜の量が3%増加する。</p>	<p>市立病院の統計</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物園都市農業プロジェクト運営及び実施に関わる人員が変更されない</li> <li>・都市農業がボゴタ市の政策の一環としての位置を失わない</li> </ul>
<p><b>プロジェクト目標</b> 都市農業の強化を通じて、サン・クリストバル区の国内避難民を含む社会的弱者の栄養摂取状況が改善される。</p>	<p>プロジェクト終了時点で、受益者の消費する野菜の種類および量が10%増加する</p>	<p>定期調査 (参加型調査)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物園都市農業プロジェクト運営及び実施に関わる人員が変更されない</li> <li>・都市農業がボゴタ市の政策の一環としての位置を失わない</li> </ul>
<p><b>成果</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ボゴタ市植物園の都市農業に関わる能力が強化される。</li> <li>2. 対象住民の都市農業に関わる能力が強化される。</li> <li>3. 区の都市農業活動の持続性を確保するために、コミュニティにおける組織枠組みが強化される。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 農業栽培マニュアル(1種)及び社会学的手法マニュアル(1種)が作成される。</li> <li>2. ベースライン調査によって特定される対象住民の栽培面積が10%上昇する。</li> <li>3. サン・クリストバル区にて開催される円卓会議に10以上の住民組織が参加し、年間6回以上開催される。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. プロジェクト報告書</li> <li>2. 定期調査</li> <li>3. プロジェクト報告書</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクト運営及び実施に関わる人員が変更されない</li> <li>・都市農業が2008年の政権交代以降もボゴタ市の政策の一環としての位置を失わない</li> </ul>
<p><b>活動</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.1. ボゴタに適した都市農業技術改善への支援             <ol style="list-style-type: none"> <li>1.1.1. 適正技術開発</li> <li>1.1.2. 都市農業に関わる職員への研修実施 (国内・海外)</li> <li>1.1.3. 都市農業開発に関わるマニュアル作成</li> </ol> </li> <li>1.2. コミュニティワークに関わる能力強化             <ol style="list-style-type: none"> <li>1.2.1. コミュニティワークに係る研修実施 (国内・海外)</li> <li>1.2.2. マニュアル、テキスト作成</li> </ol> </li> <li>1.3. 都市農業に関わる広報及び普及戦略の策定と実施             <ol style="list-style-type: none"> <li>1.3.1. 都市農業プロジェクトによって作成された普及教材の整理・分析</li> <li>1.3.2. 戦略プランの作成</li> <li>1.3.3. 広報用資材及び普及教材強化</li> <li>1.3.4. 都市農業に関わる双方向情報交換システムの設計、設置及び改良</li> </ol> </li> <li>1.4. ベースラインの確定             <ol style="list-style-type: none"> <li>1.4.1. 食習慣に関わる現状分析</li> <li>1.4.2. 都市農業に関わる現状分析</li> </ol> </li> </ol>	<p><b>投入</b></p> <p>[バージョン0から変更なし]</p> <p><b>ボゴタ市植物園:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カウンターパーターの配置</li> <li>・JICA 専門家の執務に必要なインフラ</li> <li>・プロジェクトの運営費</li> <li>・資機材</li> <li>・秘書、運転手</li> </ul> <p><b>JICA:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期専門家1名</li> <li>・短期専門家数名</li> <li>・研修員受入(第三国)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食と栄養の安全保障委員会 (Comité de Seguridad alimentaria y nutricional) が制度上の地位を確立する (特に成果3)に関わる外部条件)</li> <li>・市の土地利用計画 (Plan de ordenamiento territorial) が都市農業に関わる土地利用の障害とならない</li> <li>・地域開発基金 (Fondo de desarrollo local) が都市農業を活動の重点課題とする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物園都市農業プロジェクト運営及び実施に関わる人員が変更されない</li> <li>・都市農業がボゴタ市の政策の一環としての位置を失わない</li> </ul>

\*本プロジェクトにおける「栄養改善」の定義:

<p><b>1.5. モニタリング評価</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1.5.1. 食習慣に関わるモニタリング</li> <li>1.5.2. 都市農業に関わるモニタリング</li> <li><b>2.1. 既存の都市農業の改善</b></li> <li><b>2.2. 料理、食品加工及び栄養に関わる能力強化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>2.2.1. 食品の調理・加工技術、および栄養知識の普及</li> </ul> </li> <li><b>3.1. 対象住民の事業形成能力の強化</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>3.1.1. 住民組織の強化</li> <li>3.1.2. 事業立案に関わる能力強化（研修と実地指導）</li> </ul> </li> <li><b>3.2. 区内及び区の領域を超えた単位の組織の参加に基づき、住民組織と行政組織等が交流できる場の振興と強化。</b></li> <li><b>3.3. 植物園が中心となって食生活に関わる機関によって構成されるアドバイスチームを設立する。</b></li> </ul>	<p>資機材、インフラ整備費</p>	<p>本プロジェクトにおける「栄養改善」は都市農業により生産される野菜の種類及び生産量の増加を持って自家消費が拡大し、栄養状況が改善させると定義する。</p>
---	--------------------	---

# 評価グリップ(1、実績)

プロジェクト名：コロンビア国 国内避難民等社会的弱者に対する栄養改善計画  
 実施期間：2006年6月～2009年5月（3年間）

評価設問		調査項目		判断基準	必要なデータ・情報	調査結果(プロジェクト報告より)	
目標	指標	目標	指標			実績	
1. 上位目標の達成度	1.1 上位目標「都市農業の強化を通じて、ボゴタ市の国内避難民を含む社会的弱者の栄養摂取状況が改善される」	1.1.1 2014年までに、ボゴタ市の貧困居住区住民の消費する野菜の量が3%増加する。	プロジェクト開始前後の比較 ・目標達成の見込み	・ボゴタ市の貧困居住区住民の消費する野菜の量		上位目標を達成をはかるための指標は入手できなかつた。また、上位目標達成の見込みについても、数値目標を達成できるかは判断できなかつた。しかしながら、以下の理由により、ボゴタ市の貧困居住区住民の消費する野菜の量が増加する見込みは高い。 (1) 以前実施された二調査（植物園とナショナル大学による共同実施、及びリオサリオ大学により実施）で、都市農業プログラムの実施の結果、野菜の消費量が増加したことが明らかとなっている。 (2) C/P機関の植物園が、本プロジェクトにより、技術的に強化されたことを考慮すると、プロジェクト目標はプロジェクト期間中にサンクリストバル区で達成される見込みである。 (3) 植物園が中心となり、ボゴタ首都区の市街地で都市農業プロジェクトを市民と共に実施中である。 (4) 都市農業が、このテーマに関連するその他の政策との結びつきのもと、首都区の政策として実施される予定である。	
2. プロジェクト目標の達成度	2.1 プロジェクト目標「都市農業の強化を通じて、サンクリストバル区の国内避難民を含む社会的弱者の栄養摂取状況が改善される」 「有効性」 2.2.2. 参照	2.1.1 プロジェクト終了時点で、受益者の消費する野菜の種類および量が10%増加する	プロジェクト開始前後の比較 ・目標達成の見込み	・受益者の消費する野菜の種類 ・受益者の消費する野菜の量		プロジェクト目標達成をはかるための指標は入手できなかつたが、その指標は現在実施中のベラスラスライン調査および今後実施されるフォローアップ調査によって取得される予定である（尚調査の内容は別途詳述）。2008年3月に実施した調査では、都市農業プロジェクトに参加した住民と、都市農業を行っていない住民の間には、消費する野菜の種類で10%の差があるという結果が出ており、種数の数値目標をプロジェクト期間内に達成できる可能性はある。 また、同調査では野菜の消費量の差についても調べられているが、両者の間に有意な差はみられなかつた。しかしながら、本プロジェクトでは教育が今まで行われていないことを考慮すれば、今後プロジェクトの栄養改善教育が強化されることで受益者の野菜消費量についても増加することが見込まれる。しかし、現時点において野菜消費量の目標を達成見込みを判断することはできない。 しかし、サン・クリストバル区では活動が強化されてきていることから、今後栄養改善活動に関しても良好な成果が期待できる。	
		プロジェクト目標の達成を阻害する要因はあるか。				栄養改善分野が植物園の本来業務でも機能でもなかつたために、栄養改善活動を担当できる部署がなく、その結果当該分野でのC/Pを確保することができなかつた。その結果、2008年に入ると、栄養改善活動はほとんど進めることができなかつた。しかしながら、この問題に対する解決策として、2008年5月から8月まで植物園が栄養改善分野の当者を雇用し、また今後は国家保健機関（INS）から継続的な技術支援（指導・助言、調査など）を得られることになった。	

<p>3.1 成果1 ボゴタ市植物園の都市農業に力関係が強化される。</p>	<p>3.1.1 2008年に、ボゴタ市都市農業栽培マニュアル1種および都市農業普及マニュアル1種が作成される。</p> <p>&lt;その他調査項目&gt; 指標には現れない達成度</p>	<p>・プロジェクト開始前後の比較 ・目標達成の見込み</p>	<p>・農業栽培マニュアル数 ・都市農業普及数</p>	<p>成果1の産出は順調に行われている。栽培マニュアル及び都市農業普及マニュアルの草稿が完成した。今後、草稿されたマニュアルを現場の普及員に配布し、現場での実証作業を行い、2008年末にかけて改訂作業を行う。なお、成果1の投入である研修センターは既に完成したが、その時期が当初予定から遅れ2008年3月であった。</p>
<p>3.2 成果2 住民及び市民組織の都市農業に力関係が強化される。</p>	<p>3.2.1 プロジェクト終了までに受益者家庭の栽培面積が15%増加する。</p> <p>&lt;その他調査項目&gt; 指標には現れない達成度</p>	<p>・プロジェクト開始前後の比較 ・目標達成の見込み</p>	<p>・受益者家庭の栽培面積</p>	<p>本プロジェクトで都市農業の普及手法として新しく導入した参加型地域社会開発手法（PLSD）が、植物園の普及・教育方法として公式に承認され、今後市街緑化などの活動でも取り入れられる見込みである。</p>
<p>3.3 成果3 住民の栄養改善に関わる関係機関が共同して、都市農業普及事業を実施する。</p>	<p>3.3.1 住民の栄養改善に関わる公的機関が都市農業の普及活動に人員を派遣する</p> <p>&lt;その他調査項目&gt; 指標には現れない達成度</p>	<p>・プロジェクト開始前後の比較 ・目標達成の見込み</p>	<p>・栄養改善関係の公的機関が都市農業普及に派遣する人材の有無</p>	<p>当初、貧困層向け住宅金庫（Caja de Vivienda Popular）と公立病院が都市農業活動をしていくという情報を得ていたため、両機関と連携した活動を予定していた。しかしながら、その後住宅局はそもそも都市農業活動を予定していないことが確認され、また病院も都市農業活動を中止したことから、両機関との連携が事実上不可能となり、成果3の内容を変更せざるを得なくなった。成果3は活動の持続性を担保することを目的としており、当初は植物園が栄養改善活動を実施できなくなった場合には、他の関連機関が栄養改善活動をフォローアップできる仕組みを作ることとを予定していた。上述の事態を受け、当初計画の代替として、円卓会議を強化し、活動の持続性の担保を図ることを成果3として設定した。これにより、住民と行政機関の関係が強化され、住民に必要な支援が行政から得られる仕組みが構築されることになる。なお、円卓会議は既に毎月実施され、住民のニーズが行政に届けられるようになってきていることから、成果3はほぼ達成されたといえる。</p>

## 評価グリップッド（2、実施プロセス）

プロジェクト名：コロンビア国 国内避難民等社会的弱者に対する栄養改善計画

実施期間：2006年6月～2009年5月（3年間）

ターゲット・グループ：国内避難民を含む社会的弱者

評価設問			
大項目	中項目	小項目	必要なデータ・情報
1.実施プロセスの適切性	1.1 活動の実施	1.1.1 プロジェクトの活動は、詳細活動計画(PO)のスケジュールどおりに実施され、当初予定されていた達成度に到達したか	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動の達成度</li> <li>POと実際の活動の時期</li> </ul>
	1.2 プロジェクトのマネジメント体制	1.2.1 プロジェクトの意思決定過程は妥当だったか	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクト定例会議等の議題・頻度</li> <li>意思決定の過程</li> <li>JCC開催頻度</li> </ul>
			<p>・プロジェクトの意思決定・モニタリングに関わる会議は次の5つである。ただし(2)(3)は2007年11月以降開催されていない。</p> <p>(1) 都市農業プロジェクトサントバルバ区チーム定例会（毎週1回、参加者：社会開発アドバイザー、サンクリストバル区チームメンバ全員、間瀬専門家）</p> <p>(2) プロジェクトリーダーとの打ち合わせ（毎月2回、参加者：プロジェクトリーダー、間瀬専門家）</p> <p>(3) プロジェクト会議（毎月1回程度、参加者：技術活動部長、プロジェクトリーダー、普及係長、社会教育係長、試験研究係長、クリンテックノロジー係長、間瀬専門家）</p> <p>(4) 合同調整会議（2007年1月、参加者：別添）</p> <p>(5) 運営会議（2007年8月、参加者：植物園長、技術活動部長、プロジェクトリーダー、普及係長、社会教育係長、サン・クリストバル区アドミニストレータ、JICA現地事務所（高瀬、秋山、山田、Oscar Angel）、間瀬専門家、サン・クリストバル病院、Accion Social、INS</p> <p>2007年12月、参加者：植物園長、技術活動部長、プロジェクトリーダー、普及係長、社会教育係長、サン・クリストバル区アドミニストレータ、JICA現地事務所（秋山、山田、Oscar Angel）、間瀬専門家</p> <p>会議の種類、頻度ともに妥当と思われる。一方、2007年11月以降開催されていない会議（(2)と(3)）については今後再開することが望ましい。</p> <p>決定採択のプロセスが確立されなかったため、活動実施に遅滞をきたした。この影響として、プロジェクト活動が遅滞する、C/Pが業務意欲をなくす、プロジェクトから技術移転を受けた植物園職員が退職する、等のマイナスの影響が観察された。</p>
		1.2.2 モニタリングは定期的の実施されたか、誰がモニタリング作業を担当しているか。モニタリングシステムは機能しているか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>JICA専門家が月例報告書を作成し、コロンビア事務所に進捗報告を行っている。また、報告結果は公電で農村開発部に共有されている。</li> <li>専門家とC/Pでのモニタリングは上述の5種の会議のほか、半年ごとに専門家が作成する運営総括表の共有によって行われている。</li> </ul>
		1.2.3 モニタリングの結果が計画や活動への修正にフィードバックされたか	<ul style="list-style-type: none"> <li>モニタリング実施状況</li> <li>計画、活動へのフィードバック</li> </ul>
	技術移転の方法	1.2.4 C/Pと専門家は共に活動を行っているか	<ul style="list-style-type: none"> <li>技術移転は、研修が主体である。研修では、まず座学で課題が与えられ、その課題を現場で試し、その結果を反省会で検証するという一連のプロセスで構成されている。</li> </ul>
			<ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクト及びC/Pからのモニタリングの報告をもとに、適正に活動の見直しを進めてきた。</li> </ul>

<p>1.2.5 C/Pと専門家間のコミュニケーションの状況はどうか</p>	<p>・専門家とプロジェクトC/Pのコミュニケーションによるコミュニケーションは、極めて円滑に行われている。 ・日常の連絡のほかに、専門家とC/Pの情報共有は上述の5種の会議を通じて定期的に行われてきた。</p>	<p>・コミュニケーションの仕組み・状況</p>	<p>・専門家とプロジェクトC/Pのコミュニケーションによるコミュニケーションは、極めて円滑に行われている。 ・日常の連絡のほかに、専門家とC/Pの情報共有は上述の5種の会議を通じて定期的に行われてきた。</p>
<p>1.2.6 カウンタバーパート・専門家・マネージャ等とのあいだの連携に問題はなかったか</p>	<p>・プロジェクト内のコミュニケーション ・全体会議の出席者 ・活動の主な実施者</p>	<p>・プロジェクト内のコミュニケーション ・全体会議の出席者 ・活動の主な実施者</p>	<p>・植物園内で指導陣と技術チームの間にコミュニケーションの問題があった。 ・技術チーム内でのコミュニケーションは活発に行われている。</p>
<p>1.3 カウンタバーパート/実施機間の主体性（オーナーシップ）</p>	<p>1.3.1 関係者のプロジェクトのスキーム（技プロ）およびPDMの理解度</p>	<p>・実施者（C/P・専門家） ・関係者のプロジェクト理解度（スキーム、PDM等）</p>	<p>・C/Pと共にPDMの見直しに取り組んでおり、彼らのPDMに対する理解は高いレベルにあったが、その後の人事異動により、現在PDMを理解しているものは、技術活動部長、社会開発アドバイザー、サンクリストバル区アドミニストレーターの3名である。 ①都市農業普及活動に資金を投入しているのは区役所であるにもかかわらず、JICAプロジェクトが資金投入を行っているよ ②本プロジェクトのプロジェクト・ファインディングの過程で、住民を直接援助するための資源投入を大量に行う事が計画されているという誤解を、住民および一部の政治リーダーに与えた。 上記、2点については、機会を求め、JICAプロジェクトとして実施メカニズムに関する説明を住民及び区役所に対して行ったため、現在ではこの問題は解決している。</p>
<p>1.3.2 C/P機関から安定した予算配分がなされているか</p>	<p>・主体的に実施していたのは誰か</p>	<p>・主体的に実施していたのは誰か</p>	<p>・C/P給料、事務所光熱費、車輛を含む資機材の維持管理経費については、コ側負担で事業が実施されている。 ・サンクリストバル区での事業経費は、C/P機関の植物園から10%、サンクリストバル区から90%支出されている。なお、各区への都市農業普及チームで単一の区を担当しているのは、サンクリストバル区のみであり、他のチームは複数の区を担当している。これはサンクリストバル区が単一の区でチームを組めるだけの十分な予算を配分していることによる。</p>
<p>1.3.3 C/Pのプロジェクトへの参加意欲</p>	<p>・C/Pが主体的にプロジェクトに参加しているか ・C/Pの関わり方・度合いの変化 ・意思決定プロセスにおけるC/Pの関わり方・度合い</p>	<p>・C/Pが主体的にプロジェクトに参加しているか ・C/Pの関わり方・度合いの変化 ・意思決定プロセスにおけるC/Pの関わり方・度合い</p>	<p>・プロジェクトC/Pが中心となって、プロジェクトを実施している。被援助国側が中心になってプロジェクト運営がなされているという意味では、グッド・プラクティスと評価できる。 ・C/Pからの聞き取り、現地調査にて、彼らの熱意、参加意欲、主体性が高いことを確認した。</p>
<p>受益者の事業への関わり方はどうだったか？またプロジェクトへの認識は高かったか？</p>	<p>・受益者の事業への関わり方 ・プロジェクトの認識</p>	<p>・受益者の事業への関わり方 ・プロジェクトの認識</p>	<p>・円卓会議は行政主導ではなく、住民の自主的な参加によって行われていることから、受益者の主体性が高まっていると言える。 ・JICAプロジェクトとしての認識度は、円卓会議への参加度合いによる。そのため、円卓会議への関与が少ない住民の認識度は低い。</p>
<p>他のステークホルダーの事業への関わり方はどうだったか？またプロジェクトへの認識は高かったか？</p>	<p>・他のステークホルダーの事業への関わり方 ・プロジェクトの認識</p>	<p>・他のステークホルダーの事業への関わり方 ・プロジェクトの認識</p>	<p>・事業実施を通じての関係性の強いサンクリストバル区役所およびINSのプロジェクトへの認知度は高い。また、円卓会議に出席する機関の認知度も高い。</p>
<p>2.1 その他、実施過程で生じている問題</p>	<p>2.1.1 プロジェクト内部で生じている問題等</p>	<p>・プロジェクト実施に影響を及ぼしたと思われる問題</p>	<p>本プロジェクトの枠組みの中で本邦研修を受講した2名の職員は、情報の普及や経験の文書化を行っておらず、JICA専門家がその分の普及活動を行い補って来た。</p>

### 評価グリッド (3. 評価5項目)

プロジェクト名：コロンビア国 国内避難民等社会的弱者に対する栄養改善計画  
 実施期間：2006年6月～2009年5月（3年間）

評価設問						
大項目	中項目	小項目	判断基準	必要なデータ・情報		
1. 妥当性	プロジェクトを実施する必要性	1.1.1 実施機関（ボゴタ市植物園）のニーズとの整合性	・実施機関のニーズを再確認し、合致しているかを判断する	・ボゴタ市及びボゴタ市植物園が国内避難民等社会的弱者向けに実施している技術協力の現状と技術的ニーズとの整合性 ・ボゴタ市植物園スタッフのニーズ	調査結果(プロジェクト報告より) 内容 植物園は植物栽培技術を保有していたものの、以下の2点における技術的ニーズが高かった。 (1) 都市農業栽培技術 植物園は家庭的にテラスなどを利用して実施する「土地のないところで実施する農業」というボゴタの都市農業は家庭菜園的な特徴があり、近隣諸国を含め技術的ノウハウがなかった。そのため、野菜栽培技術のニーズはこれまでにない形態であり、近隣諸国を含め技術的ノウハウがなかった。そのため、野菜栽培技術のニーズは高かった。栽培分野の技術開発については、日本人専門家ではなくC/P機関である植物園が主体となり、日本人専門家がその活動を補足的にサポートする形で進められている。また、都市農業の一般的な栽培技術を開発したところで、生産性の向上や、作目ごとの技術開発はこれらからなっている。 (2) 普及戦略 植物園が都市農業を一般市民を対象に普及するための参加型の普及はまだ十分に開発されておらず、技術的ニーズが高かった。プロジェクトでは参加型地域社会開発の理論と方法論を取り入れた普及技術を導入した。	
		1.1.2 最終受益者（国内避難民等社会的弱者）のニーズとの整合性	・都市農業分野のニーズを再確認し、合致しているかを判断する	・対象地域における国内避難民及び社会的弱者のニーズと栄養改善プロジェクトの整合性	受益者である「国内避難民等を含む社会的弱者」はビタミン不足により栄養状態が悪く、またこうした住民にとつて野菜を入手するのは困難となっている。それゆえ、都市農業は、野菜を入手できるようにする手段と考慮され、こうした市民の栄養状態の改善に貢献すると判断される。	
		1.1.4 コロンビアの政策との整合性	・関係機関の政策との整合性	・国内側国内避難民支援政策との整合性 ・その他の関連政策との整合性	・コロンビアの政策における国内避難民支援政策の位置づけ ・国内避難民支援政策における栄養改善の位置づけ ・その他の関連政策	・コロンビアは、貧窮問題とそこから派生する問題の解決、及び国内避難民に対する支援を重要課題としており、1997年法（法律第387号）等の法律や法令により、こうした国民の支援、保護、社会的経済的安定を図っている。この点、コロンビアの政策上は、国内避難民等社会的弱者の食糧安全に資する本プロジェクトの妥当性は高い。プロジェクト開始後も、コロンビア政府の貧窮問題解決と国内避難民支援を旨とする政策は変わりなく、プロジェクトの活動、プロジェクト目標及び上位目標は、国および首都圏の食糧安全保障及び栄養に関する政策との整合性を保っている。
		1.1.3 関係機関（ACCION SOCIAL、ボゴタ市、サンクリストバル区）の政策との整合性	・関係機関の政策との整合性	・ACCION SOCIALの政策 ・ボゴタ市の政策 ・サンクリストバル区の政策	・ACCION SOCIALは社会的弱者を対象として266のプログラムを実施しており、REESAはそのうちの食糧安全保障プロジェクトを推進している。そのプロジェクトのひとつが、シウダッド・ボリバルにおける食糧安全保障プロジェクトである。 ・ボゴタ市では、都市農業プロジェクトは、前政権プログラム" Bogota sin hambre"、現政権プログラムの"Bogota sin hambre"は"Bogota bien alimentada"の下に位置づけられる。 ・サンクリストバル区では、エコツーリズムと都市農業が現政権の2大プロジェクトとして実施されている。	
		1.1.5 JICAの個別事業実施計画との整合性	・援助方針に変化はなかったか	・援助方針に一致したか	・本プロジェクトは、コロンビア国の援助重点分野「平和の構築」の中の開発課題「紛争の結果生じる社会的・経済的問題への対応」へのアプローチとして位置づけられる。また、右開発課題に対応するJICAプログラム「紛争の被害者・共生和解支援プログラム」を構成する案件として位置づけられており、わが国の援助方針及びJICA国別実施方針に整合したプロジェクトとして実施されている。	
		1.1.6 日本の技術の比較優位性	・他国、他援助機関との比較	・C/Pの認識	コロンビアにおける栽培分野、栄養改善分野における技術、知識のレベルは高いが、一方、普及のための戦略や知識については十分に開発されていない。今回普及戦略として導入した参加型地域開発手法は日本で開発された参加型開発の優れた手法でありその比較優位性は高く、コロンビア側からも高く評価されている。	
		1.1.7 プロジェクト目標の妥当性	・プロジェクト目標の妥当性	・課題に対してのプロジェクトを実施する根拠	野菜を入手することが困難であり栄養分としても不足していることから、プロジェクト目標で言及する栄養改善は、野菜の消費量と種類の増加を意味すると解釈できる。	

<p>1.2.1 協力計画の策定および変更過程の適切性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係者の参加度、妥当性</li> <li>当初計画策定時のプロセス</li> <li>計画変更の妥当性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>計画策定各過程の検証</li> <li>妥当性にかかわる関係者の見解</li> </ul>	<p>プロジェクト計画の変更過程を概観すると以下のとおりである。 プロジェクト当初（PDM0）、プロジェクトの成果を簡単に紹介すると以下の3点であった。(1) 植物園の能力強化 (2) 住民の能力強化 (3) 栽培技術普及システムの強化。成果3当初は活動の持続性を担保するという位置づけで設定された。「栽培技術普及システムの強化」については、そもそも「住民への普及ツール開発」のみとなっていた。しかし、「住民への普及ツール開発」だけではプロジェクト活動の持続性を担保するのが難しいこと、またこの教材開発は植物園の能力開発の一貫であることと理解されることを、プロジェクト開始直後に指摘されたことから、成果3の活動として計画された「住民への普及ツールの開発」を成果1「植物園の能力強化」に含め、新たに成果3を設定することとした（PDM1）。</p> <p>関係者との協議の結果、プロジェクト活動の持続性の担保を、他の関連機関との共同体制を構築することとすることとした。つまり、将来的に植物園がプロジェクト活動を終了した場合にも、関連機関が都市農業を通じて栄養改善活動をできる体制を構築することとした。当時都市農業活動を実施していた機関が、住宅局と病院であったことから、これらの機関と連携すること、つまり「栄養改善関連機関との連携強化」を新たな成果3として設定し、PDMの改訂を行った。</p> <p>しかしながら、その後事実確認を行った結果住宅局はそもそも都市農業活動を行っていないことが確認され、また病院も都市農業活動を中止したこと、両機関との連携が事実上不可能となり、成果3の内容を改めて変更せざるを得なくなった。上述の事態を受け、「栄養改善関連機関との連携強化」の代替として、円卓会議を強化し、活動の持続性の担保を図ることを成果3として設定し直した。これにより、住民と行政機関の関係が強化され、住民に必要な支援が行政から得られる仕組みが構築されることになる。</p> <p>この変更プロセスは、プロジェクト関係者（JICA及びC/P）間で行われたもので、適切であったと判断される（PDM2）。</p>
<p>1.2.2 最終受益者である「サンクリストバル地区の国内避難民を含む社会的弱者」は、最終受益者として妥当であるか</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>ターゲットグループの選定根拠</li> </ul>	<p>サンクリストバル地区は、国内避難民を含む社会的弱者の割合が高い区であり、こうした市民が農村出身者であることから都市農業の推進に適した条件を有しており、またサン・クリストバル区役所の支援もあることから、同区の上記市民を最終受益者とすることは妥当である。</p>
<p>1.2.3 プロジェクト目標と上位目標の整合性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクト目標の達成は、上位目標の達成に直接的に働くか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクト目標から上位目標への必要条件</li> <li>当初計画策定時の方針</li> </ul>	<p>プロジェクト目標は、「サンクリストバル区における国内避難民を含む社会的弱者の栄養取状況が改善される」であり、上位目標では対象地区がボゴタ市に拡大されて目標が設定されている。プロジェクトで技術移転をはかっている植物園は、ボゴタ市全域で都市農業普及活動を進めている実施機関であり、プロジェクト目標の達成及び成果の波及効果を促進する事は、上位目標の達成に直接的に働く見込みである。</p>
<p>1.2.4 成果とプロジェクト目標の整合性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各成果は、プロジェクト目標の達成に必要な十分な条件であるか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>成果からプロジェクト目標への必要条件</li> <li>当初計画策定時の方針</li> </ul>	<p>プロジェクト目標である栄養状況の改善は、成果1「植物園の能力強化」および成果2「住民の能力強化」がなければ達成できない。成果3は、プロジェクト目標達成のみならず、事業や成果の持続性を担保するために必要な成果である。</p>
<p>1.2.5 プロジェクトデザイン全般に係る妥当性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各目標、成果、活動はプロジェクトとして明確か</li> <li>その他</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>その他全般意見</li> </ul>	<p>本プロジェクトのターゲットグループは「サンクリストバル区の国内避難民を含む社会的弱者」であるが、都市農業プロジェクトに参加し、都市農業を行うためには定住している必要がある。避難生活を始めたばかりの国内避難民は、特定の住居を持たず転々とした生活を送る特徴を有することから、この避難民グループにプロジェクトがアクセスすることは難しい。そのため、本プロジェクトで対象となる国内避難民は、転々とした生活を脱し定住生活を営んでいるグループとする。</p>



評価設問				調査結果(プロジェクト報告より)	
大項目	中項目	小項目	判断基準	必要なデータ・情報	内容
2.有効性	2.1 プロジェクト目標の達成予測 「都市農業の強化を通じて、サンクリスタバル区の国内避難民を含む社会的弱者の栄養摂取状況が改善される」		・計画と実績との比較	・受益者の消費する野菜の種類 ・受益者の消費する野菜の量	*「評価グリップド (1.実績表) 上位目標の達成度」と同じ。
	2.2 アウトプットとプロジェクト目標の因果関係	2.2.1 (成果1) ボゴタ市植物園の都市農業に関わる能力が強化される	・アウトプットの実績とプロジェクト目標達成への貢献度 2008年に、ボゴタ市都市農業栽培マニユアル1種および都市農業普及マニユアル1種が作成される。	・アウトプットの実績とプロジェクト目標達成への貢献度	成果1の産出は栄養改善分野を除き順調に行われている。植物園の都市農業栽培技術およびその普及技術は向上しており、その結果植物園の普及員およびソーシャルフーカーによって住民向け都市農業研修やその後の技術指導が実施されている。都市農業プロジェクトをサンクリスタバル区で実施しているのは本プロジェクトだけであり、受益者の栄養状況の改善(消費する野菜の種類と量の増加)への成果1の貢献度は高いと考えられる。 *アウトプットの実績は「評価グリップド (1.実績表) 各成果の達成度」と同じ。
		2.2.2 (成果2) 住民及び住民組織の都市農業に関わる能力が強化される	・アウトプットの実績とプロジェクト目標達成への貢献度 プロジェクト終了までに受益者家庭の栽培面積が15%増加する。	・アウトプットの実績とプロジェクト目標達成への貢献度	成果2の産出を現時点で数値として測定することはできなかつたが、現地調査にて住民が都市農業を実践し、成果があがりつつあることを確認した。プロジェクト目標を達成するためには、住民自身が都市農業を実践し、生産した野菜を採取する必要がある。そのため、成果2のプロジェクト目標への貢献度は極めて高いと考えられる。 *アウトプットの実績は「評価グリップド (1.実績表) 各成果の達成度」と同じ。
		2.2.3 (成果3) 住民の栄養改善に関わる関係機関が共同して、都市農業普及事業を実施する	・アウトプットの実績とプロジェクト目標達成への貢献度 住民の栄養改善に関わる公的機関が都市農業の普及活動に人を派遣する	・アウトプットの実績とプロジェクト目標達成への貢献度	成果3は、プロジェクト目標達成に不可欠であるのみならず、事業や成果の持続性を担保するために必要な成果である。 *アウトプットの実績は「評価グリップド (1.実績表) 各成果の達成度」と同じ。
	2.3 目標達成に貢献した要因	2.3.1 各成果達成に貢献した要因	・貢献要因とのプロジェクト目標との因果関係とその影響	・貢献要因とのプロジェクト目標との因果関係とその影響 ・プロジェクト目標達成に貢献した他ドナーおよび政府によるプロジェクト・施策などの有無とその影響	・住民の出自から都市農業を受け入れやすい素地があったといえる。サンクリスタバル区の住民は、農村部出身者が多く、農業の経験を有する者も少なくない。そのため、農業をすること(土いじり)への抵抗感が少ないことは勿論、栽培技術への受容性の高さを、野菜を生産することに喜びを見出す者が多くいたことが指摘できる。
	2.4 目標達成を阻害した要因	2.4.2 成果、外部条件、活動、投入、あるいは前提条件が阻害要因となっているか。また、それはそれ以外の阻害要因があるか。	・阻害要因との因果関係 ・成果からプロジェクト目標に至るまでの阻害要因の影響	・阻害要因との因果関係 ・成果からプロジェクト目標に至るまでの阻害要因の影響	*目標達成を阻害した要因は「評価グリップド (1.実績表) プロジェクト目標の達成度 (プロジェクト目標の達成を阻害する要因はあるか)」と同じ。

評価段階		調査結果(プロジェクト報告より)			
大項目	中項目	小項目	判断基準	必要なデータ・情報	
3. 効率性	アウトプロットの産出	アウトプロットの産出度合いは適切か(不足はないか)。	・成果と投入量の比較	・成果達成度 ・投入量、内容等 ・従事する「活動分野」 との整合性	栄養改善分野の成果を除くならば、成果1については成果が順調に産出されており、また成果2については数値では確認できないものの現場で都市農業が実践されていることが確認できたことから概ね順調に進捗していることが推定される。成果3については、計画変更後は順調に進捗しており、特設の問題は見受けられない。以上のように成果はそれぞれ順調に産出されており、栄養改善分野を除けば効率性は確保されているといえる。
	因果関係	アウトプロットの産出を阻害した要因はあるか。		・阻害要因と対処方法	*アウトプロット産出を阻害した要因は「評価グリッド(1,実績表) プロジェクト目標の達成度 (プロジェクト目標の達成を阻害する要因はあるか)」と同じ。要すれば、栄養改善分野の人的投入を確保できなかったこと。
	タイミング・質・量	活動から成果に至るまでに外部要因の影響はあったか。	アウトプロットを産出するた めに十分な活動であった か。 アウトプロットを産出するた めに十分な投入であった か。	・活動実績と成果実績 ・投入実績と成果実績	上述のとおり、栄養改善分野を除けば成果は産出されており、活動は成果の産出に十分であったといえる。 上述のとおり、栄養改善分野を除けば成果は産出されており、投入は成果の産出に十分であったといえる。
3.2 プロジェクトと関係機 関との連携の貢献度	3.2.1 サンクリストバル区との連 携	活動を実施するために過不 足はない質・量の投入がタイ ミングよく実施されたか？	・連携状況と貢献度	・専門家(人数・タイミ ング・分野・効果) ・供与機材(種類、機 種、教、タイミング、活 用状況、メンテナンス) ・研修員受け入れ(タイ ミング、教、研修内容、ブ ロジエクトへの効果) ・現地セミナー(タイミ ング、教、研修内容、ブ ロジエクトへの効果) ・プロジェクト運営費 (量、タイミング) ・カウタンターパートの配 置(人数、タイミング、 分野) ・提供された機材・施設 (規模、タイミング、 質)	栄養改善分野の投入を除き、投入の質、量、タイミングは特設問題なかった。ただし、研修センターの完成が約1年遅れたことから、研修活動実施のための場所探しが必要となった。残りのプロジェクト期間において、講義施設兼展示圃場として貢献し得る可能性は高く、今後の有効活用が期待される。
	3.2.2 ロサリオ大学、IPESとの連 携		・連携状況と貢献度	・連携した活動内容	・区と住民が中心となり実施している都市農業円卓会議(住民及び公的機関の会合)を通じて他の機関との連 携強化を目的にサンクリストバル区と連携して、プロジェクト活動を展開している。この取り組みを通じて、 都市農業活動の持続性を担保する予定である。サンクリストバル区からは、都市農業活動予算(全体予算の 90%)、円卓会議の会場などの提供を受けている。
	エントレヌーベ公園(サン クリストバル区内)				都市農業プロジェクトメンバークラスが、ロサリオ大学とIPESの実施する都市農業研修に参加し、IPESの参加型開発 ツールの活用方法を学習し、現場で利用している。例えば、参加型開発ツールは円卓会議での計画立案の際に活 用しているほか、住民グループが都市農業プロジェクト活動にて作成するコミュニケーションIPESの手法を 活用している。一方、ロサリオ大学の都市農業スタッフは本プロジェクトが実施する研修(参加型地域社会開発をテー マとしたもの)に参加している。
	国家保健機関 (INS) との 連携				サンクリストバル区で都市農業を実施するにあたり、エントレヌーベ公園のスタッフには住民組織の調整役と して活動を支援してもらっている。また円卓会議にも毎回3名のスタッフも参加している。その他、公園からは 講義室の貸与といった便宜が無償で受けている。

3.3 プロジェクトの支援体制の効率性への貢献度	3.2.2 FAOとの連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>連携状況と貢献度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>連携した活動内容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>FAOが2007年に都市農業とリンクした食生活の改善セミナーを実施した際に使用された教材類をJICAプロジェクトで素材として利用できる事となっている。</li> </ul>
3.3	3.3.1 合同調整委員会（各種会議）の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>活用状況と貢献度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>委員会開催頻度</li> <li>議題および検討事項</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>第一回目の合同調整委員会を2007年1月に開催し、PDM0からPDM1への改定およびPOの改訂を承認した。</li> </ul>
	3.3.2 上部機関（ボゴタ市環境局）のマネジメントおよびサポートの適切性	<ul style="list-style-type: none"> <li>活用状況と貢献度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各提言の活用状況(改善状況)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>C/P機関である植物園は、現在、首都区環境局の関係機関となっている。それゆえ、政策的には、環境局に從うが、プロジェクトの実施に同局は直接関係していない。</li> </ul>
	3.3.3 JICAコロンビア事務所、農村開発部等からの提言の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>妥当性、適切性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>JICA事務所・JICA本部のサポート状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>JICAコロンビア事務所とは日常的に連絡を取っている。プロジェクトで調達する高価な機材はJICAコロンビア事務所の支援を受けて調達を行っている。</li> </ul>
	3.3.4 その他の支援体制の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>活用状況と貢献度</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>特になし</li> </ul>
3.4 効率性を阻害した要因の発現	3.4.1 効率性を阻害したと思われる要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>阻害要因の有無</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>効率性を阻害した要因</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>初年度に機材供与の投入が集中し、これに関わる専門家の調整業務が初年度に集中する事になった。</li> </ul>

評価設問				調査結果(プロジェクト報告より)	
大項目	中項目	小項目	判断基準	必要なデータ・情報	内容
4. インパクト	4.1 上位目標達成の見込み 「都市農業の強化を通じて、ボゴタ市の国内避難民を含む社会的弱者の栄養摂取状況が改善される」	4.1.1 上位目標の達成は見込めるか？	・指標のプロジェクト実施前後の比較	・実績表	*上位目標達成の見込みは「評価グリッド(1,実績表) 上位目標達成度」と同じ。
		4.1.2 上位目標達成のためにその他のアウトプットや活動がさらに必要か	・その他必要なアウトプット等の有無	・国家プログラムと上位目標と当プロジェクトの関係	
		上位目標達成を阻害する要因はあるか。		・社会経済的要因、文化的要因など	・現時点で想定される阻害要因はない。
	因果関係	上位目標とプロジェクト目標は乖離していないか。			両者に乖離はない。理由は「評価グリッド(3,評価5項目) プロジェクトデザインの妥当性 プロジェクト目標と上位目標の整合性」に同じ。
	4.2 その他のインパクト(波及効果)	プロジェクト目標から上位目標に至るまでの外部条件の影響はあったか。	・プロジェクト実施前後の比較	・発現している(予想される)インパクト	上位目標達成に影響するような外部条件はなかった。
		4.2.1 プラスのインパクト(政策的、組織的、技術的、社会的、経済的)			<b>本評価のインパクトは、関係者から得られた情報に基づき、合同評価委員会が定性評価を行ったものである。</b> <b>政策面</b> JICAプロジェクトは、サン・クリストバル区で直接実施されているため、そこには直接のプラスのインパクトが観察される。上位目標が達成されればより大きなインパクトが期待でき、現在までに都市農業を政策として策定しようとする動きがボゴタ市に生まれている。 また、ボゴタ市全体の都市農業が順調な進捗を見せ一定の評価を受けたことから、2008年発足のボゴタ市新政権は開発計画の中に都市農業を組み込んだ。 そのため、今後も都市農業の普及システムは、植物園のイニシアティブで住民へのサービスの一環として継続されることとなった。また、サン・クリストバル区では、区の開発計画に都市農業の実施がうたわれている。
					<b>技術面</b> 植物園が実施する市民対象のプロジェクトに「参加型地域社会開発(PLSD)」を全面的に導入する可能性が高まってきた。植物園は、サン・クリストバル区で適用されているPLSDの手法を他の区にも導入しようとしている。
					<b>社会面</b> プロジェクトで実施した予備調査、及びナショナル大学が実施した調査の結果に従えば、本プロジェクトの「社会統合」にかかわるものもある。 この社会面でのインパクトは、今回打ち合わせを行った全ての機関から確認することができた。 また、サン・クリストバル区では、住民の組織化により参加が促進されている。
		4.2.2 マイナスのインパクト(政策的、組織的、技術的、社会的、経済的)	・プロジェクト実施前後の比較	・発現している(予想される)インパクト	これまでのところ、マイナスのインパクトは確認されていない。

評価段階			調査結果(プロジェクト報告より)		
大項目	中項目	小項目	判断基準	必要なデータ・情報	
5. 自立発展性	5.1 組織面	5.1.1 プロジェクト運営にかかわるボゴタ市植物園の組織的自立発展性	・実績と期待値	・ボゴタ市植物園の運営管理能力 ・人的資源	<b>組織制度・体制:</b> プロジェクトスタッフ（普及員、ソーシャルワーカー）が全員有期契約スタッフであることから、事業の持続性の観点ではマイナスマス要因であるといえる。しかしながら、都市農業がボゴタ市新政権の政策として継続される見込みであることから、現時点においてはこの問題の影響は小さいといえる。  <b>運営・管理能力:</b> 植物園の事業運営管理能力に問題はない。また、現在、プロジェクトはC/Pが主体的に活動を進めており、政策的な支援がある限り、プロジェクトを運営・管理する人的資源は確保されている。
		5.1.2 サンクリストバル地区住民の組織的自立発展性	・実績と期待値	・ボゴタ市住民組織の運営管理能力 ・人的資源	
		5.1.3 関係機関（サンクリストバル地区、INS）との連携	・実績と期待値	・ボゴタ市植物園の運営管理能力 ・人的資源	
	5.2 政策面	政策的支援は協力終了後も継続するか。関連規制、法制度は整備されているか、またその予定か。		・ボゴタ市、サン・クリストバル地区 ・コロンビア国の国内避難民支援政策の動向 ・国内避難民支援における栄養改善事業の位置づけ	<b>政策的支援</b> 2008年発足のボゴタ市新政権は、都市農業を植物園を実施機関として普及していくことを開発計画の中で施政方針として打ち出した。また、サン・クリストバル区においても政策の柱として都市農業活動が取り上げられる見込みである。
	5.2 財政面	5.2.1 コロンビア政府の予算配分の見込み 予算確保のための対策は十分か	・実績と期待値	・予算計画（国、市、区） ・予算確保の仕組み	ボゴタ市では、開発計画に都市農業が組み込まれ、またサンクリストバル区でも現政権の施策として都市農業を実施していることから、今後継続的に予算が確保できる可能性は高い。  上述のとおり、予算確保の可能性は高い。
	5.3 技術面（移転した技術の定着と維持の仕組み）	5.3.1 C/Pの技術・能力の定着度 C/Pの定着率（異動、退職）	・プロジェクト実施前後の比較 ・期待値	・現在の技術レベル ・今後の期待レベル ・プロジェクトからC/Pに 移転された技術の適用度	・植物園の強みは栽培技術であるのに対して、日本から移転されているのは地域社会開発のアイデアであり、普及技術である。これらの点に関して植物園側のニーズは高く、これに対応して定着度も高い。 ・日本人専門家によって対象者別の研修を実施するとともに、本邦集団研修「参加型地域社会開発の理論と実践」及び「参加型地域社会開発のプロジェクト計画管理」にC/P及び関係機関の人材を派遣した。また、2008年1月には該当本邦研修のラミオアローアップをプロジェクト実施機関内において行った。これによって本邦研修参加者以外のC/Pもフォローアップの議論をオプザープすることが可能となった。この結果、植物園が実施する市民対象のプロジェクトに「参加型地域社会開発（PLSD）」を全面的に導入する可能性が高まってきた。また、同PLSDのアイデア他を利用して実施しているサン・クリストバル区都市農業円卓会議の技法を、他の区でも利用しようとする動きが、植物園内に出てきた。 ・都市農業プロジェクトのサンクリストバル区チームの定着率は、他の区を担当するチームに比べて高い。
		5.3.2 国内避難民を含む社会的弱者への普及能力の変化	・プロジェクト実施前後の比較	・現在の技術レベル ・今後の期待レベル ・C/Pから受益者に移転された技術の適用度	



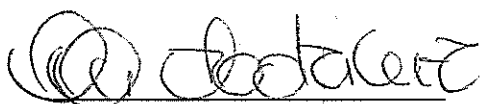
**MINUTA DE DISCUSIONES DE LA EVALUACIÓN INTERMEDIA CONJUNTA  
DEL PROYECTO DE MEJORAMIENTO DE LA CONDICIÓN NUTRICIONAL  
DE LA POBLACIÓN VULNERABLE  
INCLUYENDO LA POBLACIÓN EN SITUACIÓN DE DESPLAZAMIENTO  
A TRAVÉS DEL FORTALECIMIENTO DE LA AGRICULTURA URBANA  
EN LA REPÚBLICA DE COLOMBIA**

La Misión de Evaluación Intermedia Japonesa conformada por la Agencia de Cooperación Internacional del Japón denominada en adelante como "JICA", y liderada por el Dr. Takeo SASAKI llamada en lo sucesivo "Equipo Japonés" ha visitado la República de Colombia del 18 al 30 de mayo de 2008, con el objetivo de llevar a cabo la evaluación intermedia conjunta del "Proyecto de Mejoramiento de la Condición Nutricional de la Población Vulnerable Incluyendo la Población en Situación de Desplazamiento a través del Fortalecimiento de la Agricultura Urbana en la República de Colombia", denominado en adelante el "Proyecto".

El Equipo de Evaluación Conjunta conformado por los miembros de la Misión de la Agencia de Cooperación Internacional del Japón y del Gobierno de la República de Colombia, fue creado con el propósito de realizar la evaluación intermedia y presentar las propuestas necesarias a los gobiernos de ambos países.

El Equipo de Evaluación Conjunta ha realizado la evaluación del Proyecto a través de estudios y entrevistas correspondientes, elaborando el "Informe de Evaluación Intermedia" llamando en lo sucesivo como "Informe". Dicho Informe fue presentado al Comité de Coordinación Conjunta del presente Proyecto. Los principales puntos acordados en el Comité de Coordinación Conjunta, se detallan en el documento adjunto a la presente.

Bogotá D.C., 29 de mayo de 2008



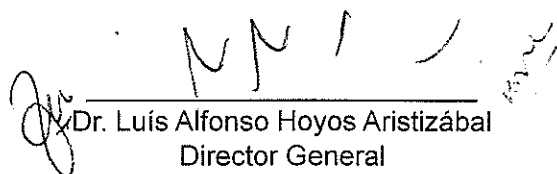
Dra. Paola Liliana Rodríguez Suárez  
Directora

Jardín Botánico José Celestino Mutis,  
Alcaldía Mayor de Bogotá D.C.  
República de Colombia



Dr. Takeo SASAKI  
Líder

Equipo de Evaluación Japonesa  
Agencia de Cooperación Internacional  
del Japón



Dr. Luis Alfonso Hoyos Aristizábal  
Director General  
Agencia Presidencial para la Acción Social y  
la Cooperación Internacional  
República de Colombia

## ANEXO

1. El Equipo de Evaluación Conjunta, conformado por miembros de JICA y representantes del lado colombiano, ha presentado al Comité de Coordinación Conjunta el Informe que se ve en el ANEXO 1.
2. El Comité de Coordinación Conjunta ha aprobado el Informe presentado por el Equipo de Evaluación Conjunta y ha acordado lo siguiente, de acuerdo con el informe.
  - (1) El lado colombiano y el lado japonés gestionan las medidas necesarias para atender las recomendaciones mencionadas en el Informe.
  - (2) Modificar la Matriz de Diseño del Proyecto como se muestra en el ANEXO 2.
  - (3) Ambos lados confirman que el objetivo "El mejoramiento de las condiciones nutricionales" significa "el mejoramiento de el comportamiento alimentario a través del fortalecimiento de la agricultura urbana", es decir, el "aumento de la cantidad y variedad de hortalizas que consumen".
  - (4) El Jardín Botánico de Bogotá estructurará un sistema que le permita acudir al Instituto Nacional de Salud para obtener apoyo técnico (orientaciones, consejos y estudios) con el fin de desarrollar en forma efectiva actividades del proyecto relacionadas con el mejoramiento de condición nutricional (mejoramiento del comportamiento alimentario).
  - (5) Se requiere que las personas capacitadas en el marco del proyecto comparta el conocimiento y técnica adquirido con los colegas del trabajo y aplicarlo en lo posible en el proyecto. Por lo tanto se espera que la entidad contraparte procure asegurar la continuidad laboral de este personal, por lo menos durante el período del proyecto, como personal contraparte del proyecto. También se requiere que este personal deje documentada la experiencia y técnica adquirida.

### Documentos Adjuntos

- 1: Informe de la Evaluación Intermedia Conjunta
- 2: Matriz de Diseño del Proyecto PDM





Nombre del Proyecto: **Mejoramiento de la Condición Nutricional de la Población Vulnerable Incluyendo la Población vulnerable incluyendo los desplazados de la Localidad 4ta de Bogotá D.C.**

Beneficiarios: **Población vulnerable incluyendo los desplazados de la Localidad 4ta de Bogotá D.C.**

Área de Cobertura: **4ta. Localidad (San Cristóbal), Bogotá D.C.**

Duración de la cooperación: **3 años desde 31 de mayo 2006**

Nº de versión de PDM: **2**

Fecha de elaboración de PDM: **29 de Mayo de 2008**

Resumen Narrativo	Indicadores	Medios	Condiciones Externas
<b>Objetivo Superior</b> Se mejoran las condiciones nutricionales de la población vulnerable, incluyendo la población en situación de desplazamiento a través del fortalecimiento de la agricultura urbana en Bogotá D.C.	La cantidad de hortalizas que consumen los habitantes del estrato 1, 2 y 3 en Bogotá aumenta 3 % hasta 2014	Estadística de los hospitales. (SAN)	No hay cambios de personal directivo y operativo en la estructura del proyecto. La Agricultura urbana continúa con respaldo político a nivel Distrital.
<b>Objetivo de proyecto</b> Se mejoran las condiciones nutricionales de la población vulnerable incluyendo la población en situación de desplazamiento de la Localidad 4ta. de Bogotá D.C., a través del fortalecimiento de la agricultura urbana.	La cantidad y variedad de hortalizas que consumen las familias beneficiarias aumenta 10 % hasta final del proyecto.	Estudio periódico. (Diagnostico participativo)	No hay cambios de personal directivo y operativo en la estructura del proyecto. La Agricultura urbana continúa con respaldo político a nivel Distrital después del 2008.
<b>Resultados (objetivos específicos)</b> 1. Se fortalece la capacidad técnica instalada en Jardín Botánico en Agricultura Urbana 2. Se fortalecen las capacidades del grupo objetivo en Agricultura Urbana 3. Fortalecer un marco organizacional comunitario para apoyar la sostenibilidad de la agricultura urbana en la localidad.	1. Se elabora un Manual de tecnología de siembra y un Manual de metodología social. 2. El área de producción de las familias del grupo objetivo determinadas por la línea base, se incrementa en un 10%. 3. La Mesa Local de Agricultura Urbana se celebra 6 veces por un año con la participación de 10 representantes del grupo comunitario.	1. Documento del Proyecto. 2. Estudio Periódico. 3. Documento del Proyecto.	No hay cambios de personal directivo y operativo en la estructura del proyecto. La Agricultura urbana continúa con respaldo político a nivel Distrital después del 2008.

3

8

72

<p><b>Actividades</b></p> <p><b>1.1. Apoyar el mejoramiento de tecnologías apropiadas en AU para Bogota.</b></p> <p>1.1.1. Investigación y adopción de tecnologías.</p> <p>1.1.2. Capacitación al personal del Jardín Botánico en tecnología de Agricultura Urbana.</p> <p>1.1.3. Preparación de Manual en Agricultura Urbana</p> <p><b>1.2. Capacitación en técnicas de trabajo comunitario.</b></p> <p>1.2.1. Capacitación al personal del Jardín Botánico en técnicas de trabajo comunitario.</p> <p>1.2.2. Preparación de Manual y Texto.</p> <p><b>1.3. Diseñar y ejecutar una estrategia pedagógica de comunicación y divulgación de AU.</b></p> <p>1.3.1. Compilar, sistematizar y procesar los productos de comunicación del proyecto AU.</p> <p>1.3.2. Formular el plan estratégico de información y comunicación.</p> <p>1.3.3. Fortalecer medios de comunicación y herramientas pedagógicas.</p> <p>1.3.4. Diseñar, implementar, alimentar con componente interactivo como sistema de información en Agricultura Urbana.</p> <p><b>1.4. Establecer la línea base.</b></p> <p>1.4.1. Diagnóstico de comportamiento alimentario en la localidad.</p> <p>1.4.2. Diagnóstico de Agricultura Urbana en la localidad.</p> <p><b>1.5. Monitoreo y evaluación.</b></p> <p>1.5.1. Monitoreo comportamiento alimentario en la localidad.</p> <p>1.5.2. Monitoreo de Agricultura Urbana en la localidad.</p> <p><b>2.1. Optimizar los cultivos urbanos existentes adecuados para la producción.</b></p> <p><b>2.2. Capacitación a los beneficiarios en técnicas de preparación y transformación de alimentos y en nutrición.</b></p> <p><b>3.1. Fortalecer habilidades en el grupo objetivo para formular proyectos.</b></p> <p>3.1.1. Fortalecer las organizaciones.</p> <p>3.1.2. Capacitación y acompañamiento en formulación de proyectos.</p> <p><b>3.2. Promover y fomentar espacios de encuentro entre las organizaciones comunitarias e instituciones para su reconocimiento a nivel intralocal e interlocal.</b></p> <p><b>3.3. Conformar un equipo asesor liderado por JBB, con las entidades relacionadas en el tema de comportamiento alimentario.</b></p>	<p><b>Aportes</b></p> <p><u>Jardín Botánico:</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Profesionales y técnicos contrapartes</li> <li>• Oficinas: para los expertos de JICA, espacios de capacitación y otras facilidades</li> <li>• Costo de operación del Proyecto</li> <li>• Equipamientos y materiales</li> <li>• Secretarías, conductores y personal de vigilancia.</li> </ul> <p><u>JICA:</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Un experto japonés de largo plazo</li> <li>• Expertos internacionales de corto plazo</li> <li>• Costo de pasantías de contrapartes en los países extranjeros</li> </ul> <p>Equipamientos, materiales e infraestructura</p>	<p>El Comité de Seguridad alimentaria y nutricional (SAN) se vincula institucionalmente durante el proyecto. (no se materializa el objetivo #3 si no se cumple este condición)</p> <p>El plan de ordenamiento territorial no determina el aprovechamiento de espacio para la A.U.</p> <p><b>Precondiciones (supuestos)</b></p> <p><b>La definición del grupo objeto</b></p> <p>Se define que el grupo objeto de este proyecto es la población vulnerable incluyendo la población desplazada reubicada.</p> <p><b>La definición de "el mejoramiento de la condición nutricional"</b></p> <p>Para este proyecto, el mejoramiento de la condición nutricional se define en términos de aumento de la cantidad y variedad de hortalizas consumidas por la población objeto del proyecto, a través de una estrategia integral de agricultura urbana que implica capacitación, producción y educación alimentaria y nutricional.</p>
--	--	--

73


**Informe de Evaluación Intermedia Conjunta sobre  
El Proyecto de Mejoramiento de la Condición Nutricional  
De la Población Vulnerable Incluyendo  
La Población en Situación de Desplazamiento a Través del  
Fortalecimiento de la Agricultura Urbana  
En la República de Colombia**

Bogotá, D.C., 28 de mayo de 2008

Comité de Evaluación Conjunta



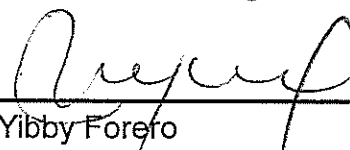
Sr. Jorge Calderon  
Subdirector Técnico Operativo  
Jardín Botánico de Bogotá



Sr. Luis Bernaldo Cañón  
Coordinador Zonal de San Cristóbal  
Agricultura Urbana  
Jardín Botánico de Bogotá



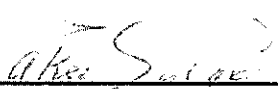
Sra. Carolina Avellaneda  
Asesora Red de Seguridad  
Alimentaria, RESA  
Agencia Presidencial para la Acción  
Social y Cooperación Internacional,  
Acción Social



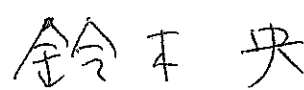
Sra. Yibby Forero  
Coordinadora Grupo de Nutrición  
Instituto Nacional de Salud, INS



Sra. Liliana Ramírez  
Coordinadora de Proyecto de  
Agricultura Urbana  
Universidad de Rosario



Sr. Takeo Sasaki  
Líder de Equipo de Evaluación  
Japonesa  
Agencia de Cooperación Internacional  
del Japón, JICA



Sr. Hisashi Suzuki  
Equipo de Evaluación Japonesa  
Agencia de Cooperación Internacional  
del Japón, JICA

## **Indice**

1. Propósito de la evaluación intermedia
  - 1-1 Antecedentes y objetivos
  - 1-2 Metodología
2. Resultados y procesos de implementación del proyecto
  - 2-1 Inversión
  - 2-2 Actividades
  - 2-3 Resultados
  - 2-4 Procesos de implementación
3. Resultados de la evaluación
  - 3-1 Pertinencia
  - 3-2 Efectividad
  - 3-3 Eficiencia
  - 3-4 Impactos
  - 3-5 Sostenibilidad
4. Conclusión
5. Lección y Recomendaciones
  - 5.1 Lección
  - 5.2 Recomendaciones

## **Anexos**

1. Agenda de la evaluación intermedia
2. PDM Versión 1
3. Lista de la inversión realizada
4. Lista de las actividades realizadas
5. Formato de evaluación (Resultados, Procesos de implementación, Evaluación según 5 aspectos)

## 1. Propósito de la evaluación intermedia

### 1-1 Antecedentes y Objetivos

En Colombia, desde hace 40 años sigue el conflicto armado entre el ejército nacional, grupos subversivos y grupos de autodefensa. El actual gobierno del Presidente Uribe establece la recuperación de la seguridad como uno de los temas más importantes de la política del país. En el desarrollo de esta política se intensificó el combate entre grupos subversivos y grupos de autodefensa, y también entre grupos subversivos y la fuerza pública. Como consecuencia de este conflicto, muchos campesinos y población vulnerable se están volviendo población desplazada dejando su tierra y fortuna en busca de una vida tranquila. El número de desplazados está aumentando cada año, al momento de la formulación del proyecto en 2005, según la Consultoría para los Derechos Humanos y el Desplazamiento (COHDES), entre 1985 y septiembre de 2005 el número de desplazados alcanzó a 3,6 millones de personas, mientras la cifra emitida por la Presidencia de la República era de 1,7 millones.

Según el gobierno, entre las personas registradas como desplazadas, cerca de 100.000 personas viven en Bogotá. La población desplazada está concentrada en general en el sur de la capital. La localidad de San Cristóbal, que fue escogida como sitio del proyecto, es la quinta localidad en cuanto al número de las personas desplazadas. En la zona, la condición nutricional de la población vulnerable incluyendo la población desplazada es precaria en general, el Gobierno Distrital de Bogotá realiza diferentes actividades tales como comedores comunitarios en busca de mejoramiento de la condición nutricional de dicha población. El Jardín Botánico de Bogotá ha venido realizando un proyecto de agricultura urbana a partir de 2004 con el fin de difundirla como una alternativa para autoconsumo.

Ante esta situación, el gobierno colombiano solicitó al gobierno japonés la cooperación técnica en un proyecto que busca difundir la técnica de agricultura urbana a través de fortalecimiento de la comunidad. Ante esta solicitud, JICA estableció un proyecto de 3 años desde el 31 de mayo de 2006, siendo la entidad ejecutora el Jardín Botánico de Bogotá.

JICA envió una misión de evaluación intermedia del proyecto desde el 18 de mayo hasta el 30 de mayo de 2008, y la evaluación se llevó a cabo conjuntamente entre la misión y el lado colombiano. Los objetivos de la evaluación intermedia son los siguientes:

- (1) Confirmar la inversión, actividades realizadas, y los resultados obtenidos y hacer comparación con el plan

- (2) Evaluar el proyecto desde cinco aspectos establecidos
- (3) Presentar propuestas para mejorar el proyecto

## 1-2 Metodología

### (1) Miembros del Comité de Evaluación Conjunta

La evaluación se realizó por el comité de evaluación conjunta conformada por los siguientes 2 miembros de la misión de Japón y siguientes 4 miembros del lado colombiano:

Nombre	Cargo/Organización
(Lado del Japón)	
Takeo SASAKI (Líder de la Misión)	Jefe de la Sección de Cultivos de Campo No. 1 del Departamento de Desarrollo Rural, JICA
Hisashi SUZUKI (Planeación de evaluación)	Sección de Cultivos de Campo No. 1 del Departamento de Desarrollo Rural, JICA
(Lado de Colombia)	
Jorge Calderón	Subdirector Técnico Operativo, Jardín Botánico de Bogotá
Luis Bernardo Cañón	Coordinador Zonal de San Cristóbal Agricultura Urbana Jardín Botánico de Bogotá
Carolina Avellaneda	Asesora Red de Seguridad Alimentaria (ReSA), Agencia Presidencial para la Acción Social y la Cooperación Internacional (Acción Social)
Liliana Ramírez	Coordinadora del proyecto de agricultura urbana Universidad de Rosario
Yibby Forero	Coordinadora Grupo de Nutrición Instituto Nacional de Salud

### (2) Agenda de la evaluación intermedia

La agenda de la evaluación intermedia se encuentra en el anexo No. 1.

### (3) Metodología de evaluación

Según el lineamiento establecido por JICA para la evaluación de proyectos, se comparan lo planeado y lo realizado y se evaluó el proyecto según cinco aspectos (pertinencia, efectividad, eficiencia, impactos y sostenibilidad).

El impacto es de percepción y fue evaluado a partir de las entrevistas con los actores involucrados en el proyecto.

Los datos e información se recolectaron a través de documentos existentes tales como informes del proyecto y a través de entrevistas a personas relacionadas con el proyecto.

Los datos e información recolectados fueron organizados por el lado japonés y luego se realizó el trabajo de evaluación entre todos miembros del comité.

La evaluación se realizó con base en la PDM Versión 1 que fue aprobada en el primer Comité Conjunto de Coordinación. Abajo se muestra el resumen de la PDM-1 (el detalle de la PDM-1 se ve en el Anexo 2).

Resumen del proyecto	Indicadores
Objetivo Superior Se mejoran las condiciones nutricionales de la población vulnerable, incluyendo la población en situación de desplazamiento a través del fortalecimiento de la agricultura urbana en Bogotá D.C.	La cantidad de hortalizas que consumen los habitantes de los estratos 1, 2 y 3 en Bogotá aumenta 3 % hasta 2014
Objetivo del proyecto Se mejoran las condiciones nutricionales de la población vulnerable incluyendo la población en situación de desplazamiento de la Localidad 4ta. de Bogotá D.C., a través del fortalecimiento de la agricultura urbana.	La cantidad y variedad de hortalizas que consumen las familias beneficiarias aumenta en 10 % hasta el final del proyecto.
Resultados esperados 1. Se fortalece la capacidad técnica instalada en Jardín Botánico en cuanto a la Agricultura Urbana	1. Se elabora un Manual de tecnología de siembra y un Manual de metodología social en 2008.
2. Se fortalecen la capacidad del grupo objetivo en cuan a la Agricultura Urbana	2. El área sembrada en los hogares de los beneficiarios finales se incrementa en 15% en el período del proyecto.
3. Las entidades públicas relacionadas con el mejoramiento de las condiciones nutricionales realizan las actividades de difusión de la agricultura urbana	3. Entidades relacionadas al mejoramiento de las condiciones nutricionales de los habitantes envían el personal para difusión de la agricultura urbana.

## 2. Resultados y procesos de implementación del proyecto

### 2-1 Inversión (El detalle de la inversión realizada se ve en el anexo No. 3.)

#### 2-1-1 Resultados de la inversión realizada por el lado japonés

##### (1) Envío de experto

En este proyecto se envió un experto de “fortalecimiento de la comunidad/coordinación del proyecto”, que equivale a un experto por 1,97 años.

##### (2) Resultados de capacitación

En el marco del proyecto hasta la fecha 3 personas de la contraparte fueron capacitadas en cursos realizados en Japón. Los cursos en que participó el personal contraparte son los siguientes:

Nombre del curso	Número de personas enviadas
Curso General “Teoría y Práctica del Desarrollo Social Local Participativo”	2
Curso Regional “Metodología de difusión de la Agricultura Orgánica como apoyo a los agricultores de pequeña escala (para el América Central y el Caribe)”	1

##### (3) Donación de equipos

El monto total invertido en forma de donación de equipos realizada por el lado japonés entre 2006 y 2007 es 281.736.443,00 pesos colombianos (equivalente a 16.558.122 yenes, tasa de cambio del 18 de mayo de 2008: 100 yenes = 1.701,50 pesos). Los principales equipos donados son un vehículo, computadores, impresoras y fotocopiadoras. También una parte del monto destinado a la donación de equipos fue asignada a la construcción de un Centro de Capacitación.

##### (4) Presupuesto para el fortalecimiento de actividades del proyecto

Hasta marzo de 2008 fue invertido el monto de 131.039.300,00 pesos colombianos (equivalente a 7.701.399 yenes) para fortalecer las actividades del proyecto.

#### 2-1-2 Resultados de la inversión realizada por el lado colombiano

##### (1) Presupuesto del lado colombiano

Hasta diciembre de 2007 fue invertido el monto de 570.809.396,00 pesos colombianos



(equivalente a 33.547.422 yenes) para el proyecto.

## (2) Colocación de personal contraparte

El número acumulado del personal contraparte asignado al proyecto hasta marzo de 2008 es 14 personas, de los cuales 7 han sido asignadas al equipo de San Cristóbal.

Este proyecto apoya al proyecto de agricultura urbana que venía desarrollando el JBB, por lo tanto los trabajos que realizan como contraparte de JICA se articulan con los trabajos propios del JBB.

### 2-2 Actividades (El detalle de las actividades se ve en el Anexo 4.)

Las actividades para obtener los resultados 1 y 2 fueron realizadas según la PDM y PO. En cuanto al resultado 3, se hizo un cambio en el contenido.

### 2-3 Resultados (El detalle de los resultados se ve en el Anexo 5.)

Excepto las actividades relacionadas con el tema nutricional, el Resultado 1 se está logrando y el Resultado 2, aunque no se ha podido confirmar con cifras, a través de la visita al sitio del proyecto, se pudo confirmar que la agricultura urbana se está difundiendo exitosamente. En cuanto al resultado 3, después de cambio realizado, no se ve problema especial. Por lo tanto se puede decir que actualmente se está obteniendo cada uno de los resultados esperados sin problema.

### 2-4 Proceso de implementación (El proceso de implementación se ve en el anexo No. 5)

Aquí se especifican los hechos o factores que se relacionan con el proceso de implementación y que han afectado el desarrollo del proyecto.

(1) El proceso para la toma de decisiones no fue eficiente, por lo cual existió retraso en el cronograma de actividades,

Como consecuencia de ello, se observaban efectos negativos tales como el retraso de actividades del proyecto, la pérdida de motivación de la contraparte, y el retiro del personal que había recibido la transferencia de tecnología en el marco del proyecto.

## 3. Resultados de la evaluación (El detalle de la evaluación se ve en el Anexo 5)

### 3-1 Pertinencia

Tanto el objetivo del proyecto como el objetivo superior coinciden con la política

colombiana de asistencia a la población desplazada y a la vez coinciden con el lineamiento japonés de asistencia para el desarrollo. La técnica que se ofrece en el proyecto satisface a la necesidad técnica de la contraparte, el Jardín Botánico de Bogotá. Por lo tanto se puede decir que la pertinencia de este proyecto es alta. Por otro lado, el problema del grupo objeto se relaciona con la condición nutricional. El aumento de la cantidad y variedad de consumo de hortalizas, que se logra tener a través de alcanzar el objetivo del proyecto puede contribuir a la solución de ese problema pero no es suficiente para alcanzar a la solución completa. La pertinencia se soporta por las siguientes razones:

<Concordancia con la política colombiana de la asistencia a la población desplazada>

El gobierno colombiano ha fijado como uno de los temas prioritarios la lucha contra la pobreza extrema y sus consecuencias, además, del apoyo a la población desplazada a través de la ley 387 de 1997 y otros decretos, realiza actividades para apoyar, proteger y garantizar la estabilidad socio-económica de dicha población. Por lo tanto se puede reconocer alta pertinencia del proyecto ante la política colombiana. Hasta ahora la política del gobierno colombiano de dicho tema no ha cambiado, y se mantiene la pertinencia con el objetivo del proyecto y el objetivo superior del proyecto, y las políticas nacional y distrital de seguridad alimentaria y nutricional entre otros.

<Concordancia con el lineamiento de Japón de la asistencia para el desarrollo>

Uno de las áreas prioritarias de asistencia para Colombia es la construcción de la Paz. Este proyecto sitúa dentro del Programa de asistencia a la convivencia y reconciliación de las víctimas del conflicto. Se considera que las actividades de este proyecto contribuyen a la solución de los problemas socio-económicos surgidos de conflictos. Por lo tanto coincide con el plan de operación de asistencia de JICA para Colombia.

<Concordancia con la necesidad de la entidad contraparte>

El Jardín Botánico de Bogotá tenía un cierto nivel técnico sobre la siembra de plantas, al realizar el proyecto de agricultura urbana tuvo las siguientes necesidades:

(1) Técnica de agricultura urbana

La agricultura urbana en Bogotá es un esquema nuevo, ya que no se siembra en la tierra sino en otros espacios como terraza. Por lo tanto el JBB no tenía experiencia. El desarrollo de la técnica de siembra de agricultura urbana se realizó bajo la iniciativa del JBB y el experto de JICA lo complementa. Actualmente la técnica general ya se ha desarrollado y les queda el aumento de productividad y técnicas según especie.

(2) Estrategia de difusión

El JBB no tenía estrategia de difusión y necesitaba introducir y aprender la técnica para difundir la agricultura urbana en la comunidad. Con este proyecto se introdujo la teoría y metodología de desarrollo local social participativo en la estrategia de difusión.

<Concordancia con la necesidad del grupo objeto>

La población vulnerable incluyendo la población desplazada tiene mala nutrición por deficiencia de vitaminas y minerales. Al mismo tiempo la población vulnerable y desplazada tiene dificultad de acceso a las hortalizas. Por lo tanto, la agricultura urbana se puede considerar una alternativa para tener acceso a las verduras y hortalizas, contribuyendo a una mejor nutrición de esta población.

3-2 Efectividad

La efectividad de este proyecto es alta en general. Según la información obtenida, hay diferencia en el área sembrada y en la variedad de hortalizas que consumen los habitantes que realizan la agricultura urbana frente a los que no la hacen.

Por otro lado, como no se definían las actividades del tema nutricional, no se ha podido realizar inversión, por lo tanto no se ha generado resultado.

Sin embargo, a partir de este año, el Jardín Botánico, que es entidad contraparte, contrató una persona encargada del tema nutricional, y también se estableció un sistema con el cual se puede tener asistencia técnica del Instituto Nacional de Salud. Por lo tanto, se puede decir que este problema ya tiene solución.

<Proyección sobre el logro del objetivo del proyecto>

No se pudo conseguir indicadores para medir la posibilidad de lograr el objetivo del proyecto. Estos indicadores se podrán obtener a través del estudio de Línea Base que se está llevando a cabo actualmente y el estudio de seguimiento que se realizará luego (el detalle de los dos estudios se especifica aparte).

Según un estudio realizado en marzo de 2008, entre los habitantes que participan en el proyecto de agricultura urbana y los otros habitantes que no han participado en este proyecto existe una diferencia de 10% en la variedad de las hortalizas que consumen. Por lo tanto hay probabilidad de que se cumpla el objetivo cuantitativo en el proyecto.

En cambio en cuanto a la cantidad, en el resultado del mismo estudio no se observa ninguna diferencia significativa. Teniendo en cuenta que en el proyecto no se ha realizado hasta ahora educación nutricional a los habitantes, con las actividades enfocadas en la educación nutricional se puede mejorar la cantidad de consumo de las hortalizas. Sin embargo, en este momento no se puede proyectar la probabilidad de lograr este objetivo.

Se esperan unos resultados positivos en el aspecto nutricional, teniendo en cuenta que las acciones están siendo fortalecidas en la Localidad de San Cristóbal.

<Inversión en el mejoramiento de la condición nutricional>

Dentro de la misión y funciones del Jardín Botánico no se encuentra el tema de la nutrición. Por lo tanto en la estructura de la organización no hay dependencia que se pueda encargar de actividades para el mejoramiento de las condiciones nutricionales. Por eso hasta 2008 no se había adelantado ninguna actividad de ese tema. Sin embargo, como una solución a este problema, se ha contratado una persona experta del tema de nutrición desde mayo hasta agosto de 2008 y también se puede tener la asistencia técnica del Instituto Nacional de Salud (INS) (orientación, recomendaciones, estudios, etc.).

3-3 Eficiencia

La eficiencia del proyecto está asegurada en general. Excepto el tema de mejoramiento de la condición nutricional, se están generando resultados sin problema. Por lo tanto se puede decir que no hay problema especial en la cantidad, calidad y tiempo de la inversión que se realiza. El sistema de apoyo que se está logrando establecer con entidades relacionadas contribuye al aumento de la eficiencia del proyecto.

<Generación de resultados>

Excepto las actividades relacionadas con el tema de nutrición, el Resultado 1 se está logrando sin problema. En cuanto al Resultado 2, aunque no se ha podido confirmar resultado con cifra, se pudo confirmar que en el sitio del proyecto se está difundiendo con éxito la agricultura urbana. En cuanto al resultado 3, después del cambio, se está generando. Por lo tanto excepto el tema nutricional, el proyecto muestra eficiencia.

<Calidad, cantidad y tiempo de la inversión>

Excepto el tema nutricional, la inversión no tuvo problema en su cantidad, calidad y tiempo. La construcción del centro de capacitación se retrasó aproximadamente un año, por lo cual fue necesario buscar otros espacios, lo que dificultó el desarrollo de actividades de capacitación. En el tiempo restante del proyecto se utilizará esta instalación para realizar cursos de capacitación y exposición.

<Aporte por parte de otras entidades relacionadas>

El proyecto recibe asistencia financiera, técnica y logística por parte de muchas entidades relacionadas tales como la Alcaldía Local de San Cristóbal, Universidad del Rosario, IPES,

Parque Entrenubes (Secretaría Distrital de Ambiente) e INS. Esta ayuda sin duda contribuye al desarrollo fluido del proyecto y a la producción efectiva de resultados.

### 3-4 Impactos

En este estudio no se ha podido confirmar la probabilidad de lograr el objetivo superior. Sin embargo, se pudo confirmar que los impactos que está generando el proyecto contribuirán al logro del objetivo superior.

Se debe mencionar la integración social como un impacto notable. Todas las entidades entrevistadas esta vez afirmaron el efecto de este impacto y algunas entidades incluso están evaluando este impacto como uno de los resultados mayores.

El esquema del desarrollo local social participativo que se introdujo en este proyecto recibe una evaluación positiva, por lo tanto se espera que se aplique en otros proyectos.

#### <Proyección sobre el logro del objetivo superior>

No se pudo conseguir indicadores para medir la posibilidad de lograr el objetivo superior. Tampoco se puede proyectar en este momento si el objetivo cuantitativo se cumple o no.

Hay alta probabilidad de que se aumente la cantidad de hortalizas que consumen los estratos bajos de Bogotá por las siguientes razones:

- (1) Antecedentes de estudios previos (realizados por el Jardín Botánico y la Universidad del Rosario) en los cuales se muestra el aumento en el consumo de hortalizas como resultado de la intervención del Programa de Agricultura Urbana
- (2) En la Localidad de San Cristóbal se puede esperar que se logre el objetivo del proyecto durante el período de implementación del mismo, teniendo en cuenta que el Jardín Botánico cuenta con un proyecto fortalecido técnica y tecnológicamente.
- (3) El Jardín Botánico lidera y desarrolla en conjunto con las comunidades el Proyecto de Agricultura Urbana en el área urbana del Distrito Capital de Bogotá.
- (4) Se implementará la agricultura urbana como una política del Distrito, articulada con otras políticas relacionadas con el tema.

#### <Impactos sociales>

Según el resultado del estudio preliminar del proyecto y el estudio realizado por la Universidad Nacional, uno de los impactos de este proyecto se relaciona con la integración social tales como fortalecimiento de la relación intrafamiliar y entre los habitantes, y adquisición de disciplina como buen ciudadano. El impacto social se pudo evidenciar a través de las entrevistas realizadas con las entidades relacionadas.

Se ha favorecido la organización comunitaria para la participación en la Localidad de San

Cristóbal.

<Impactos técnicos>

Hay mucha posibilidad de que en el proyecto que realiza el Jardín Botánico para los habitantes se introduzca el desarrollo social local participativo (PLSD). El Jardín Botánico está en proceso de implementación en otras localidades de la metodología PLSD aplicada en la Mesa de Agricultura Urbana Local de la localidad de San Cristóbal.

3-5 Sostenibilidad

Se puede decir que la sostenibilidad de este proyecto está asegurada en este momento. Tanto en el nivel distrital como en el nivel local, hay mucha probabilidad de que la agricultura urbana se establezca como una política, y que se siga asignando el presupuesto a esta actividad. En el lado de los habitantes se ve alta motivación, además ellos pueden tener beneficios sociales por participar en la agricultura urbana. Por lo tanto, se puede esperar la continuidad de esta actividad.

<Aspectos políticos y financieros>

La nueva administración de Bogotá incluyó la agricultura urbana dentro del Plan de Desarrollo del Distrito y la entidad ejecutora será el JBB. También en el nivel local, la agricultura urbana será una de las bases del actual gobierno.

Hay alta probabilidad de poder conseguir el presupuesto tanto en el nivel distrital como en el nivel local, por estar incluida la agricultura urbana dentro del Plan de Desarrollo Distrital y por encontrarse en formulación la política de agricultura urbana.

<Aspectos organizacionales>

La motivación de los habitantes para aprender la agricultura urbana es alta. Por eso la sostenibilidad del proyecto en el nivel de los habitantes es alta. Si se generan excedentes de producción, con la comercialización de los mismos se puede contribuir al mejoramiento del ingreso. Por otro lado, si se organiza la comunidad, a través de la Mesa se podrá tener capacidad de negociación y acceso a otros servicios de la autoridad y se fortalecerá el tejido social. Por eso, se puede decir que la sostenibilidad del nivel organizacional también es alta.

## **Conclusión**

El objetivo del proyecto coincide con la política colombiana sobre la asistencia a la población desplazada, por lo tanto se puede decir que la pertinencia del proyecto es alta. Sin embargo, dentro de las actividades del proyecto no había acceso directo para atender al problema nutricional, aunque algunas actividades que contribuían a la solución.

Hasta ahora no se observa ningún problema en la producción de resultados. Además se pudo estructurar el sistema de apoyo por parte de otras entidades y se pudo conseguir el personal encargado del tema nutricional, por eso se espera que se agilice el logro del objetivo del proyecto.

Cabe destacar en este proyecto el efecto de la integración social que se está generando en la sociedad local, como uno de los impactos del proyecto en la localidad de San Cristóbal, donde se encuentra un alto porcentaje de la población vulnerable incluyendo la población desplazada. Igualmente, se está observando el fortalecimiento de la relación intrafamiliar y entre los habitantes, aprendizaje de disciplina como buen ciudadano, etc. Este impacto seguramente está contribuyendo al mejoramiento de la seguridad local y fortalecimiento de la comunidad.

Por otro lado, tanto en el nivel Distrital, como en el nivel local y de habitantes, se ve alta motivación en continuar este proyecto. Como se espera que la agricultura urbana se establezca como una política del distrito, en este momento hay buenas condiciones para la sostenibilidad del proyecto.

## 5. Lección y Propuesta

### 5-1 Lección

1. Con este proyecto se ofrece un esquema con el cual los habitantes pueden conseguir las hortalizas sanas y seguras que necesitan, potencializando el uso de espacios pequeños. Además se les brinda una oportunidad de organizarse como comunidad. Para convocar la participación de los habitantes y asegurar la sostenibilidad del proyecto es muy importante recoger las necesidades reales y realizar actividades de cooperación de acuerdo con éstas.
2. A través de la mesa local de agricultura urbana, se mejoró la comunicación entre los habitantes y entidades públicas administrativas, estableciéndose así un sistema que permite el flujo de información e intercambio entre la comunidad y la administración. Esto fue posible gracias a los esfuerzos que han hecho los funcionarios de la Alcaldía Local y del Jardín Botánico, de ofrecer asistencia necesaria hasta que la mesa funcione por iniciativa de los habitantes, de escuchar su voz e intentar reflejarla en las decisiones.
3. Los habitantes se motivaron al saber que sus opiniones se veían reflejadas en las actividades, por poder obtener hortalizas sanas que ellos mismos producen, por mejorar la comunicación entre vecinos, y por establecer el canal de comunicación con la autoridad. Lo que permite la apropiación del proceso.
4. En la zona se encuentran muchos habitantes que tienen su origen en la zona rural, lo cual facilita la difusión e implementación de la agricultura urbana.
5. El mensaje que transmitía el proyecto “produciendo hortalizas seguras de buena calidad se puede mejorar el estado de salud propio” fue muy simple y fácil de entender para los habitantes.
6. En el esquema de desarrollo local social participativo (PLSD) se necesita bastante tiempo para hacer la “Preparación Social (SP)”, lo que sucedió en este proyecto. En Colombia con la Constitución de 1991 se introdujo el esquema participativo en la planeación y en la toma de decisión. Por otro lado en el Jardín Botánico trabajan promotores (trabajadores sociales) y técnicos. Por eso, se puede considerar que este proyecto afortunadamente se desarrolla en este marco que facilita aplicar el esquema de PLSD. En general, para realizar un proyecto con el esquema de PLSD, es necesario



identificar la situación actual y real de la comunidad objeto y planear bien la estrategia de cooperación, estableciendo una fase de preparación.

7. Como se ven en muchos casos de cooperación, en un proyecto que busca lograr finalmente la “autonomía social” funciona efectivamente el concepto de PLSD. Si miramos este proyecto aplicando el esquema PLSD se está logrando el Fortalecimiento de la relación intrafamiliar y entre los habitantes y estos con la autoridad local. Los habitantes están adquiriendo la disciplina de “buen ciudadano”.

Por lo tanto será necesario analizar la posibilidad de aplicar este esquema en otros proyectos.

## **5-2 Propuesta**

### **1. La definición del grupo objeto**

El grupo objeto de este proyecto es la “población vulnerable incluyendo la población en situación de desplazamiento”, pero para poder participar exitosamente en el proyecto de agricultura urbana y realizarla tienen que ser habitantes establecidos. La población recién desplazada es población flotante que cambia constantemente su sitio de vivienda. Por lo tanto, es muy difícil tener acceso a ese tipo de población en el marco de este proyecto. Por consiguiente, se define que el grupo objeto de este proyecto es la población vulnerable incluyendo la población desplazada reubicada.

### **2. Definición del mejoramiento de la condición nutricional**

Entre los actores del proyecto se veían diferentes interpretaciones del objetivo del proyecto “mejoramiento de la condición nutricional”, por eso no estaba muy clara la relación entre el objetivo y los siguientes tres resultados: 1) Fortalecimiento de la capacidad del JBB en la agricultura urbana, 2) fortalecimiento de la capacidad de la población objeto del proyecto en la agricultura urbana y 3) fortalecimiento de la organización comunitaria para garantizar la sostenibilidad de las actividades de la agricultura urbana. Por lo tanto, la definición de “mejoramiento de condición nutricional” se fundamenta en el cumplimiento de los 3 resultados.

Para este proyecto, el mejoramiento de la condición nutricional se define en términos de aumento de la cantidad y variedad de hortalizas consumidas por la población objeto del

proyecto, a través de una estrategia integral de agricultura urbana que implica capacitación, producción y educación alimentaria y nutricional..

### **3. Estabilidad del personal contraparte**

Todos los funcionarios del JBB que trabajan en este proyecto son personal con contrato. Para asegurar la sostenibilidad del proyecto, se espera que el JBB intente asignar el personal de nómina o con contrato de largo plazo, por lo menos al puesto que asume más responsabilidad en el proyecto.

### **4. Difusión del modelo participativo de la agricultura urbana**

En la localidad de San Cristóbal el modelo participativo se ha venido estableciendo. Por otro lado, el proyecto del Jardín Botánico abarca toda Bogotá y tiene necesidad de difundir más efectivamente la agricultura urbana entre los habitantes. Por lo tanto, se plantea que el JBB aclare junto con RESA de Acción Social la posibilidad de aplicar la experiencia del proyecto a los proyectos distritales y hacer seguimiento. Al mismo tiempo la RESA analizará la posibilidad de realizar pilotos de esta metodología a nivel nacional.

### **5. Del mejoramiento parcial de la condición nutricional al mejoramiento completo de la condición nutricional**

En el informe se aclara que el aumento de la cantidad y variedad de hortalizas que consumen los habitantes contribuye a la solución del problema pero no es suficiente para solucionarlo completamente. El problema de la condición nutricional de la población vulnerable tiene su causa en la falta de vitaminas y minerales. Para este problema, la agricultura urbana puede ser un método efectivo para aumentar el consumo de vitaminas. Sin embargo, siendo así, es difícil suministrar la cantidad suficiente con la agricultura urbana.

Con la expectativa del crecimiento la agricultura urbana bajo la iniciativa de los habitantes, será necesario desarrollarla a una escala más grande, para ello es necesario buscar la manera de identificar y aprovechar terrenos desocupados además de mejorar la técnica de la agricultura urbana.

### **6. Utilizar la línea base como diagnóstico de la situación nutricional actual relacionada con el consumo de hortalizas**

Actualmente el Instituto Nacional de Salud (INS) en el marco del proyecto está realizando un estudio de línea base en la localidad de San Cristóbal. Como hasta ahora no se tenía datos con cifras sobre los problemas de la condición nutricional relacionada con el consumo de hortalizas, esta información se puede contrastar con los patrones establecidos para definir futuras acciones. Con este estudio se podrá saber qué elementos nutritivos se deben complementar, qué hortalizas se podrán conseguir, qué cantidad se debe consumir, etc. Con el establecimiento de los indicadores claros, el JBB podrá realizar actividades más concretas para el mejoramiento de la condición nutricional, entre otros.

#### **7. Organizar información sobre mejoramiento de condiciones nutricionales por parte del JBB.**

- En el JBB existe información que puede proporcionar bases para sustentar la comparación de las condiciones nutricionales antes y después de realizada alguna experiencia (ej: información recopilada de los indicadores de la Universidad Nacional)
- Existen experiencias en el distrito que pueden sustentar que por medio de la AU se logra mejorar las condiciones nutricionales de la población objetivo, sin embargo, aún no se encuentran sistematizadas. (ej: Proyecto piloto Bosa– Programa Ciudades Cultivando para el Futuro / Universidad del Rosario, entre otros) Por lo tanto el JBB, con la colaboración de otras entidades relacionadas, organizará información disponible.

#### **8. Evidenciar los espacios y las entidades relacionadas con el tema nutricional que contribuyen al cumplimiento del objetivo del proyecto.**

- Relacionado con el nivel de logro del objetivo del proyecto, hay factores que complementan las acciones del JBB con relación a lo nutricional tales como la existencia de entidades o espacios de articulación que contribuyen con el cumplimiento del objetivo del proyecto. El JBB buscará establecer una relación cooperativa con dichos espacios o entidades.

#### **9. Establecimiento de una dinámica pertinente para la toma de decisiones al interior del JBB.**

- Se considera necesario implantar una dinámica estandarizada en el proceso de toma de decisiones al interior del JBB para que ésta procure la eficiencia en la consecución del objetivo del proyecto.

**10. Garantizar la transferencia y documentación de la información y capacitación recibida en el marco de desarrollo del proyecto .**

- Documentar la experiencia y la metodología por medio de procedimientos operativos estándar en el marco del sistema de gestión de calidad.
- Hacer efectivo el PDM
- Garantizar a través de instrumentos legales la transferencia de tecnología y su documentación:

**11. Se debe tener en cuenta los aspectos de redistribución del gasto en la evaluación de impacto.**

- Al realizar el análisis del impacto del proyecto, es pertinente analizar los diferentes impactos socio-económicos que la AU brinda a las familias que la practican, ya que éstos contribuyen al mejoramiento de las condiciones nutricionales en el hogar.

**12. Estructurar el componente de educación alimentaria y nutricional para garantizar su integralidad e impacto**

En la articulación con el INS, el JBB estructure el componente de educación alimentaria y nutricional que contiene: objetivos, metodología y resultados. Esta prevista la capacitación del JBB para que a través de sus técnicos y promotores se desarrolle este componente del proyecto de agricultura urbana a la comunidad receptora

**13. Modificación de la Matriz de Diseño del Proyecto**

**Según el resultado de la evaluación intermedia realizada, se plantea modificar la PDM en los siguientes puntos. Aunque el contenido de las actividades que se realicen para obtener los resultados 1 y 2 no cambie, se ajusta la expresión de las actividades para aclarar la relación con los resultados y se asigna cada una de ellas bajo un resultado correspondiente:**

**Resultado 2**

Según el resultado realizado en marzo de 2008, entre los habitantes que han participado en el proyecto y los otros que no han participado en el proyecto se ve 7% de diferencia en el área sembrada. En la PDM Versión 1 se estableció como indicador del resultado 2 “El área de producción de las familias beneficiarias aumenta 15 % hasta final del proyecto”. Sin embargo, con base en este estudio, se reestablece como indicador “El área de

producción de las familias del grupo objetivo determinadas por la línea base, se incrementa en un 10%”.

### Resultado 3

El resultado No. 3 está establecido con el fin de garantizar la sostenibilidad de las actividades. En el inicio del proyecto se pensó que en caso de que el jardín Botánico no realizara actividades para el mejoramiento de condiciones nutricionales, otras entidades complementarían el espacio.

Según la información previa que habíamos obtenido, se suponía que la Caja de Vivienda Popular (Hábitat) y hospitales públicos realizaban actividades de agricultura urbana, por lo tanto se pretendía realizar actividades de este tema con la colaboración de estas entidades. Sin embargo, esta vez se confirmó que la Hábitat no realiza este tipo de actividades y que los hospitales ya han suspendido estas actividades. Por lo tanto se debe cambiar el contenido del resultado No. 3.

Después de confirmar la situación real, se definió como resultado No. 3 fortalecer la Mesa de Agricultura Urbana Local para poder garantizar la sostenibilidad de las actividades. A través del fortalecimiento de la mesa, se estrechará la relación entre los habitantes y la autoridad y se establecerá un mecanismo con el que los habitantes puedan conseguir el apoyo de la autoridad. Después de la modificación, el resultado 3 y el indicador para obtenerlo serán los siguientes:

El resultado 3: Fortalecer un marco organizacional comunitario para apoyar la sostenibilidad de la agricultura urbana en la localidad.

Indicador: La Mesa Local de Agricultura Urbana se celebra 6 veces por un año con la participación de 10 representantes de grupos comunitarios.

Proyecto "Mejoramiento de la Condición Nutricional de la Población Vulnerable Incluyendo la Población en Situación de Desplazamiento a través del Fortalecimiento de la Agricultura Urbana"  
Misión de Evaluación Intermedia

18 al 30 de mayo/2008

	fecha	día	hora	actividades	Lugar (persona a quien visita/entrevista/etc.)
1	2008/5/18.	domingo	15:50 20:45	Salida de Houston (CO 883) Llegada a Bogotá (Sr. Hisashi SUZUKI)	Un vehículo de JICA-Colombia lo recoge en el aeropuerto
2	2008/5/19	lunes	9:00	Reunión con la oficina JICA Colombia y con A Mase	Of. JICA
			14:00	Visita de cortesía a Acción Social	Acción Social (Calle 7 No. 6-54 Piso 2); Sr. Jorge Enrique Prieto Subdirector AOD y Sra. Carolina Porras Asesora Japón JBB (Avenida Calle 57 No. 61-13); Sra. Paola Liliana Rodriguez Directora
3	2008/5/20	martes	08:30-12:00	Reunión: Comité Conjunto para la evaluación del Proyecto* Explicación sobre sistema/metodología/manera de evaluación	Of. JICA
			14:00-17:00	Entrevista con A Mase	Of. A Mase
			15:50 20:45	Salida de Houston (CO 883) Llegada a Bogotá (Sr. Takeo SASAKI)	Un vehículo de JICA-Colombia lo recoge en el aeropuerto
4	2008/5/21	miércoles	9:00 11:00	Visita de Cortesía y Entrevista con Directora JBB Entrevista a Sub-director Técnica Operativa	Oficina de Directora Of. Sub-director
			PM	Entrevista en JBB Estudio de Informes de Proyecto	JBB (Coordinadores, Asesores, Técnicos y Promotores, etc)
5	2008/5/22	jueves	7:30 8:30-9:30 10:00-12:00	Salida de Hotel Alcaldía de San Cristóbal Parque Entrenubes	Alcaldía San Cristóbal (Iván Monroy y otros. Sí, es posible con el Alcalde) Parque Entrenubes K3 Este No.50-00, San Cristóbal; 444-1030
			14:00-16:00	Barrio Juan Rey	Mirador Parque Entrenubes
6	2008/5/23	viernes	8:00-10:00	Reunión con el Instituto Nacional de Salud (INS) sobre la participación del INS en el Proyecto JBB-JICA	INS (Director, Yibby Forero)
			PM	Entrevista en ACCION SOCIAL	ACCION SOCIAL
7	2008/5/24	sabado	AM	Análisis de resultados	Hotel
			PM	Redacción del borrador del informe de evaluación (en japonés)	Hotel
8	2008/5/25	domingo	AM	Redacción del borrador del informe de evaluación (en japonés)	Hotel
			PM	Traducción del informe	
9	2008/5/26	lunes	AM	Traducción del informe	
			PM	Distribución del borrador a los miembros de Comité Conjunto para la evaluación	
10	2008/5/27	martes	08:00 09:00	Entrevista en la Secretaría de Ambiente Reunión Comité Conjunto para la evaluación del Proyecto Revisión del borrador y modificaciones	Secretaría de Ambiente Of. JICA (miembros del comité evaluador)
			PM	Reunión Comité Conjunto para la evaluación del Proyecto Revisión del borrador y modificaciones Revisión de PDM ver-2	Of. JICA (miembros del comité evaluador)
11	2008/5/28	miércoles	AM	Reunión Comité Conjunto para la evaluación del Proyecto Revisión del borrador y modificaciones Revisión de PDM ver-2	Of. JICA (miembros del comité evaluador)
			PM	Reunión Comité Conjunto para la evaluación del Proyecto Revisión del borrador y modificaciones Revisión de PDM ver-2	Of. JICA (miembros del comité evaluador)
12	2008/5/29	jueves	9:00	Reunión COMITÉ COORDINADOR CONJUNTO: Aprobación del Informe de Evaluación y del PDM-ver2. Firma de la Minuta de Discusiones	Of. JICA (Directora JBB, ACCION SOCIAL, Director JICA, etc.)
			PM	Reunión con la Embajada del Japón Reunión con la Of. JICA Colombia	Embajada y JICA (solamente los japoneses)
13	2008/5/30	viernes	7:32	Salida de Colombia (CM 106)	Sr. Sasaki Sr. Suzuki

Nombre del Proyecto: **Mejoramiento de la Condición Nutricional de la Población Vulnerable Incluyendo la Población en Situación de Desplazamiento a través del Fortalecimiento de la Agricultura Urbana** Beneficiarios: **Población vulnerable incluyendo los desplazados de la 4ta. Localidad de Bogotá D.C.**

Área de Cobertura: **4ta. Localidad (San Cristobal), Bogotá D.C.** Duración de la cooperación: **3 años desde 31 de mayo 2006**  
 Nº de versión de PDM: **1** Fecha de elaboración de PDM: **22 de Diciembre de 2006**

Resumen Narrativo	Indicadores	Medios	Condiciones Externas
<p><b>Objetivo Superior</b>            Se mejoran las condiciones nutricionales de la población vulnerable, incluyendo la población en situación de desplazamiento a través del fortalecimiento de la agricultura urbana en Bogotá D.C.</p>	<p>La cantidad de hortalizas que consumen los habitantes del estrato 1, 2 y 3 en Bogotá aumenta 3 % hasta 2014</p>	<p>Estadística de los hospitales.</p>	<p>No hay cambios de personal directivo y operativo en la estructura del proyecto.            La Agricultura urbana continúa con respaldo político a nivel Distrital.</p>
<p><b>Objetivo de proyecto</b>            Se mejoran las condiciones nutricionales de la población vulnerable incluyendo la población en situación de desplazamiento de la Localidad 4ta. de Bogotá D.C., a través del fortalecimiento de la agricultura urbana.</p>	<p>La cantidad y variedad de hortalizas que consumen las familias beneficiarias aumenta 10 % hasta final del proyecto.</p>	<p>Estudio periodico.            (Diagnostico participativo)</p>	<p>No hay cambios de personal directivo y operativo en la estructura del proyecto.            La Agricultura urbana continúa con respaldo político a nivel Distrital después del 2008.</p>
<p><b>Resultados (objetivos específicos)</b>            1. Se fortalece la capacidad técnica instalada en el Jardín Botánico en Agricultura Urbana            2. Se fortalecen las capacidades del grupo objetivo en Agricultura Urbana            3. Se realizan las actividades para extender AU en cooperación con organizaciones o entidades relacionadas con el mejoramiento de nutrición.</p>	<p>1. Un Manual de tecnología de siembra apropiada en AU para Bogotá y un Manual de extensión en AU se elaboran en 2008.            2. La area de producción de las familias beneficiarias aumenta 15 % hasta final del proyecto.            3. Las organizaciones mandan recursos humanos para actividades de extensión AU.</p>	<p>1. Documento del Proyecto.            2. Estudio de predio periodico.            3. Documento del Proyecto.</p>	<p>No hay cambios de personal directivo y operativo en la estructura del proyecto.            La Agricultura urbana continúa con respaldo político a nivel Distrital después del 2008.</p>

*[Firma manuscrita]*

<p><b>Actividades</b></p> <p><b>1.1. Capacitación al personal de Agricultura Urbana del Jardín Botánico.</b></p> <p>1.1.1. Mejoramiento de la capacidad en técnicas relacionadas a la agricultura urbana.</p> <p>1.1.2. Capacitación en técnicas de trabajo comunitario</p> <p>1.1.3. Formular una propuesta para el desarrollo de agricultura urbana de la localidad.</p> <p><b>1.2. Diseñar y ejecutar una estrategia de comunicación, divulgación y promoción.</b></p> <p>1.2.1. Diseño y elaboración de materiales para comunicación masiva.</p> <p>1.2.2. Elaboración de materiales didácticos de la agricultura urbana para las comunidades.</p> <p>1.2.3. Elaboración de página web para la sensibilización y divulgación.</p> <p><b>2.1. Extensión de agricultura urbana y Capacitación a la población.</b></p> <p>2.1.1. Establecer la línea base.</p> <p>2.1.2. Extensión de agricultura urbana.</p> <p>2.1.3. Capacitación en técnica de preparación y transformación de alimentos y en nutrición.</p> <p><b>2.2. Fortalecimiento de organizacionales comunitarias y construcción de redes.</b></p> <p>2.2.1. Desarrollar habilidades en las comunidades para formular, gestionar recursos y puesta en marcha de proyectos comunitarios.</p> <p>2.2.2. Promover y crear espacios de encuentro entre las organizaciones comunitarias e instituciones para su reconocimiento a nivel intralocal e interlocal.</p> <p>2.2.3. Recopilar, articular y sistematizas las iniciativas de las comunidades en un Banco de Información.</p> <p><b>3.1. Establecimiento del sistema de ejecución cooperativa de las actividades de AU con las organizaciones o entidades relacionadas con el mejoramiento de nutrición.</b></p> <p>3.1.1. Planificación cooperativa de actividades AU en la localidad con las organizaciones.</p> <p>3.1.2. Ejecución del Plan.</p>	<p><b>Aportes</b></p> <p><b>Jardín Botánico:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Profesionales y técnicos contrapartes</li> <li>• Oficinas para los expertos de JICA, espacios de capacitación y otras facilidades</li> <li>• Costo de operación del Proyecto</li> <li>• Equipamientos y materiales</li> <li>• Secretarías, conductores y personal de vigilancia.</li> </ul> <p><b>JICA:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Un experto japonés de largo plazo</li> <li>• Expertos internacionales de corto plazo</li> <li>• Costo de pasantías de contrapartes en los países extranjeros</li> </ul> <p>Equipamientos, materiales e infraestructura</p>	<p>El Comité de Seguridad alimentaria y nutricional se vincula institucionalmente durante el proyecto. (no se materializa el objetivo #3 si no se cumple este condición)</p> <p>El plan de ordenamiento territorial no afecta el aprovechamiento de espacio para la A.U. (no se ejecuta la actividad #3.3 y no se materializa el objetivo #3 si no se cumple este condición)</p> <p>El Fondo de desarrollo local modificar sus prioridades en relación con la A.U.</p> <p><b>Precondiciones (supuestos)</b></p>
--	---	---



## Resultados de la Inversión del Proyecto

## &lt; Inversión de Japón &gt;

## (1) Envío de experto

Nombre del experto	Tema	Período del envío	Entidad a que pertenecía antes del envío
Asao MASE	Fortalecimiento de la comunidad/Coordinación	Desde 31 de mayo de 2006 hasta el 30 de mayo de 2008	Posgrado de la Nihon Fukushi University

## (2) Resultados de la Recepción del personal contraparte en cursos de capacitación en Japón

Nombre y apellido del personal	Período de recepción	Área	Tema del curso y Entidad receptora	Cargo (entonces)	Cargo actual
Claudia Marcela Sanchez	Del 27 de enero al 17 de marzo de 2007	Desarrollo social participativo	Curso General "Teoría y Práctica del Desarrollo Social Local Participativo"	Líder del Proyecto "Agricultura Urbana"	Líder del Proyecto "Agricultura Urbana"
Paula Martínez	Del 27 de enero al 17 de marzo de 2007	Desarrollo social participativo	Curso General "Teoría y Práctica del Desarrollo Social Local Participativo"	Jefe de Educación Social del Proyecto "Agricultura Urbana"	Retirado en marzo de 2007. Regresará al Jardín Botánico como encargado del desarrollo participativo
Luis Bernaldo Cañon	Del 18 de junio al 5 de octubre de 2007	Por región/ por país	Curso Regional "Metodología de difusión de la Agricultura Orgánica como apoyo a los agricultores de pequeña escala (para el América Central y el Caribe)"	Administrador encargado de la localidad San Cristóbal	Administrador encargado de la localidad San Cristóbal

## (3) Equipos donados de Japón y situación de su uso

No.	Fecha de instalación	Descripción del equipo	Modelo	Marca	Precio de compra (COP)	Sección que lo usa	Lugar de instalación	Está activo o no	En caso de que no está activo,
-----	----------------------	------------------------	--------	-------	------------------------	--------------------	----------------------	------------------	--------------------------------

									su causa
1	Julio 2006	Vehículo 4x4	Prado Sumo	Toyota	58,092,428	Proyecto Agricultura Urbana	Parqueadero al lado de la fachada	Sí	
2	Marzo 2007	Escaner	DR-2580 C	CANO N	3,000,000	Proyecto Agricultura Urbana	Oficina del experto	Sí	
3	Marzo 2007	GPS portátil	Recon XC Edition	Timble	12,555,892	Proyecto Agricultura Urbana	Oficina del experto	Sí	
4	Marzo 2007	Fotocopiadora	BIZ HUP 250	Konica Minolta	17,399,998	Proyecto Agricultura Urbana	Oficina del experto	Sí	
5	Marzo 2007	Computador de escritorio	RQ908L A#ABM	Hewlett Packard	3,120,000	Proyecto Agricultura Urbana	Oficina de multiplicadores	Sí	
6	Marzo 2007	Computador de escritorio	RQ908L A#ABM	Hewlett Packard	3,120,000	Proyecto Agricultura Urbana	Oficina de multiplicadores	Sí	
7	Marzo 2007	Computador portátil	RN825L AABM	Hewlett Packard	5,050,000	Proyecto Agricultura Urbana	Oficina del experto	Sí	
8	Marzo 2007	Computador portátil	RN825L AABM	Hewlett Packard	5,050,000	Proyecto Agricultura Urbana	Oficina de sub-director	Sí	
9	Marzo 2007	Impresora láser	Q6455A	Hewlett Packard	810,000	Proyecto Agricultura Urbana	Oficina del experto	Sí	
10	Marzo 2007	Impresora láser	Q6455A	Hewlett Packard	810,000	Proyecto Agricultura Urbana	Oficina de multiplicadores	Sí	

Desde el presupuesto para el fortalecimiento de las actividades locales

P-1	Enero 2007	Projector LCD	EMP-S4	EPSON	2,449,000	Proyecto Agricultura Urbana	Oficina del experto	Sí	
p-2	Enero 2007	Firmadora digital	DCR-DV D205	SONY	1,570,000	Proyecto Agricultura Urbana	Oficina del experto	Sí	
p-3	Enero 2007	Cámara digital	DSC-W50	SONY	777,000	Proyecto Agricultura Urbana	Oficina del experto	Sí	

p-4	Enero 2007	Cámara digital	DSC-W50	SONY	777,000	Proyecto Agricultura Urbana	Oficina del experto	Sí	
p-5	Enero 2007	Cámara digital	DSC-W50	SONY	777,000	Proyecto Agricultura Urbana	Oficina del experto	Sí	
p-6	Enero 2007	Cámara digital	DSC-W50	SONY	777,000	Proyecto Agricultura Urbana	Oficina del experto	Sí	

## (4) Seminarios realizados

Año fiscal	Nombre del Curso (Tema)	Fecha	Duración	Número de participantes	Personas objeto del seminario	Nota
2006	Planeación y realización de la política y la estrategia de la agricultura urbana con la participación de diferentes actores	De Nov. 27 a Dic. 04		36	Funcionarios relacionados con la agricultura urbana del Jardín Botánico y la Universidad del Rosario, y habitantes de la localidad Bosa	Taller organizado por IPES <sup>1</sup> , Jardín Botánico de Bogotá y Universidad del Rosario
2007	Planeación de actividades de la agricultura urbana de la localidad de San Cristóbal basada en el desarrollo de la comunidad local	De mayo 29 a junio 01		43	Acción Social, Alcaldía Menor de San Cristóbal, Universidad del Rosario y funcionarios encargados del Jardín Botánico de San Cristóbal	Participación del proyecto de Guatemala PROETTAPA (1 experto y 4 personas contraparte)
2007	Curso para multiplicadores y trabajadores sociales	Junio 04, Junio 25, Julio 09, Julio 30, Sep. 10	De Junio a Dic. de 2007	49 ~ 35	Actores relacionados con el Proyecto de Agricultura Urbana del Jardín Botánico	
2007	Taller para fortalecer la mesa redonda de la agricultura urbana de la localidad de San Cristóbal	Sep. 06, Oct. 04, Nov. 01, Dic. 06, Feb. 07, Marzo 06	De Sep. de 2007 a Dic. de 2008	42 ~ 25	Asistentes a la Mesa Redonda de Agricultura Urbana (agricultores urbanos, alcaldías menores, etc.)	
2007	Curso sobre el análisis de la sociedad	Octubre 09 y 10		19	Funcionarios de IPES <sup>2</sup> y multiplicadores del Jardín Botánico	Se realizó en Lima, Perú, como una actividad del curso

<sup>1</sup> Promoción del Desarrollo Sostenible Perú: ONG de Perú que realizan actividades para difundir la agricultura urbana en Latinoamérica entera.

<sup>2</sup> Igual que arriba

(El siguiente curso no se realizó en el marco del Proyecto, sin embargo el experto japonés y el personal de contraparte participaron en la planeación y el personal contraparte también participó en el evento)

2007	Seguimiento a los Cursos grupales “Teoría y Práctica del Desarrollo Social Participativo” y “Planeación y Administración de Proyectos del Desarrollo Social Participativo”	De Enero 21 a Enero 23			Exbecarios de países latinoamericanos del mismo curso, nuevos becarios del curso, personal contraparte del proyecto	
------	--	------------------------	--	--	---	--

(5) Gastos locales asumidos por Japón: formato libre

Año	Rubro	Monto	Nota
2006	Fortalecimiento de actividades locales	\$67,761,110	
2006	Donación de equipos	\$104,598,710	
2007	Fortalecimiento de actividades locales	\$63,278,190	
2007	Donación de equipos	\$177,137,733	Costo de construcción del centro de capacitación

<Inversión de Colombia>

(1) Gasto personal, costos de servicios públicos, costos de administración y mantenimiento de equipos incluyendo el (o los) vehículo (s). Pendiente confirmar el detalle.

(2) Asignación del personal de contraparte (C/P)

Nombre y apellido de C/P y su cargo	Especialidad	Período de asignación (curso)	Nombre y apellido del experto que realizó la transferencia tecnológica	Antigüedad en la entidad ejecutora	Nota
Rolando Higueta	Bioquímica	De junio 2006 a noviembre 2006	Asao MASE	De enero 2005 a febrero 2008	En el inicio del Proyecto, era jefe de actividades técnicas. A partir de diciembre de 2006 asumió el cargo del director
Claudia Marcela Sanchez	Líder del proyecto (animales marinos)	De junio 2006 hasta la fecha	Asao MASE	De agosto 2005 hasta la fecha	Se retiró una vez en enero de 2008 y regresó al puesto en abril de este año.
Antonio Jose Velez Garcia	Jefe de difusión (agónomo)	De junio 2006 a diciembre 2006	Asao MASE	Desde agosto 2004 hasta diciembre	Actualmente está trabajando en una ONG, que se dedica al desarrollo rural.

				2006	
Luis Bernaldo Cañon	Administrador de la localidad (agronomo)	De junio 2006 hasta la fecha	Asao MASE	Desde enero 2003 hasta la fecha	
Paula Martínez	Jefe de educación social (antropólogo)	De junio 2006 a marzo 2007	Asao MASE	Desde enero 2005 hasta marzo 2007	A partir de marzo 2008, regresó a esta entidad como asesor del director
Angélica Peñuera	Jefe de Tecnología limpia (biólogo)	De junio 2006 hasta la fecha	Asao MASE	Desde marzo 2006 hasta noviembre 2007	A partir de septiembre de 2007 trabaja en el Ministerio de Ambiente
Claudia Gonzalez Rojas	Jefe de investigación y experimentos	De junio 2006 hasta la fecha	Asao MASE	Desde octubre 2001 hasta la fecha	
Gloria Bustamante	Experto de educación (desarrollo de la comunidad/psicología)	De junio 2006 hasta la fecha	Asao MASE	Desde octubre 2004 hasta la fecha	
Karen Benitez	Multiplicador (agronomo)	De junio 2006 hasta la fecha	Asao MASE	Desde mayo 2005 hasta la fecha	
Lara Jazmin Yarai	Multiplicador (agronomo)	De marzo 2007 hasta la fecha	Asao MASE	Desde abril 2005 hasta la fecha	
Augusto Méndez	Multiplicador (agronomo)	De junio 2006 a diciembre 2008	Asao MASE	Desde enero 2006 hasta diciembre 2008	
Alejandro Ardila	Trabajador social	De junio 2007 hasta la fecha	Asao MASE	Desde mayo 2007 hasta la fecha	
Oriana Sepulveda	Trabajadora social	De junio 2007 hasta la fecha	Asao MASE	Desde mayo 2007 hasta la fecha	
Patricia Torres	Experto de educación (literatura)	De junio 2006 hasta la fecha	Asao MASE	Desde septiembre 2006 hasta la fecha	

Resultado de Inversiones

Resultado 1: Se fortalece la capacidad técnica instalada en Jardín Botánico en Agricultura Urbana					
Plan de acción	Meta	Avance y resultados	Nivel de alcance (4)	Causa de la demora de actividades	Planes a realizar
I.1. Capacitación del personal del Jardín Botánico, que se relaciona con la agricultura urbana	Noventa funcionarios adquieren conocimiento e instrumentos del desarrollo social y de la agronomía.		3		Se modifica el número de los beneficiarios ajustando al número de los funcionarios que se contratan en 2008.
I.1.1 Fortalecimiento de la capacidad relacionada con la técnica de siembra	Un manual de la agricultura urbana de acuerdo con las condiciones de Bogotá		3		Se reorganizarán las actividades desde tres puntos de vista: desarrollo de tecnología, fortalecimiento de la capacidad del personal, y elaboración de manuales.
Construcción de un Centro de Capacitación	Construir un centro de capacitación para marzo 2008	Inició la construcción en octubre 2007. Culminará la obra en marzo de 2008.	3	Se gastó tiempo para obtener el permiso de construcción en una instalación pública.	
Desarrollo de tecnología adecuada	Por lo menos poner en práctica un resultado de la investigación y experimentos	El Jardín Botánico adelanta el desarrollo tecnológico independientemente.  Resultado: Adquisición de equipos y materiales para organizar la finca experimental.  Organización de fozos para preparar abono orgánico.	3		De aquí en adelante seguirá el apoyo al mejoramiento tecnológico sobre los siguientes dos temas:  • Apoyo para el mejoramiento de recipientes y terrenos en que se siembra.  • Apoyo para el mejoramiento de tecnologías limpias.
Realización de capacitación en países latinoamericanos	Realizar 3 capacitaciones en 3 años	Se realizó capacitación en 2006 en Argentina y en 2007 en Perú.	3		Se está adelantando un estudio para escoger el lugar de capacitación de 2008.
Capacitación nacional (realizada por instructores nacionales e internacionales)	Realizar 3 capacitaciones en 3 años	No hay resultado. Se definieron temas que realizar.	2	Actualmente están programadas las actividades de capacitación sobre 6 temas incluyendo la tecnología agrónoma y el trabajo comunitario. Quizá son demasiados comparando con las necesidades reales.	Está preparando para poder realizar esta actividad en 2008.
Elaborar el borrador del manual de siembra	Un borrador de un manual de siembra	Terminado	4		
Poner en práctica el borrador elaborado	Un manual de siembra		3		A principios del año 2008 se repartirá el borrador del manual arriba mencionado entre los multiplicadores y ellos pondrán en práctica los contenidos de este manual. A final de 2008 se revisará éste con base en los resultados de esas prácticas
Publicación del manual de siembra	Un manual de siembra		3		Está programado la publicación en 2009.

Resultado de Inversiones

1	1.	Fortalecimiento de la capacidad relacionada con el trabajo comunitario	Un manual de metodología de difusión		3		
	2.	Capacitación en Japón	Se capacitaron 2 personas en 2007 y se capacitarán otros 2 en 2008.	Se capacitaron 2 personas en 2007.	3		Están adelantando la selección de los becarios de 2008.
		Elaborar el borrador del manual del trabajo comunitario	Un manual relacionado con el trabajo comunitario	Terminación del borrador	4		
		Capacitación nacional (realizada por instructores nacionales e internacionales)	Realizar 3 capacitaciones en 3 años	En 2007 se realizó una capacitación del tema del desarrollo de la sociedad local participativo.	3		Está preparando para poder realizar esta actividad en 2008.
		Capacitación nacional (para difundir resultados de la capacitación arriba mencionada entre el personal del Jardín Botánico)	Realizar una capacitación para multiactores de San Cristobal	Esta actividad se realizó como una parte de las actividades para lograr el "Resultado 3"	4		
		Revisión del contenido del texto relacionado con el trabajo comunitario in situ.	Un manual relacionado con el trabajo comunitario		3		A principios del año 2008 se repartirá el borrador del manual arriba mencionado entre los multiplicadores y ellos pondrán en práctica los contenidos de este manual. A final de 2008 se revisará éste con base en los resultados de esas prácticas
		Publicación del manual	Un manual relacionado con el trabajo comunitario		3		Está programado la publicación en 2009.

Resultado de Inversiones

Plan de acción		Meta	Avance y resultados	Nivel de alcance (4 niveles)	Causa de la demora de actividades	Planes a realizar
1.1.3.	Elaboración de una propuesta sobre el desarrollo de la agricultura urbana en la localidad		Esta actividad la realizó el Jardín Botánico independientemente.	1		Se cursa con la actividad propia del Jardín Botánico, por lo tanto no se realiza en el proyecto de JICA
	Preparación del estudio	Un informe del estudio		1		
	Elaboración del informe del estudio y de la propuesta	Un informe del estudio		1		
1.2.	Elaboración de la estrategia y material didáctico para la difusión de la agricultura urbana	Dos videos, una publicidad de radio, folleto relacionado con el tema del taller, y la propuesta sobre la estrategia de difusión		3		Se está planeando la estrategia de publicidad y difusión de la agricultura urbana
1.2.1.	Elaboración de materiales para los medios		Se elaboraron 3 afiches, 1 calendario, 19 folletos relacionados con resultados, y un plegable sobre la agricultura urbana	3		Una dependencia del Jardín Botánico se encarga de la elaboración de los materiales para los medios. Por lo tanto, se están revisando actividades de este proyecto.
	Video	A mediados de 2007, se inició la elaboración de un video del informe intermedio y terminó a principios de 2008. A mediados de 2008 comenzarán la elaboración de otro video definitivo y su elaboración terminará en 2009.	Una dependencia del Jardín Botánico se dedica a la elaboración de videos.	1		Se cursa con la actividad propia del Jardín Botánico, por lo tanto no se realiza en el proyecto de JICA
	Radio	programa de radio en una emisora local con la frecuencia de una vez al mes	Los habitantes realiza esta actividad independientemente.	1		Como los habitantes realiza esta actividad independientemente, no se realiza ésta en el marco del proyecto.
	Impresos	Se inició a partir de marzo de 2007, y se publican cada 3 meses.		3		Se está revisando el contenido de los impresos. Se está planeando la elaboración de 4 materiales de publicidad.
1.2.2.	Elaboración de materiales didácticos para la comunidad	Folleto elaborados por tema de taller		3		Se está planeando la elaboración de 4 materiales didácticos.
1.2.3.	Elaboración de la Página Web	Una página de web	La elaboración de la página web la adelanta el Jardín Botánico.	1		Como es una actividad del Jardín Botánico, se definirá cómo tratarlo en el marco del proyecto.
	Elaboración					
	Mantenimiento y mejoramiento					



Resultado de Inversiones

Resultado 2: Se fortalecen la capacidad de los habitantes y la organización comunitaria en cuanto a la Agricultura Urbana						
2.1.	Difusión de la agricultura urbana y fortalecimiento de la capacidad de los habitantes	Se fortalece la capacidad de 3000 personas de la zona (UPZ)		3	Hay demasiado número de beneficiarios comparando con la capacidad del proyecto. No se ve muy claro el fundamento de selección de UPZ objeto.	Se está revisando el objetivo y la UPZ objeto.
2.1.1	Estudio de línea base sobre las condiciones nutricionales	Se define la línea base para el julio de 2007.	En proceso	3	No hay experto que se dedique al estudio de línea base de condiciones nutricionales en la entidad ejecutora. Se demoró en la coordinación con las entidades relacionadas.	Se realizó en abril de 2008.
2.1.2	Realización de las actividades de difusión de la agricultura urbana	* Resultados y su nivel de contribución "El área de cultivo de los hogares beneficiarios aumenta en 15% hasta el final del proyecto"				Como es una actividad del Jardín Botánico, se definirá cómo tratarlo en el marco del proyecto.
	Estudio sobre la situación de la agricultura urbana	Un informe del estudio	En proceso	3		Se definirá hasta marzo de 2008.
	Estudio sobre los terrenos posibles de la agricultura urbana	Un informe del estudio	En proceso	3		Se definirá hasta marzo de 2008.
	Desarrollo de la agricultura urbana	Se realizará la siembra en 200 sitios.	El Jardín Botánico realiza esta actividad independientemente.	3		Como es una actividad del Jardín Botánico, se definirá cómo tratarlo en el marco del proyecto.
2.1.3	Difusión de conocimiento nutricional, técnica de preparación y elaboración de alimentos.		Se está revisando el contenido de actividades con la recomendación de INS y FAO.	3		Se está preparando para realizarla en 2008.
	Diseño y utilización de instrumentos para la difusión del conocimiento sobre el consumo mínimo de nutrición	Se elaborarán 40 recetas.	Se está revisando el contenido de actividades con la recomendación de INS y FAO.	3		Se está preparando para realizarla en 2008.
	Análisis de la situación de mejoramiento de la vida alimenticia a través del monitoreo de la producción y consumo.	Uso de instrumentos participativos.	Se está revisando el contenido de actividades con la recomendación de INS y FAO.	3		Se está preparando para realizarla a final de 2008.
	Plan de operación	Meta	Avance y resultados	Nivel de logro	Causa de la demora de actividades	Planes a realizar

Resultado de Inversiones

2.2.	Fortalecimiento de la organización comunitaria	En cuanto al resultado 2, se definirá el detalle después de culminar el curso de capacitación de enero a marzo de 2007.	En la PDM (ver. 1) estaban mezcladas las actividades para fortalecimiento de la organización comunitaria y actividades para la coordinación de las organizaciones comunitarias. Además hay actividades que el Jardín Botánico puede realizar independientemente. Por lo tanto se está revisando el contenido de las actividades. Las actividades para fortalecimiento de la organización comunitaria serán el contenido del resultado 2 y en cambio, las actividades para fortalecimiento de la coordinación será el	3		El Jardín Botánico adelanta actividades para el fortalecimiento de la organización comunitaria a través del convenio con la Alcaldía menor. Por lo tanto el Proyecto de JICA busca apoyar estas actividades.
	2.2.1. Apoyo para la estructuración de un proyecto que se realiza por los habitantes mismos y para el fortalecimiento de la capacidad de administración financiera.			3		Se están adelantando la planeación del proyecto, adquisición de los recursos, fortalecimiento de la capacidad de la organización comunitaria bajo la meta de que por lo menos 5 grupos se dediquen a la agricultura urbana.

Resultado de Inversiones

2.2.	2.	Creación de espacio para el intercambio de opiniones entre las organizaciones comunitarias y entidades externas, y fomento de intercambio		A través del fortalecimiento de la mesa redonda, se busca lograr esta meta. Ya están definidas actividades principales que se realizan entre 2007 y 2009.	3		Ofrecer apoyo para que los habitantes mismos tomen iniciativa en la planeación y realización de actividades
		Feria de cocina y elaboración de alimentos.	realizar 6 ferias	Se definió realizar esta feria como un evento de la mesa	3		Realizar menos eventos (de acuerdo con la intención de los habitantes)
		Crear una red de organizaciones comunitarias que se dedican a la agricultura		Igual que arriba	3		
		Fortalecimiento de la capacidad relacionada a la planeación y administración financiera	Estructurar 5 proyectos durante el periodo del proyecto de JICA		3		Se están adelantando la planeación del proyecto, adquisición de los recursos, fortalecimiento de la capacidad de la organización comunitaria bajo la meta de que por lo menos 5 grupos se dediquen
		Fortalecimiento de la capacidad de emprendimiento			3		Igual que arriba
		Establecimiento del sistema que posibilita la alianza entre organizaciones de la			3		A través del fortalecimiento de la mesa redonda, se busca lograr esta meta.
		Definir la relación con las autoridades			3		A través del fortalecimiento de la mesa redonda, se busca lograr esta meta.
2.2.	3.	Recopilar, articular y sistematizar las iniciativas de las comunidades en un Banco de Información.	Un banco de información	El Jardín Botánico y la Alcaldía Menor están realizando esta actividad independientemente.	3		
<b>Resultado 3</b>							
Las entidades públicas relacionadas con el mejoramiento de las condiciones nutricionales realizan conjuntamente las actividades de difusión de la agricultura urbana						n la Matriz del Diseño del Proyecto (ver. 1) se esperaba asegurar la sostenibilidad de la agricultura urbana a través de la alianza entre entidades públicas. Sin embargo, mientras se venían haciendo actividades del Proyecto, se ha venido aclarando la dificultad de esta	Se necesita revisar el plan de operación para poder garantizar la sostenibilidad de la agricultura urbana de la mesa redonda de la localidad y de la alianza entre esa mesa y entidades públicas. Más concretamente se desarrollarán las siguientes actividades:
		Plan de operación	Meta	Avance y resultados	Nivel de logro	Causa de la demora de actividades	Planes a realizar
3.1.		Establecimiento de un sistema de trabajo conjunto entre las entidades relacionadas con el mejoramiento de condiciones nutricionales		A través de la realización de un taller, se estableció teóricamente el sistema, pero en realidad no está funcionando.			Para asegurar la sostenibilidad de las actividades de la agricultura urbana de la localidad, se busca fortalecer las organizaciones comunitarias.
3.1.	1.	Elaboración conjunta del plan de desarrollo de la agricultura urbana por parte de las entidades relacionadas	Las entidades relacionadas elaboran el plan de operación.	Se realizó un taller para elaboración del plan de operación.			Se busca crear y fortalecer espacio donde las organizaciones comunitarias y autoridades puedan intercambiar sus opiniones.
		Realización de talleres que fomenta la participación de multiactores		Igual que arriba			Se busca crear un equipo de asesores que se conforma por las entidades que se dedican al mejoramiento de condiciones nutricionales (ICBF, INS, Secretaría de Salud, etc.)
3.1.	2.	Realización del plan de desarrollo de la agricultura					

Nombre del Proyecto: Mejoramiento de la Condición Nutricional de la Población Vulnerable, Incluyendo la Población en Situación de Desplazamiento a través del Fortalecimiento de la Agricultura Urbana  
 Período del Proyecto: Desde junio 2006 hasta mayo 2009 (3 años)  
 Zona objeto:  
 Población objeto:

Criterios de evaluación (1. Resultados)

Criterio	Aspectos		Medios	Datos e información necesaria	Fuente de información	Método de recolección de datos	Resultados del estudio (según el informe del proyecto)	
	Objetivo	Indicadores					Resultados obtenidos	Nivel de logro
1. Nivel de logro del objetivo superior	1.1 Objetivo superior Se mejoran las condiciones nutricionales de la población vulnerable, incluyendo la población en situación de desplazamiento a través del fortalecimiento de la agricultura urbana en Bogotá D.C.	1.1.1 La cantidad de hortalizas que consumen los habitantes de los estratos 1, 2 y 3 en Bogotá aumenta 3 % hasta 2014	<ul style="list-style-type: none"> <li>Comparación de la condición nutricional antes y después de la realización del proyecto</li> <li>Posibilidad de lograr el objetivo</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Cantidad de hortalizas que consumen los habitantes de los estratos 1, 2 y 3 de Bogotá</li> </ul>			<p>Resultados obtenidos</p> <p>No se pudo conseguir indicadores para medir la posibilidad de lograr el objetivo superior. Tampoco se puede proyectar en este momento si el objetivo cuantitativo se cumple o no. Hay alta probabilidad de que se aumente la cantidad de hortalizas que consumen los estratos bajos de Bogotá por las siguientes razones:</p> <p>(1) Antecedentes de estudios previos (realizados por el Jardín Botánico y la Universidad del Rosario) en los cuales se muestra el aumento en el consumo de hortalizas como resultado de la intervención del Programa de Agricultura Urbana</p> <p>(2) En la Localidad de San Cristóbal se puede esperar que se logre el objetivo del proyecto durante el periodo de implementación del proyecto, teniendo en cuenta que el Jardín Botánico cuenta con un proyecto fortalecido técnico y tecnológicamente.</p> <p>(3) El Jardín Botánico lidera y desarrolla en conjunto con las comunidades el Proyecto de Agricultura Urbana en el área urbana del Distrito Capital de Bogotá.</p> <p>(4) Se implementará la agricultura urbana como una política del Distrito, articulada con otras políticas relacionadas con el tema.</p>	5
2. Nivel de logro del objetivo del proyecto	2.1 Objetivo de proyecto Se mejoran las condiciones nutricionales de la población vulnerable incluyendo la población en situación de desplazamiento de la Localidad 4ta. de Bogotá D.C., a través del fortalecimiento de la agricultura urbana.  Véase 2.2.2 "Efectividad"	2.1.1 La cantidad y variedad de hortalizas que consumen las familias beneficiarias aumenta en 10 % hasta el final del proyecto.	<ul style="list-style-type: none"> <li>Comparación de la condición nutricional antes y después de la realización del proyecto</li> <li>Posibilidad de lograr el objetivo</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Variedad de hortalizas que consumen los beneficiarios finales</li> <li>Cantidad de hortalizas que consumen los beneficiarios finales</li> </ul>			<p>Resultados obtenidos</p> <p>No se pudo conseguir indicadores para medir la posibilidad de lograr el objetivo del proyecto. Estos indicadores se podrán obtener a través del estudio de Línea Base que se está llevando a cabo actualmente y el estudio de seguimiento que se realizará luego (el detalle de los dos estudios se especifican aparte).</p> <p>Según un estudio realizado en marzo de 2008, entre los habitantes que participan en el proyecto de agricultura urbana y los otros habitantes que no han participado en este proyecto existe una diferencia de 10% en la variedad de los hortalizas que consumen. Por lo tanto hay probabilidad de que se cumpla el objetivo cuantitativo en el proyecto. En cambio en cuanto a la cantidad, en el resultado del mismo estudio no se observa ninguna diferencia significativa. Teniendo en cuenta que en el proyecto no se ha realizado hasta ahora educación nutricional a los habitantes, con las actividades enfocadas en la educación nutricional se puede mejorar la cantidad de consumo de las hortalizas. Sin embargo, en este momento no se puede proyectar la probabilidad de lograr este objetivo. Se esperan unos resultados positivos en el aspecto nutricional, teniendo en cuenta que las actividades de educación nutricional se están realizando.</p> <p>Dentro de la misión y funciones del Jardín Botánico no se encuentra el tema de la nutrición. Por lo tanto en la estructura de la organización no hay dependencia que se pueda encargar de actividades para el mejoramiento de las condiciones nutricionales. Por eso hasta 2008 no se había adelantado ninguna actividad de ese tema. Sin embargo, como una solución a este problema, se ha contratado una persona experta del tema de nutrición desde mayo hasta agosto de 2008 y también se puede tener la asistencia técnica del Instituto Nacional de Salud (INS) (orientación, recomendaciones, estudios, etc.)</p>	

<p>3. Nivel de logro a cada resultado esperado</p>	<p>3.1 Resultado 1 Se fortalece la capacidad técnica instalada en Jardín Botánico en cuanto a la Agricultura Urbana</p>	<p>3.1.1 Se elabora un Manual de tecnología de siembra y un Manual de metodología social en 2008.</p> <p>[Otros aspectos a estudiar] Logros que no se puede medir con los indicadores</p>	<p>Manual de siembra Manual para difundir la agricultura urbana</p>	<p>Se está logrando el resultado No. 1. Se elaboraron el borrador del Manual de Siembra y del Manual para difundir la agricultura urbana. De aquí en adelante se repartirán estos manuales a los multiplicadores y ellos pondrán en práctica los contenidos de esos manuales. A final de 2008 se revisarán los manuales con base en los resultados de esas prácticas. La construcción del Centro de Capacitación que fue insumo para obtener el resultado No.1 fue culminada en el marzo de 2008 con retraso al cronograma inicial.</p>
<p>3.2 Resultado 2 Se fortalecen la capacidad del grupo objetivo en cuanto a la Agricultura Urbana</p>	<p>[Otros aspectos a estudiar]</p>	<p>Área sembrada en los hogares de los beneficiarios finales</p>	<p>La metodología del desarrollo social local participativo (PLSD) que introdujo en este proyecto como una metodología de difusión de la agricultura urbana se podrá aprobar como una metodología oficial de difusión y educación que realiza el Jardín Botánico y se aplicará en otros proyectos tales como arboización urbana.</p>	
<p>3.3 Resultado 3 Las entidades públicas relacionadas con el mejoramiento de las condiciones nutricionales realizan las actividades de difusión de la agricultura urbana.</p>	<p>[Otros aspectos a estudiar] Logros que no se puede medir con los indicadores</p>	<p>Comparación de la condición nutricional antes y después de la realización del proyecto Posibilidad de la mejora</p>	<p>No se pudo obtener indicadores con los que se permita medir el resultado No.2. Sin embargo, se pudo confirmar que la agricultura urbana se está difundiendo con éxito. Los indicadores para medir el logro del resultado No. 2 se podrán obtener a través del estudio de Línea Base que se está realizando y otro estudio de seguimiento que se realizará más adelante. Según el resultado realizado en marzo de 2008, entre los habitantes que han participado en el proyecto y los otros que no han participado en el proyecto se ve 7% de diferencia en el área sembrada. Por lo tanto, se espera que a través del estudio de la línea base y el otro de seguimiento se confirme el aumento del área sembrada, pero para lograr el objetivo cuantitativo, se debe fortalecer más las actividades relacionadas con el</p>	
<p>3.3.1 Entidades relacionadas al mejoramiento de las condiciones nutricionales de los habitantes envían el personal para difusión de la agricultura urbana.</p>	<p>3.3.1 Entidades relacionadas al mejoramiento de las condiciones nutricionales de los habitantes envían el personal para difusión de la agricultura urbana.</p>	<p>Con firmar la existencia del personal que puedan enviar las entidades públicas relacionadas con el mejoramiento de condiciones nutricionales, para difundir la agricultura urbana</p>	<p>Según la información previa que habíamos obtenido, se suponía que la Caja de Vivienda Popular (Habitat) y hospitales públicos realizaban actividades de agricultura urbana, por lo tanto se pretendía realizar actividades de este tema con la colaboración de estas entidades. Sin embargo, esta vez se confirmó que la Habitat no realiza este tipo de actividades y que los hospitales ya han suspendido estas actividades. Por lo tanto se debe cambiar el contenido del resultado No. 3. El resultado No. 3 está establecido con el fin de garantizar la sostenibilidad de las actividades. En el inicio del proyecto se pensó que en caso de que el Jardín Botánico no realizara actividades para el mejoramiento de condiciones nutricionales, otras entidades complementarían el espacio. Después de confirmar la situación real, se definió como resultado No. 3 fortalecer la Mesa de Agricultura Urbana Local para poder garantizar la sostenibilidad de las actividades. A través del fortalecimiento de la mesa, se estrechará la relación entre los habitantes y la autoridad y se establecerá un mecanismo con el que los habitantes puedan conseguir el apoyo de la autoridad. La mesa se está realizando una vez al mes y en la situación actual, a través de la mesa se trata la necesidad de los habitantes a la autoridad. Por lo tanto se puede decir que el resultado No. 3 se logró en su mayoría.</p>	

Nombre del Proyecto: Mejoramiento de la Condición Nutricional de la Población Vulnerable, Incluyendo la Población en Situación de Desplazamiento a través del Fortalecimiento de la Agricultura Urbana  
 Período del Proyecto: Desde junio 2006 hasta mayo 2009 (3 años)  
 Zona objeto:

Población objeto: Población Vulnerable, Incluyendo la Población en Situación de Desplazamiento

Criterios de evaluación: (2. Procesos de realización)

Criterios de evaluación		Datos e información necesaria	Fuente de información	Método de recolección de datos	Borrador del informe del estudio (basado en los documentos preparados antes de la realización del proyecto)
Aspectos grandes	Aspectos pequeños				
1. Pertinencia de los procesos	1.1 Realización de las actividades esperadas.	<ul style="list-style-type: none"> <li>Nivel de logro de las actividades</li> <li>Desarrollo real de actividades ante el plan de operación</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>En cuanto al avance de las actividades, las actividades para el mejoramiento de la condición nutricional no se realizaron hasta 2008 y la construcción del Centro de Capacitación se retrasó y se culminó en marzo de 2008. Sin embargo, otras actividades se están llevando a cabo de acuerdo con el plan. Actualmente se ve establecido el sistema para realizar las actividades del mejoramiento de la condición nutricional.</li> </ul>
	1.2 Sistema de administración del Proyecto	<ul style="list-style-type: none"> <li>Temas de reuniones, tales como reunión periódica del Proyecto</li> <li>Frecuencia</li> <li>Procesos para tomar decisión</li> <li>Frecuencia del Comité Conjunto de Coordinación</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>El espacio para la toma de decisión y la realización del monitoreo del proyecto son las siguientes cinco reuniones:                             <ol style="list-style-type: none"> <li>Reunión periódica del equipo encargado de la localidad San Cristóbal: (una vez por semana, Participantes: Asesor para el desarrollo social, todos los miembros del equipo, el Experto Sr. Mase)</li> <li>Reunión entre el experto y el Líder del Proyecto (Dos veces por mes, Participantes: Director del proyecto y el Sr. Mase)</li> <li>Reunión del proyecto JICA (Una vez por mes, participantes: Subdirector de actividades técnicas, Líder del proyecto, jefe de difusión, jefe de educación social, jefe de investigación y ensayo, jefe de Tecnología limpia, y el Sr. Mase)</li> <li>Comité conjunto de coordinación (en Enero de 2007, Participantes: por confirmar)</li> <li>Reunión del comité operativo del proyecto (en agosto y noviembre de 2007, participantes: por confirmar)</li> </ol> </li> <li>Tanto el tipo de reuniones y como la frecuencia de las mismas son pertinentes. Se recomienda convocar nuevamente las reuniones (2) y (3) que no se han vuelto a realizar desde noviembre pasado.</li> <li>El proceso para la toma de decisiones no fue eficiente, por lo cual existió retraso en el cronograma de actividades</li> </ul>
	1.2.2 Revisar: - Si el monitoreo se realizó periódicamente. - Quién se encarga del monitoreo. - Si está funcionando el sistema de monitoreo correctamente o no.	<ul style="list-style-type: none"> <li>Situación de realización del monitoreo, su metodología y frecuencia</li> <li>Utilización de la PDM y Plan de Operación</li> <li>Retoolimentación del resultado al plan y las actividades</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>El experto de JICA elabora un informe mensual y presenta el reporte del avance cada mes ante la Oficina de JICA en Bogotá. El contenido del informe se transmite al Departamento de Desarrollo Rural a través de Aviso Oficial.</li> <li>El experto y la contraparte, además de los cinco espacios mencionados, utilizan para el desarrollo del proyecto la lista de administración de actividades que el experto elabora cada seis meses.</li> <li>Se realiza una Mesa de Agricultura Urbana Local como espacio para el intercambio de información relacionada con la agricultura urbana principalmente en la Localidad de San Cristóbal bajo el apoyo del experto de JICA.</li> </ul>

Metodología de transferencia a técnica	<p>1.2.3 Revisar si el resultado del monitoreo retroalimentó al plan y las actividades</p> <p>1.2.4 Revisar si el experto de JICA y la contraparte realizan actividades juntos o no</p> <p>1.2.5 Revisar si la comunicación entre el experto de JICA y la contraparte es fluida o no</p> <p>1.2.6 Revisar si no hay problema de coordinación entre la contraparte, experto de JICA y el gerente.</p>	<p>• Situación de realización del monitoreo</p> <p>• Retroalimentación del resultado al plan y las actividades</p> <p>• Metodología de transferencia técnica</p> <p>• Mecanismo y situación de comunicación</p> <p>• Comunicación en el interior del Proyecto</p> <p>• Asistencia en la reunión general</p> <p>• Ejecutores principales de actividades</p>	<p>• Contraparte y el experto</p> <p>• Informe de monitoreo</p>	<p>• Con base en el informe del Proyecto y del monitoreo realizado por la contraparte se está adelantando adecuadamente la revisión de las actividades y PDM del proyecto.</p> <p>• La transferencia técnica se realiza a través de capacitaciones. Está establecido el proceso de la capacitación en que primero se enseña parte teórica, luego se pone en práctica lo aprendido y reflexionar el resultado posterior a la práctica.</p> <p>• La comunicación en español entre el experto y la contraparte es bastante fluida.</p> <p>• La información se comparte entre el experto y la contraparte a través de los cinco espacios arriba mencionados, además de la comunicación diaria.</p> <p>• Se observó un problema de comunicación entre la dirección y el equipo técnico. Se evidencia una dinámica eficiente de comunicación entre los integrantes del equipo técnico.</p>
1.3 Iniciativa de la entidad ejecutora y/o la contraparte	<p>1.3.1 Nivel de entendimiento de los actores sobre el esquema del Proyecto y la Matriz de Diseño del Proyecto (PDM)</p> <p>1.3.2 Revisar si la entidad contraparte realiza la asignación estable de presupuesto para el Proyecto o no.</p>	<p>• Nivel de entendimiento de los ejecutores (contraparte, experto) y otros actores sobre el esquema del Proyecto y la Matriz de Diseño del Proyecto</p> <p>• Quién realizaba actividades tomando la iniciativa</p>		<p>• La revisión de la PDM se está adelantando con la participación de la contraparte. La contraparte entendían bien la PDM, pero por el cambio del personal, actualmente solo hay tres personas que entienden bien la PDM (Subdirector Técnico Operativo, asesor del desarrollo social y Coordinador Zonal de San Cristóbal)</p> <p>Por otro lado, en mayo de 2007 se informó que en la localidad objeto del proyecto y entre los habitantes habían los siguientes malos entendimientos sobre el proyecto de JICA.</p> <p>1) Los habitantes pensaban que los recursos con las que realizaban actividades de difusión de la agricultura urbana eran de JICA, a pesar de que en realidad son recursos de la Alcaldía Local y del Jardín Botánico.</p> <p>2) En el proceso de identificación de necesidades del proyecto, los habitantes y una parte de los líderes políticos pensaron que a través del proyecto de JICA se invertirían altos recursos para apoyar directamente a los habitantes.</p> <p>En cuanto a estos malentendimientos, el proyecto de JICA ha venido explicando sobre el mecanismo de ejecución tanto a los habitantes como a la Alcaldía Local, por lo tanto este problema se ha solucionado.</p> <p>• El lado colombiano asume el costo personal, los costos de servicios públicos, y el costo de mantenimiento y administración de los equipos y materiales del proyecto, incluyendo los vehículos.</p> <p>Para cubrir el costo del proyecto, el Jardín Botánico asume el 10% y la Alcaldía Local de San Cristóbal el 90% restante.</p> <p>Los equipos de agricultura urbana se encargan de varias localidades, sin embargo, el equipo de San Cristóbal trabaja solo con esta localidad, lo cual es posible, gracias al presupuesto asignado por la Alcaldía Local</p>

	1.3.3 Motivación de la contraparte para participar en el Proyecto	<ul style="list-style-type: none"> <li>• La contraparte participa en el Proyecto activamente o no</li> <li>• Grado de interés en la contraparte y su cambio</li> <li>• Participación de la contraparte en la toma de decisión y su cambio</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>• El proyecto se está realizando bajo la iniciativa de la contraparte del Proyecto (Lider del Proyecto 319). El hecho de que el país beneficiario se encargue principalmente de la administración del proyecto se puede evaluar como buena práctica.</li> <li>• A través de la entrevista y visita al campo, se confirmó que la contraparte mantiene alto nivel de motivación e iniciativa en la realización del proyecto.</li> </ul>
	Cómo los beneficiarios finales participan en el proyecto? Cómo reconocen el proyecto?	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Modo de participación de los beneficiarios finales</li> <li>• Grado de reconocimiento</li> </ul>			<p>Como la Mesa de Agricultura Urbana Local se realiza no por la iniciativa de la autoridad sino por la iniciativa de los habitantes mismos, se puede decir que la iniciativa de los habitantes se está incrementando.</p> <p>A medida que participe en la mesa, aumenta el reconocimiento del proyecto. Por lo tanto los habitantes que participan menos en la mesa no reconocen mucho el proyecto.</p>
	Cómo participan los otros actores en el proyecto? Entre ellos el proyecto es reconocido o no?	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Modo de participación de los otros actores</li> <li>• Grado de reconocimiento sobre el proyecto</li> </ul>			<p>Tanto la Alcaldía Local de San Cristobal como el INS, que tienen relación directa con el proyecto, muestran alto grado de reconocimiento del proyecto. También entre otras entidades que participan en la mesa, se observa alto reconocimiento sobre el proyecto.</p>
2.1 Otros problemas surgidos en los procesos	2.1.1 Problemas surgidos en el interior del Proyecto	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Problemas que afectan a la realización del Proyecto</li> </ul>			<p>Dos personas capacitadas en Japón no transfirieron la información, ni dejaron documentada su experiencia. El experto de JICA asumió esta responsabilidad.</p>



Anexo 3-3: Criterios de evaluación sobre 5 aspectos

Criterios de Evaluación (sobre 5 aspectos)		Resultados del estudio (según el informe del proyecto)					Nivel de logro	
Aspectos grandes	Aspectos medianos	Aspectos pequeños	Medios	Datos e información necesaria	Fuente de información	Método de recolección de datos	Resultados obtenidos	
1. Pertinencia	1.1. Necesidad para realizar el proyecto	1.1.1. Concordancia con la necesidad de la entidad ejecutora (Jardín Botánico de Bogotá)	<ul style="list-style-type: none"> <li>Reconfirmar la necesidad de la entidad ejecutora y revisar si el objetivo coincide con esa necesidad</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Confirmar la relación entre la situación actual de la asistencia técnica que realiza el Jardín Botánico de Bogotá para la población vulnerable incluyendo desplazados y la necesidad técnica</li> <li>Necesidad de funcionarios del Jardín Botánico</li> </ul>			El Jardín Botánico de Bogotá tenía un cierto nivel técnico sobre la siembra de plantas, al realizar el proyecto de agricultura urbana tuvo las siguientes necesidades: (1) Técnica de agricultura urbana La agricultura urbana en Bogotá está en un esquema nuevo, ya que no se siembra en la tierra sino en otros espacios como terrazas. Por lo tanto el JBB no tenía experiencia. El desarrollo de la técnica de siembra de agricultura urbana se realizó bajo la iniciativa del JBB y el experto de JICA, lo complementa. Actualmente la técnica general ya se ha desarrollado y les queda el aumento de productividad y técnicas según especie (2) Estrategia de difusión El JBB no tenía estrategia de difusión y necesitaba introducir y aprender la técnica para difundir la agricultura en la comunidad. Con este proyecto se introdujo la teoría y metodología de desarrollo social local participativo en la estrategia de difusión	5
		1.1.2. Concordancia con la necesidad de los beneficiarios finales (población vulnerable incluyendo desplazados)	<ul style="list-style-type: none"> <li>Reconfirmar la necesidad del área de agricultura urbana y revisar si el objetivo coincide con esa necesidad</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Si el proyecto está acorde con la necesidad de la población vulnerable y desplazada en la zona objeto del proyecto</li> </ul>			La población vulnerable incluyendo la población desplazada, tiene mal nutrición por deficiencia de vitaminas y minerales. Al mismo tiempo la población vulnerable y desplazada tiene dificultad de acceso a las hortalizas. Por lo tanto, la agricultura urbana se puede considerar una alternativa para tener acceso a las verduras y hortalizas, contribuyendo a una mejor nutrición de esta población.	
		1.1.4. Concordancia con la política de Colombia	<ul style="list-style-type: none"> <li>Concordancia con la política colombiana para apoyar los desplazados</li> <li>Concordancia con otras políticas relacionadas</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Cómo se sitúa la política nacional para apoyar la población desplazada dentro de la política colombiana?</li> <li>Cómo se sitúa el tema de mejoramiento de condiciones nutricionales en la política para el apoyo a la población desplazada?</li> <li>Otras políticas relacionadas</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>El gobierno colombiano ha fijado como uno de los temas prioritarios la lucha contra la pobreza extrema y sus consecuencias, además, del apoyo a la población desplazada a través de la ley 387 de 1997 y otros decretos, realiza actividades para apoyar, proteger y garantizar la estabilidad socio-económica de dicha población. Por lo tanto se puede reconocer alta pertinencia del proyecto ante la política colombiana. Hasta ahora la política del gobierno colombiano de dicho tema no ha cambiado, y se mantiene la pertinencia con el objetivo del proyecto y el objetivo superior del proyecto, y las políticas nacional y distrital de seguridad alimentaria y nutricional entre otros</li> </ul>	
		1.1.3. Concordancia con la política de las entidades relacionadas (Acción Social, Distrito Capital, San Cristóbal)	<ul style="list-style-type: none"> <li>Coherencia con la política de las entidades relacionadas</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Política Nacional</li> <li>Política del Distrito</li> <li>Política de San Cristóbal</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>Acción Social realiza 26 procesos para la población vulnerable, RESA es uno de ellos que impulsa proyectos de seguridad alimentaria, como el proyecto de seguridad alimentaria urbana en Ciudad Bolívar</li> <li>En el nivel distrital, el proyecto de agricultura urbana se sitúa bajo el programa "Bogotá Sin Hambre", actualmente "Bogotá bien alimentada"</li> <li>La Localidad de San Cristóbal tiene dos proyectos de gobierno local, los cuales son ecoturismo y agricultura urbana</li> </ul>	
		1.1.5. Concordancia con el Plan de Operación de JICA para cada caso	<ul style="list-style-type: none"> <li>Revisar si no hubo cambio en el lineamiento de la asistencia</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Cómo se sitúa la asistencia a la población desplazada en el Lineamiento de la Asistencia para Colombia y cómo se sitúa el tema de mejoramiento de condiciones nutricionales?</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>Una de las áreas prioritarias de asistencia para Colombia es la Construcción de la Paz. Este proyecto se sitúa dentro del Programa de Asistencia a la Convivencia y Reconciliación de las víctimas del conflicto. Se considera que las actividades de este proyecto contribuyen a la solución de los problemas socio-económicos surgidos del conflicto. Por lo tanto coincide con el plan de operación de asistencia de JICA para Colombia</li> </ul>	

1.1.6	Ventaja comparativa de la técnica y tecnología de Japón	• Comparación con otros dominantes Reconocimiento por parte de la contraparte	• Ventaja de la asistencia de Japón		El nivel técnico y conocimiento que tiene la contraparte es alto, sin embargo se observa debilidad en el desarrollo de la estrategia y el conocimiento que se necesita para la difusión. La teoría y metodología de desarrollo social local participativo es una metodología desarrollada en Japón, y nuestra ventaja comparativa. La contraparte colombiana la está implementando con resultados positivos.
1.1.7	Pertinencia del objetivo del proyecto		• Justificación para establecer el objetivo del proyecto		El mejoramiento de las condiciones nutricionales a las que se refiere el objetivo del proyecto está relacionado con el aumento en el consumo y variedad de hortalizas, abordando las necesidades de acceso y deficiencia de nutrientes presentes en estos alimentos.
1.2	Pertinencia del diseño del proyecto	• Nivel de participación de los actores y pertinencia • Procesos para definir el plan inicial • Pertinencia de la modificación del plan	• Revisión de los procesos para definir el plan • Opiniones de los actores sobre la pertinencia de esos procesos		El proceso de cambio del proyecto es el siguiente Al inicio de la estructuración del proyecto (PDM-0) se discararon como resultados esperados los siguientes tres aspectos: (1) Fortalecimiento de la capacidad de JBB, (2) Fortalecimiento de la capacidad de los habitantes y (3) Desarrollo de instrumentos de difusión. Este tercer aspecto se desarrolló como garantía de sostenibilidad. Sin embargo, es difícil garantizar la sostenibilidad del proyecto solamente con el desarrollo de instrumentos de difusión. Además este desarrollo lo haría el JBB. Por lo tanto este resultado lo incluye en el resultado 1 "Fortalecimiento de la capacidad de JBB" y se establece nuevamente el resultado 3 (PDM-1) Después de realizar reuniones con las entidades relacionadas, se define que la sostenibilidad del proyecto se garantiza con la estructuración de un sistema de coordinación entre entidades. Con este esquema, en caso de que el JBB no pudiera realizar actividades del proyecto, otras entidades podrían complementarlo. Entonces, con alguna información errada, pensaron que las entidades que podrían ofrecer esa alianza serían hospitales y la actual Sin embargo, después se confirmó que la Secretaría del Habitat no realiza este tipo de activi hospitales suspendieron esa actividad. Y fue necesario establecer nuevamente el resultado 3. Actualmente se considera que la sostenibilidad del proyecto se garantiza a través de la mesa, y lo cual se estableció como resultado 3. Con el fortalecimiento de la mesa se espera que se estreche la relación entre los habitantes y la autoridad y que los habitantes puedan reclamar asistencia necesaria a la autoridad. Este proceso de cambio se hizo con la coordinación entre los actores del proyecto (JICA y C y se considera que fue adecuado (PDM-2)
1.2.2	Revisar si la población vulnerable incluyendo la población desplazada de la localidad San Cristóbal es		• Razones por las cuales se ha escogido el grupo objetivo		San Cristóbal es una de las localidades con mayor presencia de población vulnerable incluyendo población desplazada, experiencia comunitaria y potencialidad técnica para el desarrollo de la agricultura urbana, condiciones favorables para el trabajo comunitario, apoyo de la Alcaldía Local de San Cristóbal
1.2.3	Concordancia entre el objetivo del proyecto y el objetivo superior	• Revisar si el logro del objetivo del proyecto influye directamente para el logro del objetivo superior	• Condiciones necesarias para lograr el objetivo superior a través del logro del objetivo del proyecto • Lineamiento tonado al definir el plan inicial		El objetivo del proyecto es el "mejoramiento de la condición nutricional de la población vulnerable incluyendo la población desplazada en la localidad de San Cristóbal", y el objetivo superior es ampliar este efecto al área urbana y periurbana de Bogotá. El JBB es la entidad ejecutora del proyecto que se adelanta en toda Bogotá, por lo tanto el logro del objetivo del proyecto y resultados generará efecto directo al logro del objetivo superior.
1.2.4	Concordancia entre el objetivo del proyecto y los resultados esperados	• Cada resultado esperado es una condición necesaria y suficiente para lograr el objetivo del proyecto?	• Condiciones necesarias para lograr el objetivo del proyecto a través del logro de cada resultado • Lineamiento tonado al definir el plan inicial		El objetivo del proyecto "mejoramiento de la condición nutricional" no se logra sin el resultado 1 "Fortalecimiento de la capacidad de JBB" y el resultado 2 "Fortalecimiento de la capacidad de los habitantes". El resultado 3 es necesario para garantizar, además del objetivo del proyecto, la sostenibilidad del mismo.
1.2.5	Pertinencia del diseño del proyecto en general	• En el marco del proyecto cada objetivo, resultado y actividad está bien definido?	• Otras opiniones en general		El grupo objeto del proyecto es la "población vulnerable incluyendo la población desplazada" de la localidad San Cristóbal. Para participar en el proyecto y realizar la agricultura urbana se requiere que estén establecidos en ese lugar. Por otro lado, la población desplazada recién llegada no establece su vivienda hasta encontrar un sitio adecuado para ellos. Por lo tanto es difícil tener acceso a ese grupo de personas con el esquema de este proyecto. Pero las personas que participan en este proyecto también son población desplazada pero reubicada. Por eso, en este proyecto el grupo objeto es la población vulnerable incluyendo la población desplazada reubicada

Criterios de Evaluación (sobre 5 aspectos)				Resultados del estudio (según el informe del proyecto)		Nivel de logro
Aspectos grandes	Aspectos medianos	Aspectos pequeños	Medios	Datos e información necesaria	Fuente de información	Método de recolección de datos
2. Efectividad	2.1 Proyección sobre el logro del objetivo del proyecto	* Véase la lista de los resultados "La cantidad y variedad de hortalizas que consumen las familias beneficiarias aumenta en 10% hasta el final del proyecto."	• Comparación del plan con los resultados	• Variedad y cantidad de hortalizas que consumen los beneficiarios finales		
	2.2 Relación entre los resultados y el objetivo del proyecto	2.2.1 Resultado 1. Se fortalece la capacidad técnica instalada en Jardín Botánico en cuanto a la Agricultura Urbana 2.2.2 Se fortalecen la capacidad del grupo objetivo en cuanto a la Agricultura Urbana	• Resultados y el nivel de contribución al logro del objetivo del proyecto • En 2008 se elabora un manual de difusión de la agricultura urbana y un manual de siembra de la agricultura urbana de • Resultados y el nivel de contribución al logro del objetivo del proyecto "El área de cultivo de los hogares beneficiarios aumenta en 15% hasta el final del proyecto"	• Resultados y el nivel de contribución al logro del objetivo del proyecto		
	2.3 Factores que hayan contribuido al logro del objetivo	2.3.1 Las entidades públicas relacionadas con el mejoramiento de las condiciones nutricionales conjuntamente las actividades de difusión de la agricultura urbana 2.3.2 Factores que hayan contribuido para el logro de cada resultado 2.3.3 Factores que hayan contribuido para el logro del objetivo del proyecto	• Factores contribuyentes y su relación con los resultados • Las entidades públicas relacionadas con el mejoramiento de las condiciones nutricionales envían el personal para las actividades de difusión de la agricultura urbana • Factores contribuyentes y su relación con los resultados	• Resultados y el nivel de contribución al logro del objetivo del proyecto • Relación entre los factores contribuyentes y el objetivo del proyecto y su influencia • Confirmar si existe otro donante u otro proyecto o medidas del gobierno que haya contribuido al logro del objetivo del proyecto		
	2.4 Factores que hayan impedido el logro del objetivo	2.4.1 Factores que hayan contribuido para el logro de cada resultado 2.4.2 Factores que hayan contribuido para el logro del objetivo del proyecto	• Relación entre los factores afectantes y el proyecto • Influencia de estos factores afectantes al logro del objetivo del proyecto	• Relación entre los factores afectantes y el proyecto • Influencia de estos factores afectantes al logro del objetivo del proyecto		

Criterios de Evaluación (sobre 5 aspectos)		Resultados del estudio (según el avance del proyecto)			Nivel de logro			
Aspectos grandes	Aspectos medianos	Aspectos pequeños	Medios	Datos e información necesaria	Fuente de información	Método de recolección de datos	Resultados obtenidos	Nivel de logro
3. Eficiencia	3.1 Producción de resultados (productos)		<ul style="list-style-type: none"> <li>Comparación entre los resultados y la inversión</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Nivel de logro de los resultados</li> <li>Inversión, su contenido, etc.</li> <li>Concordancia de la inversión con el área de actividad</li> </ul>			<p>Excepcio el resultado relacionado con el tema de nutrición, el resultado 1 se está logrando sin problema. En cuanto al resultado 2, aunque no se ha podido confirmar resultado con cifra, se pudo confirmar que en el sitio del proyecto se está difundiendo con éxito la agricultura urbana. En cuanto al resultado 3, después del cambio, se está generando. Por lo tanto excepto el tema nutricional, el proyecto muestra eficiencia</p>	5
	Relación	Factores que impidan la producción de resultados (productos)		<ul style="list-style-type: none"> <li>Factores afectantes y medidas de solución</li> </ul>			<p>Los factores que impidieron el logro del objetivo del proyecto son los mismos que están en el "Nivel de logro del objetivo del proyecto"</p>	
		Las actividades fueron suficientes para generar productos?		<ul style="list-style-type: none"> <li>Actividades realizadas y resultados obtenidos</li> </ul>			<p>Como se explicó anteriormente, excepto el tema nutricional, se está generando el resultado sin problema. Por lo tanto las actividades fueron suficientes para generar el resultado.</p>	
		La inversión fue suficiente para generar productos?		<ul style="list-style-type: none"> <li>Inversión realizada y resultados obtenidos</li> </ul>			<p>Como se explicó anteriormente, excepto el tema nutricional, se está generando el resultado sin problema. Por lo tanto las actividades fueron suficientes para generar el resultado.</p>	
		Hubo influencia externa en el proceso de desarrollar las actividades para lograr el resultado?					<p>No se encontró influencia externa</p>	
	Tiempo, calidad y cantidad	La inversión fue realizada en cantidad y calidad suficiente oportunamente o no?		<ul style="list-style-type: none"> <li>Experto (numero de personas, área, efecto)</li> <li>Máquinas e equipos donados (tipo, número, tiempo, uso y mantenimiento)</li> <li>Curso de capacitación (tiempo, número, contenido de los cursos, efecto al proyecto)</li> <li>Seminarios locales (tiempo, número, contenido, efecto al proyecto)</li> <li>Costo de administración del proyecto (cantidad, tiempo)</li> <li>Colocación del personal de la contraparte (número, tiempo, área)</li> <li>Equipos e instalaciones (escala, tiempo, calidad)</li> </ul>			<p>Excepcio el tema nutricional, la inversión no tuvo problema en su cantidad, calidad y tiempo. La construcción del centro de capacitación se retrasado aproximadamente un año, por lo cual fue necesario buscar otros espacios que dificultó el desarrollo de actividades de capacitación. En el tiempo restante del proyecto se utilizará esta instalación para realizar cursos de capacitación y exposición</p>	
	3.2	Coordinación con la Localidad de San Cristóbal	<ul style="list-style-type: none"> <li>Situación de coordinación y su nivel de contribución</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Contenido de las actividades bajo la coordinación</li> </ul>			<p>Se están desarrollando las actividades del proyecto en coordinación con las organizaciones de la localidad San Cristóbal, con el fin de desarrollar la Mesa de Agricultura Urbana Local y el fortalecimiento de la alianza con otras entidades. A través de estas actividades se busca garantizar la sostenibilidad de la agricultura urbana. La Alcaldía Local de San Cristóbal asume el 90% del presupuesto de la agricultura urbana y el sitio de reunión de la mesa</p>	

<p>3.2.2 Coordinación con la Univ. Del Rosario e IPES</p>	<p>• Situación de coordinación y su nivel de contribución</p>	<p>• Contenido de las actividades bajo la coordinación</p>	<p>Algunos miembros del proyecto de agricultura urbana participan en la capacitación que realizan la Univ. del Rosario e IPES, aprenden la metodología del desarrollo participativo y lo aplican en el sitio de trabajo. Por ejemplo, el instrumento de desarrollo participativo se aplica en la planeación en la mesa y el mapa comunitario que elaboran el grupo de habitantes en el proyecto se realiza con la metodología de IPES. Por otro lado, algunos miembros de la Univ. del Rosario participaron en el curso de capacitación realizado por este proyecto.</p>
<p>Parque Entrenubes</p>			<p>Al realizar la agricultura urbana en la Localidad de San Cristóbal, los funcionarios del Parque Entrenubes apoyan actividades como coordinador de la organización comunitaria. En la mesa siempre participan 3 funcionarios. Además el parque ofrece el aula sin costo.</p>
<p>Coordinación con INS</p>			<p>Actualmente con la colaboración de INS se está adelantando el estudio de línea base, y se espera realizar un estudio de seguimiento. De aquí en adelante INS podrá ofrecer la asistencia técnica al proyecto (orientación, recomendaciones, estudio). Por ejemplo, se espera tener orientación y recomendaciones al funcionamiento de JBB del tema nutricional, colaboración en la realización de la capacitación nutricional, en el diseño de instrumentos, diseño de la metodología de difusión, desarrollo de instrumentos para monitorear la</p>
<p>3.2.2 Coordinación con FAO</p>	<p>• Situación de coordinación y su nivel de contribución</p>	<p>• Contenido de las actividades bajo la coordinación</p>	<p>• Los materiales didácticos elaborados por FAO al realizar un seminario para el mejoramiento de los hábitos alimentarios en relación con la agricultura urbana en el año 2007 se pueden utilizar como insumo para el proyecto de JICA</p>
<p>3.3.1 Aprovechamiento del comité conjunto de coordinación</p>	<p>• Situación de uso y su nivel de contribución</p>	<p>• Frecuencia de la realización del comité</p>	<p>El primer comité conjunto de coordinación fue realizado en enero de 2007 y definieron el cambio de PDM-0 a PDM-1 y PO</p>
<p>3.3.2 Pertinencia de apoyo y manejo por parte de entidades superiores (Secretaría de Ambiente de Bogotá)</p>	<p>• Situación de uso y su nivel de contribución</p>	<p>• Situación de aprovechamiento de las sugerencias</p>	<p>El JBB actualmente está adscrito a la Secretaría Distrital de Ambiente. Por lo cual se rige por su política ambiental pero no tiene relación directa con la ejecución del proyecto.</p>
<p>3.3.3 Aprovechamiento de sugerencias de la oficina de JICA en Colombia y del Departamento de Desarrollo Rural</p>	<p>• Pertinencia, justificación</p>	<p>• Situación de apoyo por parte de la Oficina de JICA en Colombia y Casa Matriz de JICA</p>	<p>Con la oficina de JICA en Bogotá se mantienen una comunicación diaria. Los equipos costosos que se necesitan para el proyecto se adquieren con la ayuda de la Oficina de JICA en Bogotá</p>
<p>3.3.4 Aprovechamiento de otros sistemas de apoyo</p>	<p>• Situación de uso y su nivel de contribución</p>	<p>• Situación de apoyo de JICA</p>	<p>No se hacen necesarios factores adicionales para lograr la eficiencia</p>
<p>3.4 Factores que hayan impedido el logro de eficiencia</p>	<p>• Existencia de factores negativos</p>	<p>• Factores que hayan impedido el logro de eficiencia</p>	<p>Se concierne la donación de equipos en el primer año del proyecto. Por lo tanto el trabajo del experto también se concentró en este tema en el primer año del proyecto</p>

Criterios de Evaluación (sobre 5 aspectos)		Resultados del estudio (según el informe del proyecto)					Nivel de
Aspectos grandes	Aspectos medianos	Aspectos pequeños	Medios	Datos e información necesaria	Fuente de información	Método de recolección de datos	5
4. Impactos	4.1 Posibilidad de lograr el objetivo superior	<p>En 3 a años después de terminación del proyecto, se logró el objetivo superior?</p> <p>4.1.1 La cantidad de hortalizas que consumen los habitantes del estrato 1, 2 y 3 en Bogotá aumenta 3 % hasta 2014</p> <p>4.1.2 Se necesitarán más resultados o actividades para lograr el objetivo superior?</p>	<p>• Comparación de la situación anterior y posterior del proyecto</p> <p>• Confirmar si se necesitan más productos</p>	<p>• Lista de los resultados</p> <p>• Relación entre programas nacionales, el objetivo superior y este proyecto</p>			La probabilidad del logro del objetivo superior es igual al "No listado de resultados"
	Relación	<p>Hay factores que impidan el logro del objetivo superior?</p> <p>El objetivo superior no está alejado del objetivo del proyecto?</p> <p>Habría influencia externa para lograr el objetivo superior tras logro del objetivo del proyecto?</p>					<p>No se necesitan realizar más actividades para cumplir con el objetivo superior del proyecto</p> <p>No hay factores que impidan el desarrollo del proyecto</p> <p>No hay distancia entre dos objetivos. Las razones están especificadas en la parte de "Pertinencia"</p> <p>No factores externos que impacten negativamente el objetivo del proyecto</p>
	4.2 Otros impactos	<p>4.2.1 Impactos positivos (políticos, organizacionales, técnicos, ambientales, socio-económicos)</p> <p>4.2.2 Impactos negativos (políticos, organizacionales, técnicos, ambientales, socio-económicos)</p>	<p>• Comparación de la situación anterior y posterior del proyecto</p>	<p>• Impactos surgidos (o puedan surgir)</p> <p>• Impactos surgidos (o puedan surgir)</p>			<p>El impacto definido para esta evaluación se ha obtenido de la percepción del comité evaluador a partir de la información suministrada por los actores relacionados con el proyecto.</p> <p>Aspectos políticos Teniendo en cuenta que el proyecto de JICA tiene una aplicación directa en la Localidad de San Cristóbal, es allí donde se ven los impactos positivos directos. Se prevé tener un impacto mayor cuando se cumpla el objetivo superior, sin embargo, ha contribuido en la generación de un espacio para la construcción de la política de agricultura urbana. Adicionalmente, por el avance exitoso del proyecto de agricultura urbana de Bogotá, y por la evaluación positiva que está recibiendo este proyecto, la nueva administración distrital incluyó la agricultura urbana dentro de su plan de desarrollo. El sistema de difusión de la agricultura urbana continúa bajo la iniciativa del Jardín Botánico como una parte del servicio a los habitantes. También en la localidad de San Cristóbal hay alta posibilidad de que el tema de agricultura urbana se incluya en el plan de desarrollo local</p> <p>Aspectos técnicos Hay mucha posibilidad de que en el proyecto que realiza el Jardín Botánico para los habitantes introduzca el desarrollo local social participativo (PLSD). El Jardín Botánico está en proceso de implementación en otras localidades de la metodología PLSD aplicada en la Mesa de Agricultura Urbana.</p> <p>Aspectos Sociales Según el resultado del estudio preliminar del proyecto y el estudio realizado por la Universidad Nacional, uno de los impactos de este proyecto se relaciona con la integración social tales como fortalecimiento de la relación intrafamiliar y entre los habitantes, y adquisición de buena costumbre como buen ciudadano. El impacto social se pudo evidenciar a través de las entrevistas realizadas con las entidades relacionadas. Se ha favorecido la organización comunitaria para la participación en la Localidad de San Cristóbal</p> <p>Hasta ahora no se ha observado impacto negativo</p>

Criterios de Evaluación (sobre 5 aspectos)		Resultados del estudio (según el informe del proyecto)				Nivel de	
Aspectos grandes	Aspectos pequeños	Medios	Datos e información necesaria	Fuente de información	Método de recolección de datos	Resultados obtenidos	
5. Sostenibilidad	5.1.1 Sostenibilidad del Jardín Botánico de Bogotá en la administración del proyecto	<ul style="list-style-type: none"> <li>Resultados y valores esperados</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Capacidad administrativa del Jardín Botánico de Bogotá</li> <li>Recursos humanos</li> </ul>			<p>Organización y sistema: El hecho de que los técnicos y promotores que trabajan en el proyecto son personal de contrato es un factor negativo para la sostenibilidad. Sin embargo, teniendo en cuenta que la agricultura urbana se continúa como política del distrito, este factor no causará mayor efecto.</p> <p>Capacidad administrativa y operativa: En cuanto a la capacidad administrativa y operativa del JBB no hay problema. Actualmente la contraparte toma iniciativa en el desarrollo de las actividades del proyecto. Por lo tanto mientras haya apoyo político, están asegurados los recursos humanos para operar y administrar el proyecto.</p>	5
	5.1.2 Sostenibilidad organizacional de los habitantes de la localidad San Cristóbal	<ul style="list-style-type: none"> <li>Resultados y valores esperados</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Capacidad administrativa del Jardín Botánico de Bogotá</li> <li>Recursos humanos</li> </ul>			<p>La motivación de los habitantes para aprender la agricultura urbana es alta. Por eso la sostenibilidad del proyecto en el nivel de los habitantes es alta. Si se generan excedentes de producción, con la comercialización de los mismos se puede contribuir al mejoramiento del ingreso. Por otro lado, si se organiza la comunidad, a través de la mesa se podrá tener capacidad de negociación y acceso a otros servicios de la autoridad y se fortalecerá el tejido social. Por eso, se puede decir que la sostenibilidad del nivel organizacional también es alta.</p>	
	5.1.3 Alianza y coordinación con entidades relacionadas (Alcaldía Menor de San Cristóbal, INS, etc.)	<ul style="list-style-type: none"> <li>Resultados y valores esperados</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Capacidad administrativa del Jardín Botánico de Bogotá</li> <li>Recursos humanos</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>Está establecido un sistema para solicitar la asistencia del INS, sobre todo en actividades relacionadas con el mejoramiento de condiciones nutricionales (estudio de líneas base).</li> <li>En la Localidad de San Cristóbal el reconocimiento sobre el proyecto y JICA es alto. Si pensamos que la alcaldía local ha establecido la agricultura urbana como base de la política de su gobierno, hay alta probabilidad de que ese apoyo continúe. También el hecho de que los habitantes de la zona participan en el proyecto muy activamente es un factor positivo.</li> <li>La mesa a través de la cual se busca establecer la sostenibilidad del proyecto se encuentra más activa en esta localidad.</li> </ul>	
5.2 Políticos	Continuará el apoyo político después de terminación del proyecto? Está establecido el sistema jurídico para eso o establecerá?		<ul style="list-style-type: none"> <li>Alcaldía mayor de Bogotá y Alcaldía menor de San Cristóbal</li> <li>Política del gobierno nacional en cuanto a la asistencia a la población desplazada</li> <li>Como se sitúa el proyecto de mejoramiento de condición nutricional en la asistencia a la población desplazada</li> <li>Plan financiero</li> </ul>			<p>Apoyos políticos La nueva administración de Bogotá incluyó la agricultura urbana dentro del Plan de Desarrollo del Distrito y la entidad ejecutora será el JBB. También en el nivel local, la agricultura urbana será una de las bases del actual gobierno.</p>	
5.2 Financieros	5.2.1 Asignación de presupuesto del gobierno colombiano	<ul style="list-style-type: none"> <li>Resultados y valores esperados</li> </ul>				<p>Hay alta probabilidad de poder conseguir el presupuesto tanto en el nivel distrital como en el nivel local, por estar incluida la agricultura urbana dentro del Plan de Desarrollo Distrital y por encontrarse en formulación la política de agricultura urbana.</p>	
	Hay medidas establecidas suficientes para conseguir el presupuesto?		<ul style="list-style-type: none"> <li>Mecanismo de asignación del presupuesto</li> </ul>			<p>Como se explicó anteriormente, hay alta probabilidad de conseguir el presupuesto.</p>	

<p>5.3 Técnicos (mecanismo para establecer y mantener la técnica)</p>	<p>5.3.1 Nivel de asimilación de la técnica en el personal de la contraparte Grado de estabilidad laboral de la contraparte</p>	<p>• Comparación de la situación anterior y posterior del proyecto • Valor esperado</p>	<p>• Nivel técnico actual • Nivel técnico esperado • Nivel de aprovechamiento de la técnica transferida del proyecto a la contraparte</p>	<p>• La fortaleza del Jardín Botánico es la técnica de siembra, mientras la técnica que se transfirió de Japón es la metodología para el desarrollo local participativo. Por lo tanto en el Jardín Botánico se ve mucha necesidad de adquirir este conocimiento y la transferencia se está llevando a cabo con éxito • El experto japonés realiza capacitación según el grupo objeto, y a la vez se le venido enviando el personal de la contraparte a diferentes cursos de capacitación en Japón, tales como "Teoría y práctica del desarrollo social local participativo" y "Planación y administración de proyectos de desarrollo social local participativo". En el mes de enero de 2008, se realizó actividades de seguimiento del curso de capacitación en Japón en la entidad ejecutora. En esta actividad otros de la contraparte que no han participado en cursos en Japón pudieron observar la discusión. Hay mucha posibilidad de que en el proyecto que realiza el Jardín Botánico para los habitantes se introduzca el desarrollo social local participativo (PLSD). El Jardín Botánico está en proceso de implementación en otras localidades de la metodología PLSD de la Mesa La estabilidad del personal contratado para el proyecto es mayor que los equipos encargados otras localidades</p>
<p>5.3 Técnicos (mecanismo para establecer y mantener la técnica)</p>	<p>5.3.2 Cambio de la capacidad de difusión hacia la población vulnerable incluyendo la población desplazada</p>	<p>• Comparación de la situación anterior y posterior del proyecto</p>	<p>• Nivel técnico actual • Nivel técnico esperado • Nivel de aprovechamiento de la técnica transferida de la contraparte a los beneficiarios finales</p>	<p>El equipo técnico de la Localidad de San Cristóbal ha desarrollado una capacidad de convocatoria y trabajo con comunidad pasando del enfoque individual al colectivo con base en lo organizacional Se espera que el nivel actual técnico del equipo de la Localidad de San Cristóbal se transfiera a los equipos de las otras localidades Esta técnica busca que la comunidad se apropie del proyecto y de la metodología, participando de forma activa en la toma de decisiones con base en sus necesidades, recursos</p>